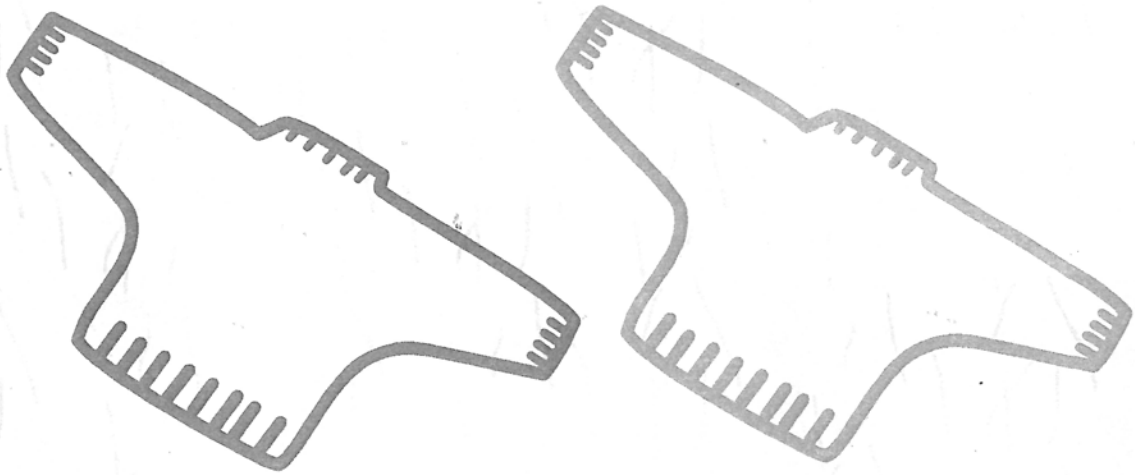


SILVER REED



ガイドブック

LK100T

あみむめも (P's)

PRESENT WITH MY HEART

“あみむめも”です

はじめまして…

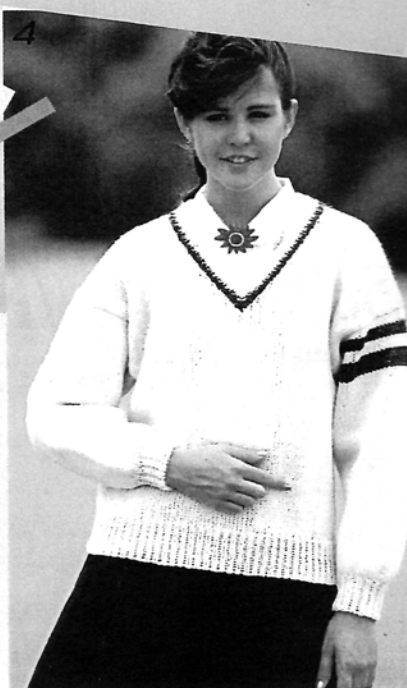
ニットとステキな関係になりたいあなた。あみむめもとこのガイドブックがあなたの強い味方です。

失敗って誰にでもあると思うの。お鍋を焦がしてしまったり、花瓶を割ってしまったり…。数えあげたらきりがなくらい。でも、みんなそうやってうまくなってゆくんです。そこを通り抜けたからステキになれるのです。編み物だって同じこと。初めはうまく編めなにかもしれません。だからと言って途中で投げだしたりしないで!! このガイドブックがあなたを応援します。編み機の説明から、作品を作るテクニックまで、やさしく、ていねいに教えます。ここにある作品が完成する頃には、もう、あなたはあみむめものスペシャリストに!!あとはあなたのアイデア次第。さあ、がんばって!!



あみむめもで編んだ作品たちです。編み方は後のページに詳しく載っています。さっそく編んで着てみましょう!

1. マイベスト……………P.15~20
2. マイベスト・バリエーション……………P.21~23
3. マイセーター……………P.24~34
4. マイセーター・バリエーション……………P.35~40
5. マイカーディガン……………P.41~48

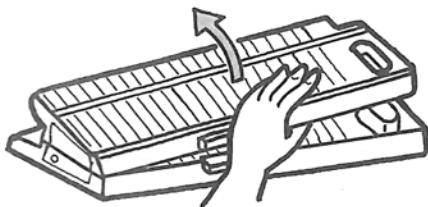


もくじ

編み機の正しいセットの仕方	2	作品をつくるためのテクニック	58
各部の名前とそのはたらき	3	編み目の減らし方	58
本体とキャリジ	3	編み目の増し方	59
付属品	4	引き返し編の編み方	60
編み始める前に知っておきたいこと	5	巻き止め	61
キャリジのはずし方・取り付け方	5	捨て編	62
メリヤス針の位置について	6	捨て編ではずした目を拾って編む場合	62
編み目ダイヤルと糸の太さ	6	段から拾って編む場合	63
段数計について	7	糸のじょうずなつなぎ方	63
さあ 編んでみましょう	8	1目ゴム編の編み始め方	64
作品を作ってみましょう	15	1目ゴム編の編み終りの止め方	65
マイベスト	15	編み地のはぎ方	66
マイベストの応用	21	ゲージの計り方	67
マイセーター	24	手あみの本を参考にして作品を編む場合	68
マイセーターの応用	35	こんなときには	69
マイカーディガン	41	① キャリジが動かなくなったとき	69
模様編の編み方	49	② 編み目をほどこきたい時	69
ガーター編	49	③ 編まないでキャリジを移動させたいとき	70
表目裏目模様	50	④ 編み目が落ちたとき	70
引き上げ編	51	⑤ キャリジを動かすのが重い場合	71
レース編(透かし模様)	52	⑥ 端の目がはずれたり、ところどころ目が浮く場合	72
なわ編	53	⑦ メリヤス針がこわれたとき	72
すべり目編	54	⑧ 編み機がよごれたとき	72
針ぬき編	55		
変りゴム編	56	編み目記号表	73
配色浮き模様	57		

編み機の組み立て方

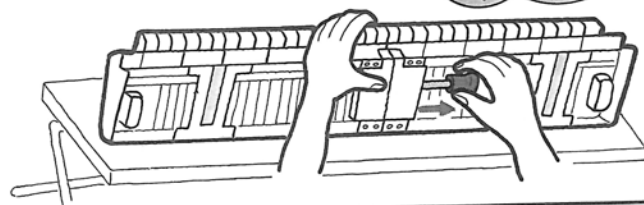
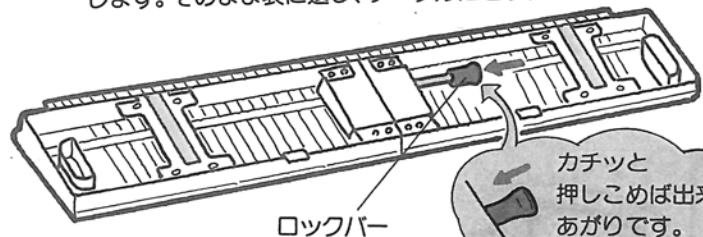
- ① キャリジをはずしてから編み機本体を取り出し、矢印のように回転して伸ばします。



折りたたむときは……

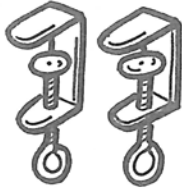
編み機を図のように立てて、ロックバーをいっぱい引き出してから折りたたみます。

- ② 編み機を裏返したまま平らに置き、ロックバーを押し込み固定します。そのまま表に返し、テーブルにセットして使用します。

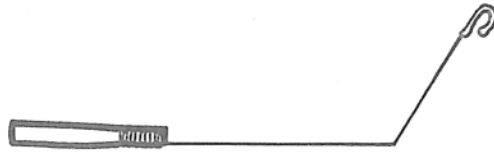


編み機の正しいセットの仕方

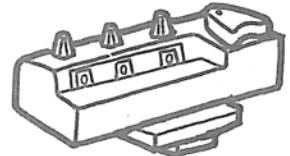
セットするとき使う部品



取り付け金具

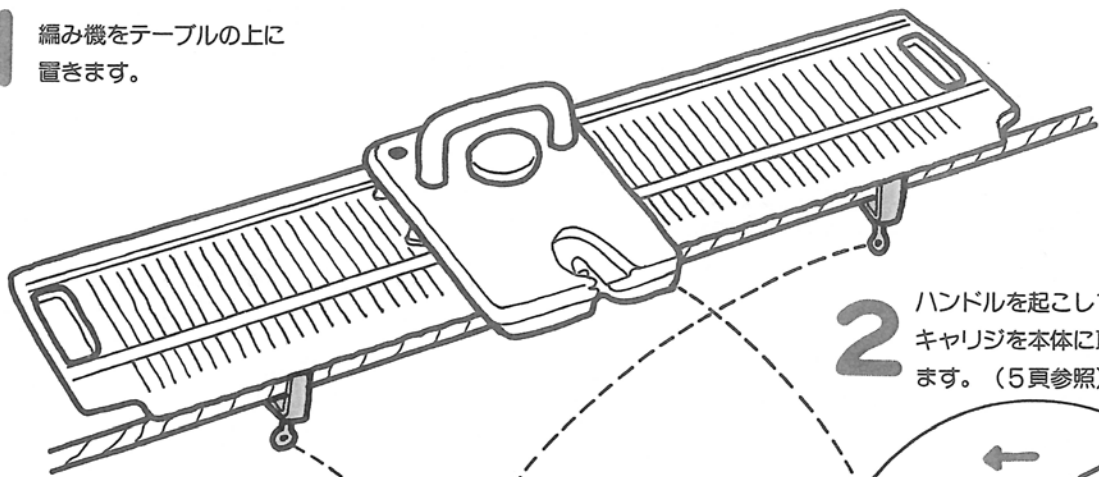


糸調子バネ



段数計

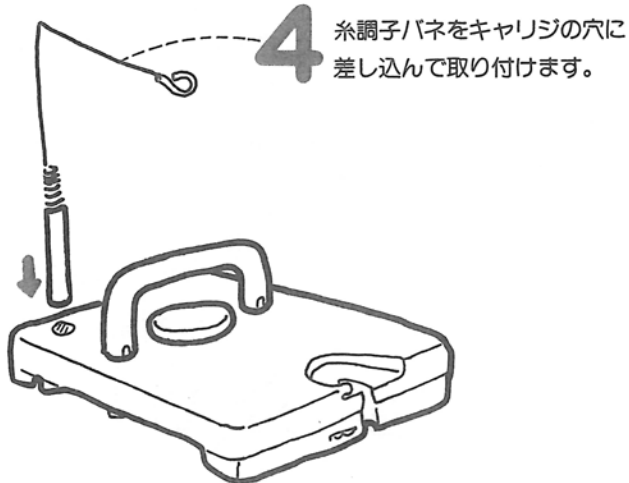
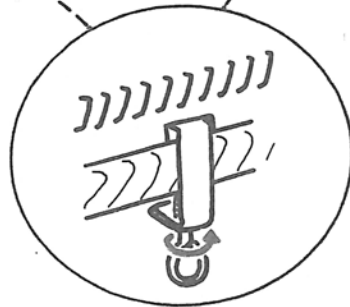
1 編み機をテーブルの上に置きます。



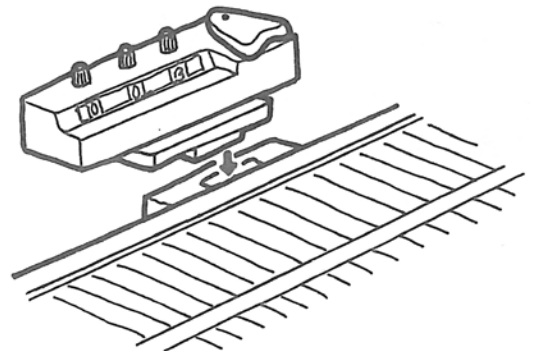
2 ハンドルを起こしてから、キャリジを本体に取り付けます。(5頁参照)



3 取り付け金具で編み機をテーブルに固定します。

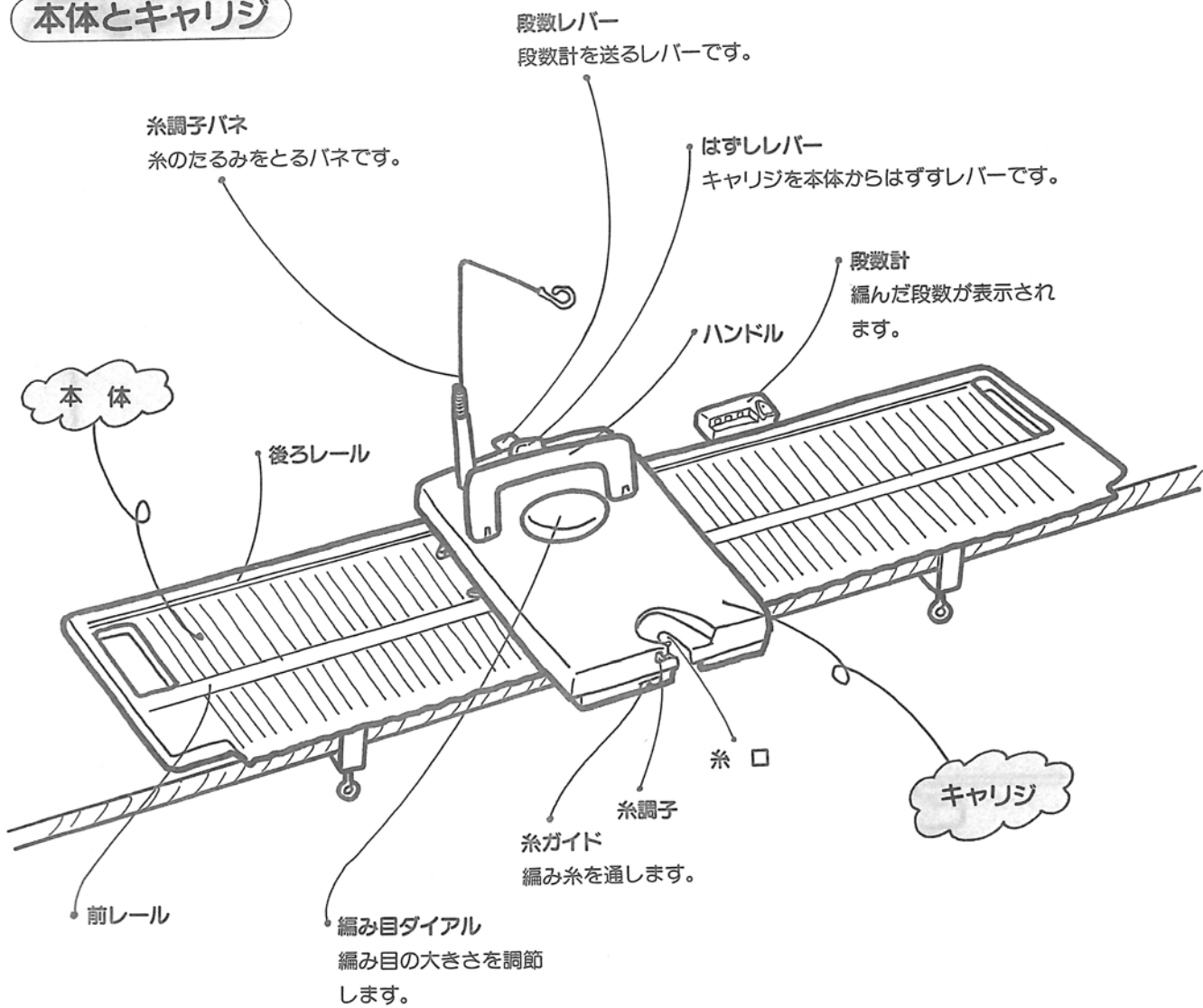


5 段数計を取り付けます。(取り付けところが、左右にありますのでそのどちらかに取り付けてください。)

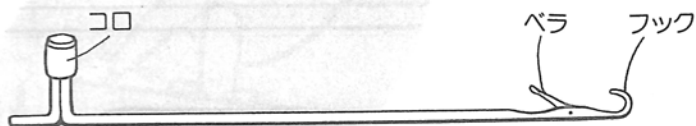


各部の名前とそのはたらき

本体とキャリジ



(メリヤス針のかたちと名前)



(このガイドフックの中で針というのはメリヤス針のことを言います。)

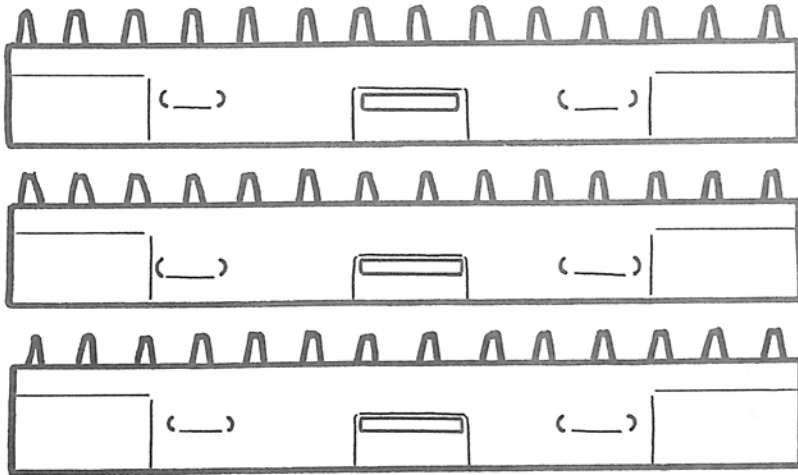
早く名前をおぼえてネ!



付 属 品

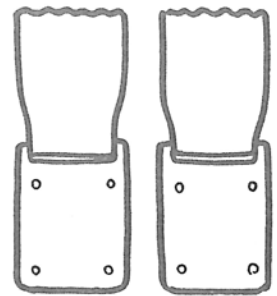
付属品はなくさないように、まとめておきましょう。
小さな箱に入れて、いつでも取り出せるようにすると便利です。

付属品はなくさないようにネ!



編み出し板(3本)

編み出しをするときに使います。また針から編み目がはずれないようにおもりの役目もします。



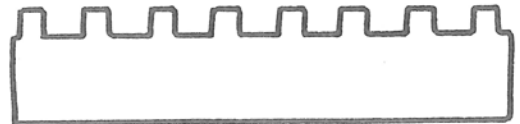
オモリ(2コ)

編み地の両端にかけます。



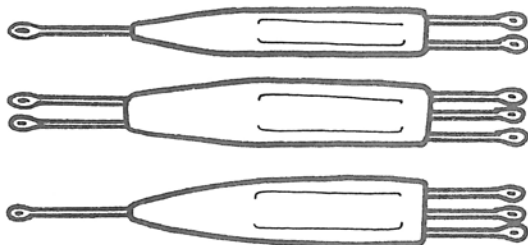
ジョイント(2コ)

編み出し板をつなぐときに使います。



針出し板(柄板)

針の位置をそろえるときに使います。



ウツシ

編み目を移動するときに使います。



タツビ

編み目をなおすとき、ゴム編をするときに使います。



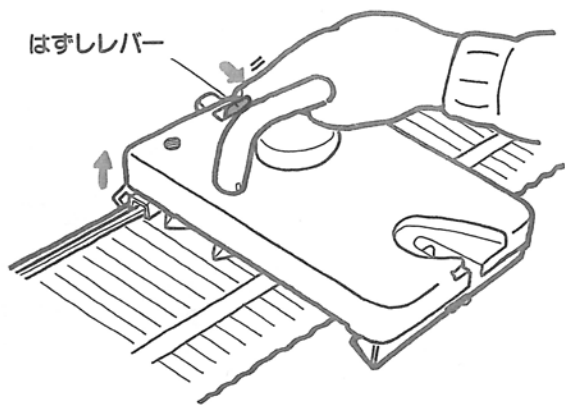
トジ針

編んだものを、とじはぎするときに使います。

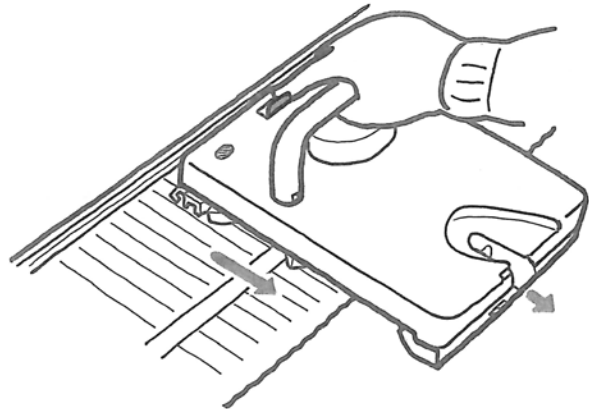
編み始める前に知っておきたいこと

キャリジのはずし方・取り付け方

キャリジのはずし方



1 はずしレバーを手前におさえながらキャリジの後ろを少し持ち上げます。

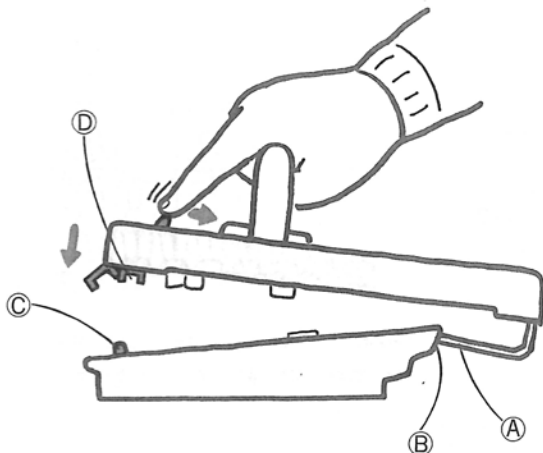
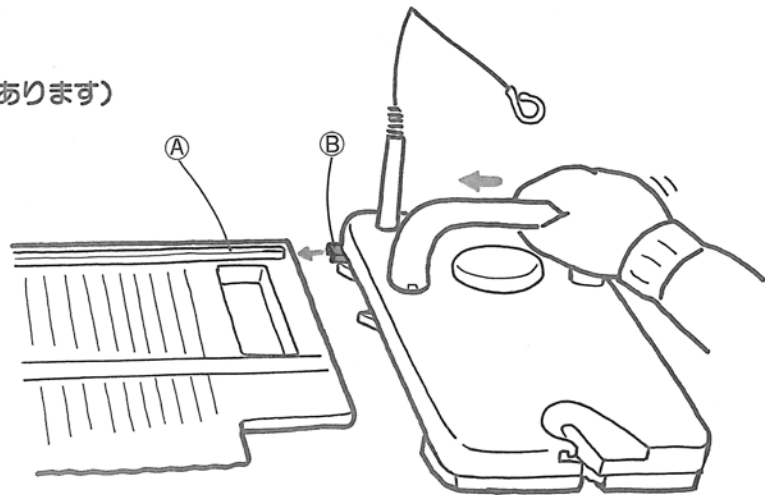


2 そのままキャリジを手前の方にずらすとはずれます。

キャリジの取り付け方 (㊶と㊷の方法があります)

(㊶の方法)

後ろレール㊶に、キャリジの㊷の部分に合わせて、キャリジを水平に差し込みます。



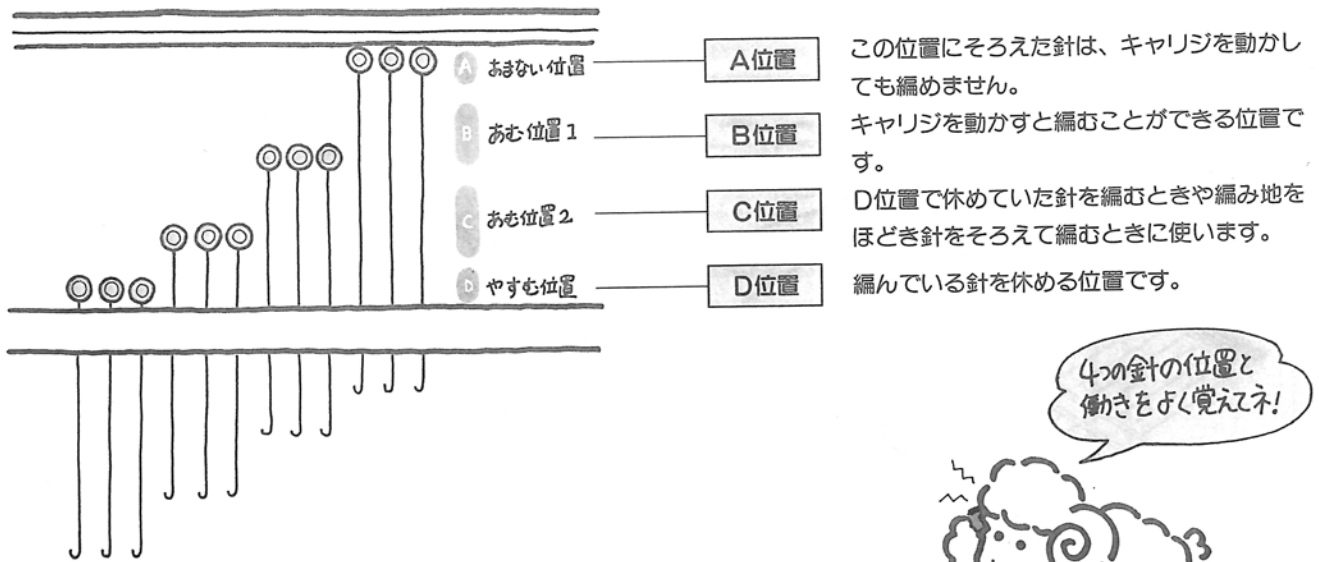
(㊷の方法)

はずしレバーを手前におさえながら、キャリジの㊸の部分を本体の㊹の部分に合わせ、次に後ろレール㊺にキャリジの㊻の部分に合わせて、矢印の方向におろします。この方法は針がA位置にあるところで行ないます。

メリヤス針の位置について

編み機の両端には4つの位置が書いてあります。

この4つの位置の動きを覚えて針はきちんとそろえましょう。



A位置

この位置にそろえた針は、キャリジを動かしても編めません。

B位置

キャリジを動かすと編むことができる位置です。

C位置

D位置で休めていた針を編むときや編み地をほどき針をそろえて編むときに使います。

D位置

編んでいる針を休める位置です。

4つの針の位置と働きをよく覚えろ!

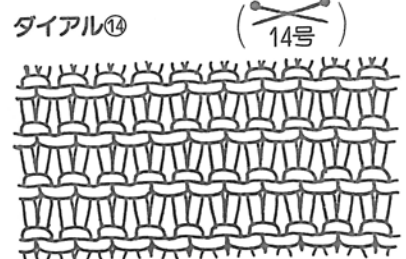
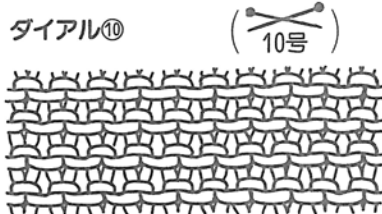
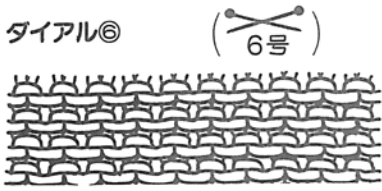


編み目ダイヤルと糸の太さ



- 編み目ダイヤルは、編み目の大きさを調節するダイヤルです。大きな数字に合わせる程、編み目も大きく（ゆるく）編め、小さくする程、小さく（きつく）編めます。
- 6から14までの数字は、棒針の号数に合わせた数字になっています。（例えば、棒針の10号で編むと丁度よい糸を、“あみむめも”で編む場合は、ダイヤルを10にして編めば、大体同じように編めるということです。）

☆ ▲印に選んだダイヤル数を合わせます。

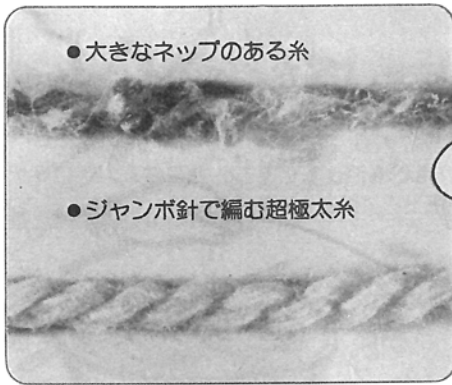


- 新しく編む糸が、どれ位のダイヤル目盛にしてよいかわからないときは、その糸のラベルに表示されている編棒の号数と同じ数にダイヤルを合わせて、試し編をします。風合いを確かめてから、正式に編み目ダイヤルを決め、ゲージを計ります。(ゲージの計り方67頁参照)

(糸の種類と編み目ダイヤル)

糸の種類	編み目ダイヤル
(細め)	6~8
極太糸 (普通)	8~10
(太め)	10~12
超極太糸	12~14

- 棒針の号数表示がない糸の場合は、左表を参考にして編み目ダイヤルを決めてください。
- 編み目ダイヤルと糸の太さが、つり合っていないと、編み地の風合いが悪くなるばかりでなく、キャリジの操作が重くなり、ひどい場合は、編めなくなります。いつも適正なダイヤル目盛で編むようにしましょう。



●大きなネップのある糸

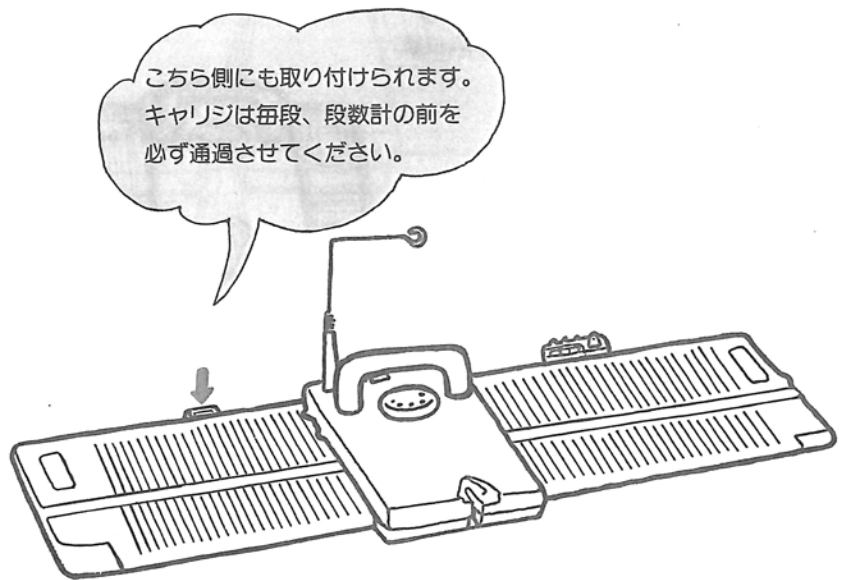
●ジャンボ針で編む超極太糸



段数計について

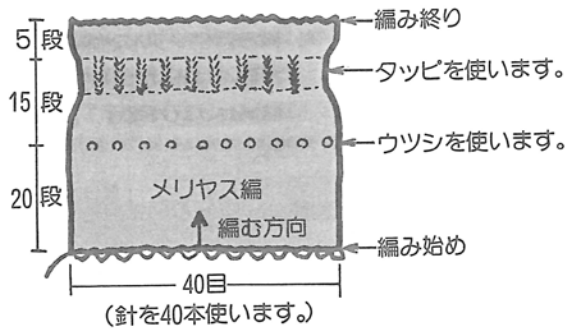


- 段数計は編んだ段数（キャリジを動かした回数）だけ数字を送ります。



さあ 編んでみましょう

- 練習のために、右の図のようなものを編みます。
- 極太毛糸（棒針8～10号で編む糸）を1玉（50g）用意してください。



さあ、いよいよ編みますよ。



①毛糸をほぐします

毛糸は、玉巻きや、かせのまま使わずに、図のように、かごや空き箱などにほぐして入れておきます。

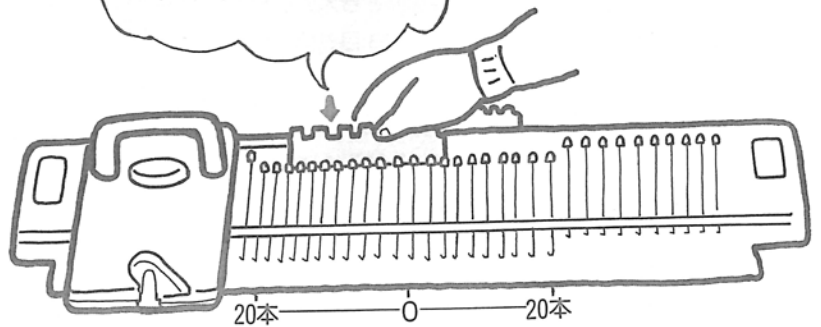
玉巻きのまま使わないでください。



②編む位置にメリヤス針を出します

これから編む針40本を、図のようにB位置に出します。（その他の針はA位置におきます。）

針出し板を使ってB位置に針を40本出しましょう。

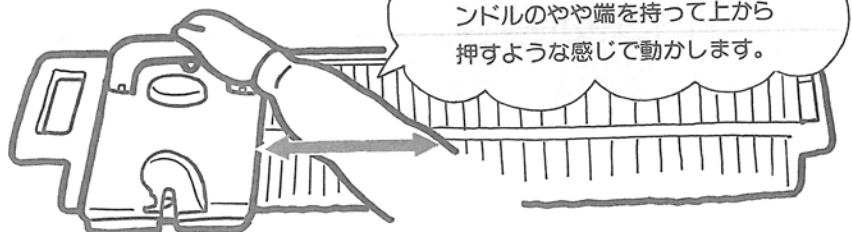


キャリジは左側におきます。

③キャリジを左右に動かしてみよう

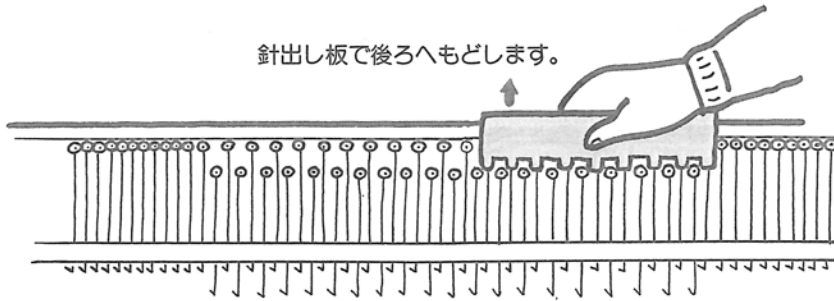
ゆっくり2～3往復してください。

キャリジの持ち方は図の様にハンドルのやや端を持って上から押すような感じで動かします。



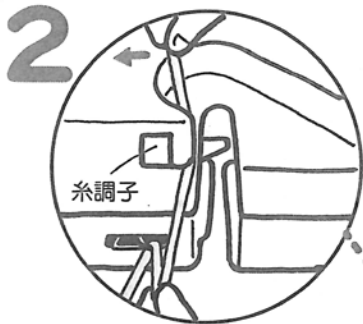
キャリジは必ずB位置に出した針を通りすぎるまで動かしてください。動かした後、キャリジは左側に置きます。

④B位置の針を1本おきにA位置にさげます



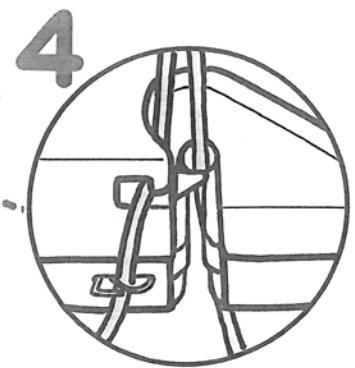
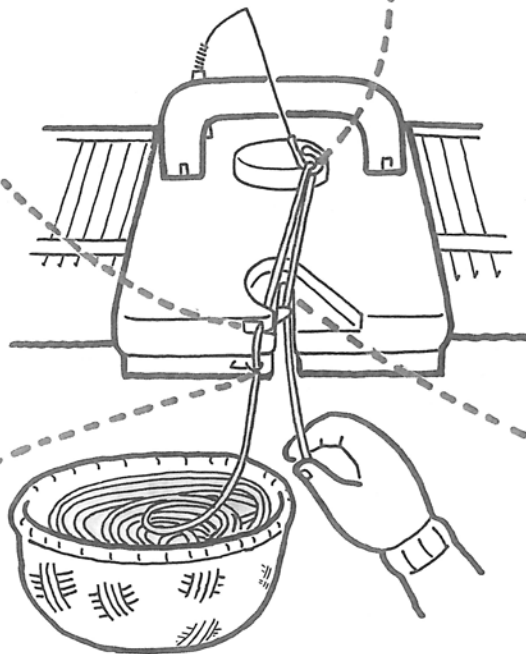
⑤キャリジに糸を通します

キャリジは糸を通すところが4カ所あります。
番号順に通しましょう。



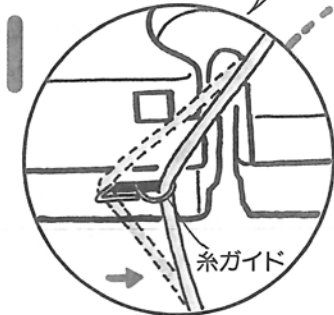
糸調子への入れ方は両手で糸を持ち右側より押しこむように入れます。

3

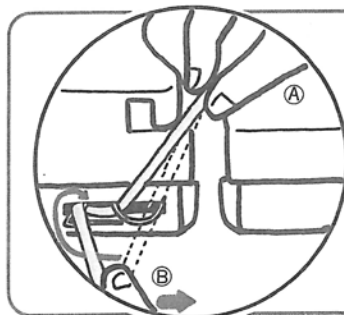


糸口は、一番奥の丸いところまで入れます。

糸端を上にとって下さい。



糸ガイドへの入れ方は両手で糸を持ち左側より軽く引いて入れます。

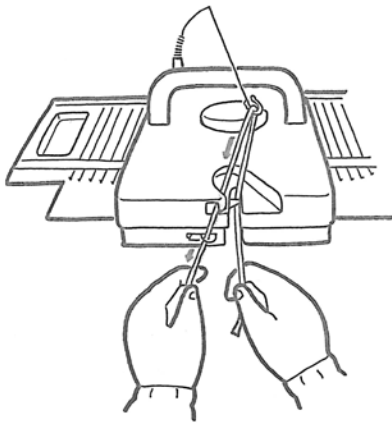


(糸ガイドからの糸のはずし方)

図のように糸を持ち、Aの手はそのままで、Bの手を上を持ち上げフックにかけ右に引きます。

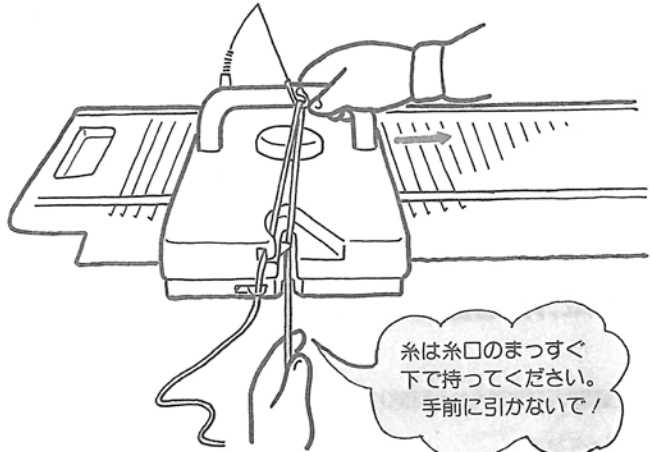
⑥キャリジをゆっくり動かして1段編みます

1 キャリジを動かす前に、糸のたるみを取ってください。



右手で糸端を押さえたまま左手で糸を引っ張ります。

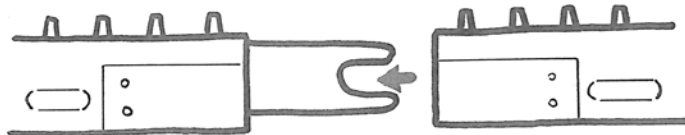
2 キャリジをゆっくり左から右へ動かします。糸が針にかかります。



糸は糸口のまっすぐ下で持ってください。手前に引かないで！

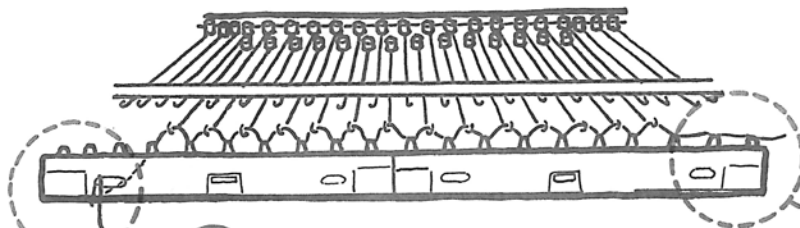
⑦編み出し板を下げます

編み出し板は3本に分かれていますので、目数に応じてジョイントさせて使います。ここでは40目を編みますので2本をジョイントさせます。

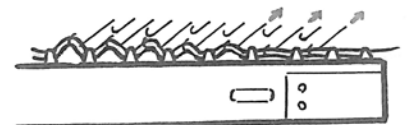


編み出し板のジョイントの仕方

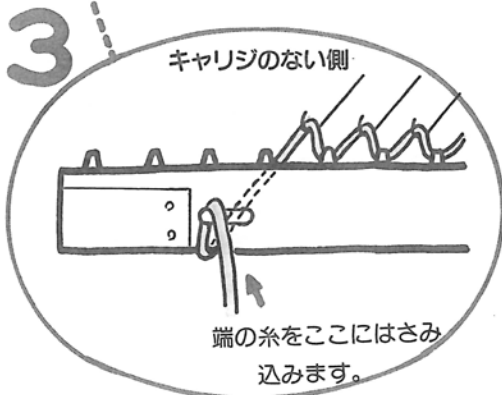
始めに、編み出し板にジョイントを奥まで差し込みます。それにもう1本の編み出し板をつなぎ合わせます。



2 2本つないだ編み出し板を、針にかかっている糸にかけます。

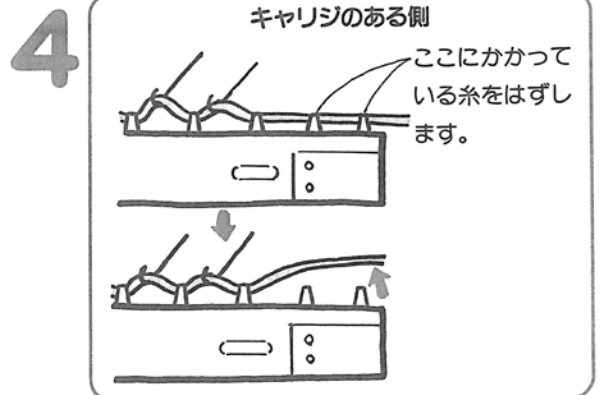


編み端の糸がつれて針がB位置より前に出て来た場合B位置にそろえてください。



キャリジのない側

端の糸をここにはさみ込みます。

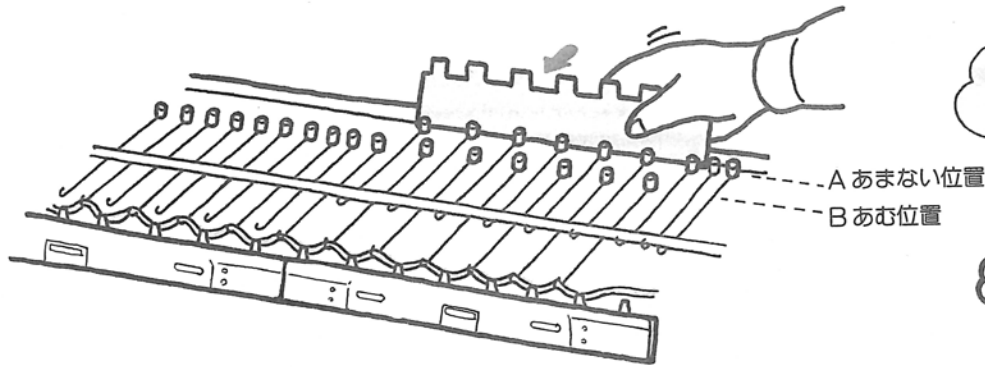


キャリジのある側

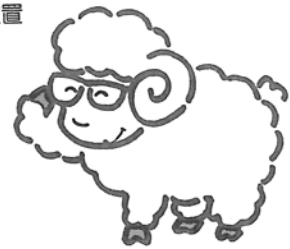
ここにかかっている糸をはずしません。

⑧ A位置に戻した針をB位置に出します

前にA位置に戻した針を針出し板の平らな方でB位置にそろえます。

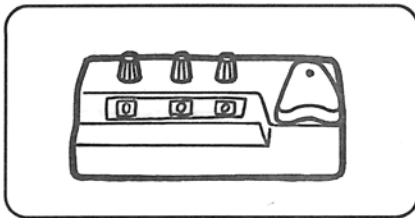


40本の針が全部
同じ位置にそろいましたか?



⑨ キャリジを往復させて編みます(メリヤス編が編めます)

これから段数を数えながら編みますので
数字を“0”に合わせます。



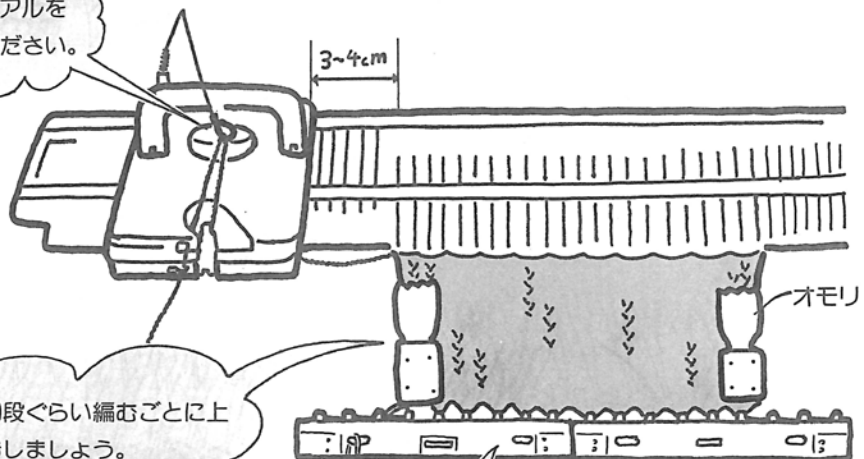
2 ゆっくりと平均した速さでキャリジを動
かして編み始めます。

- 3段ほど編んだら編み地の両端にオモリ
をかけてください。
- 20段編んでください。

★ キャリジは編み地の両端の針から完全にぬける
まで(3~4cmはなれるまで)動かしてからも
どしましょう。

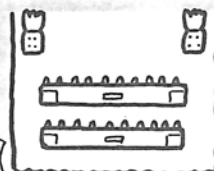
編み目ダイヤルを
確認してください。

おもりは20段ぐらい編むごとに上
にかけなおしましょう。



- 編んでいる途中でキャリジが動かなくな
ったときや、編めないときには
無理に動かさないで69ページを見て
ください。
- 編んでいる途中でキャリジをもどす
と、編み目が落ちるのでもどさない
ようにしましょう。

編んでいる途中で編み出し板がはず
れたときは上の方にかけなおしまし
よう。



編み出し板が長
くてかけづらい
時は、連結をは
ずして、たてに
並べてかけます。

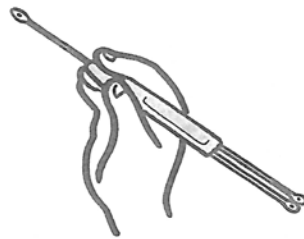
⑩ウツシを使ってみましょう

- ウツシは、編み目を他の針に移して、増し目や減らし目をしたり、落ちた編み目を拾ったり、すでに編まれた編み地を再び針にかけるとき等にも使います。その他、なわ編や、穴あき模様、ボタンホール等をするときにも使います。ウツシを使いこなすことは、編機を使う上でとても重要なことです。早くこの使い方に慣れるように、何回も練習してください。

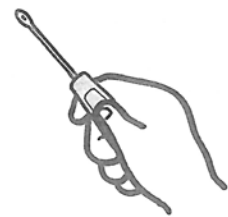
「あみあみむ」を使いこなすための大切なテクニックですよ。



ウツシの持ち方は、右図のように大体2つの形があります。どちらの場合も手首と指が自由に動くように軽く持ってください。

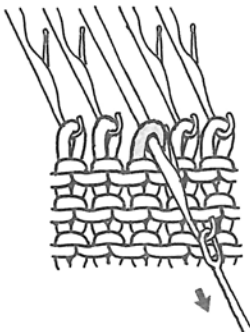


(エンピツを持つような感じで)



(柄をにぎるような感じで)

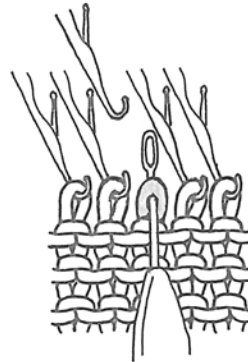
2 ウツシで3目おきに1目ずつ目を移します。まず、左から3番めの目を左隣の針に移します。



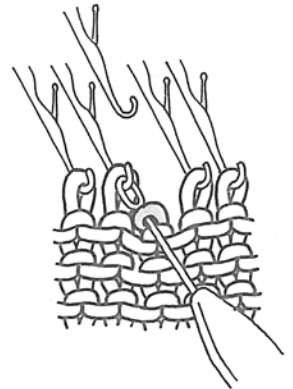
①ウツシの先をフックにかけ針を水平に手前に引き出します。



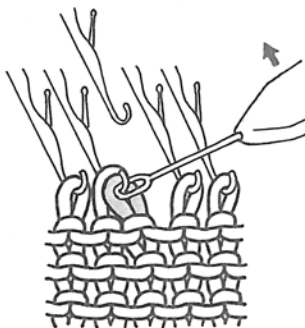
②そのまま押し戻しますと、編み目はウツシに移ります。



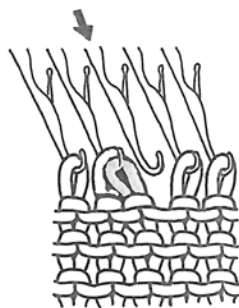
③ウツシの先をフックからはずします。



④ウツシの先を上向けたまま、手前横に移動して、隣の針のフックにかけます。

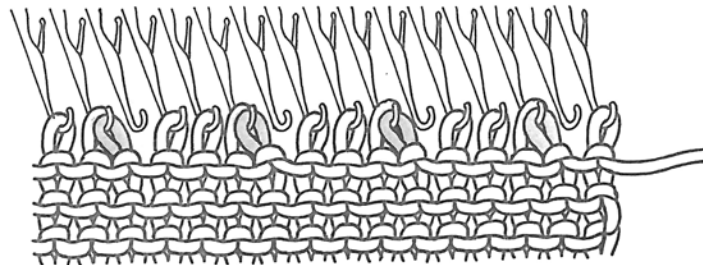


⑤フックにウツシをかけて針をすこし引き出しながら、上に持ち上げて目を移します。



⑥目が図のように移りましたら、空になった針と、移された針をB位置にそろえます。

3 以後順に3目おきに編み目を隣の針に移していきます。



右端から2番めの目まで移します。(全部で10目移します)

4 続けて15段編みます。目を移した部分が丸い穴になりましたね。

⑪ タツピを使ってみましょう

- タツピは編み目がほどけてしまったり直すときや、ゴム編、ガーター編、表目裏目の模様などで、裏目を表目に直すのに使います。ウツシと同様に作品を作る上でなくてはならない道具です。早く慣れるようにしてください。

2 タツピで、裏目を表目に直します。(このようにすることを「タツピ返し」と言います。)

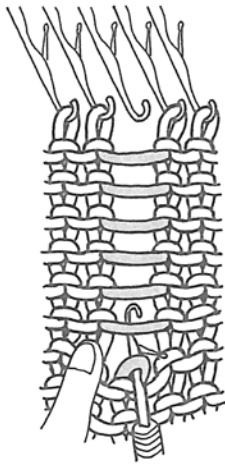
ここでは、編み目を6段ずつほどいて、これを表目に直します。(3目おきにします。)

まず左端から3目とばして4目めから始めます。(オモリや編み出し板がじゃまなときははずします。)

針をD位置へ出し、B位置へもどすとはずれます。



①タツピ返す目の6段下の目にタツピを入れておいてから目をはずします。



②タツピを入れたところまで編み目をほどきます。

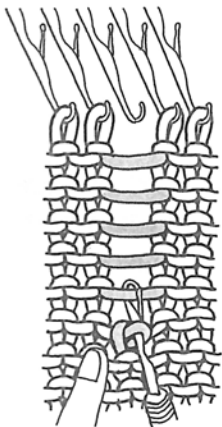
編み地を手で下に引っぱって動かないようにします。



③タツピを奥に差し込んでから、タツピのフックを横に渡っているすぐ上の糸にかけます。



④そのままタツピを手前に引き出します。表目が1目出来ます。

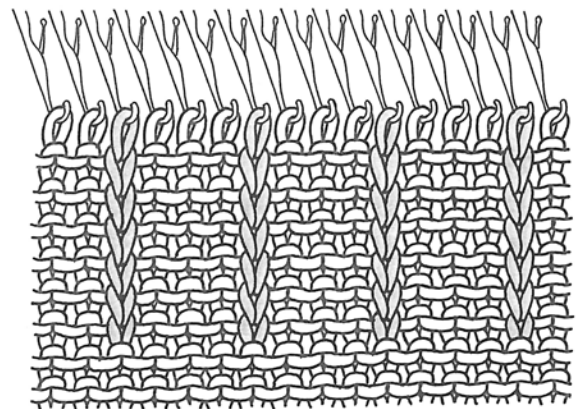


⑤同じように③～④の操作をくり返して、一番上まで表目に直します。



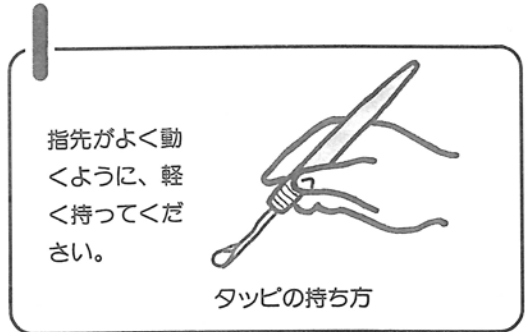
⑥最後の目はベラの後ろへ移してから、タツピの先を横にしてメリヤス針にかけ、編み目を移します。

3 以後順に、3目とばして4目めの目をタツピ返していきます。



右端から5番めの目までタツピ返しします。(端の目はタツピ返ししません。)

4 続けてメリヤス編を5段編みます。(編む前に編み出し板とオモリをつけ忘れないようにしましょう。)

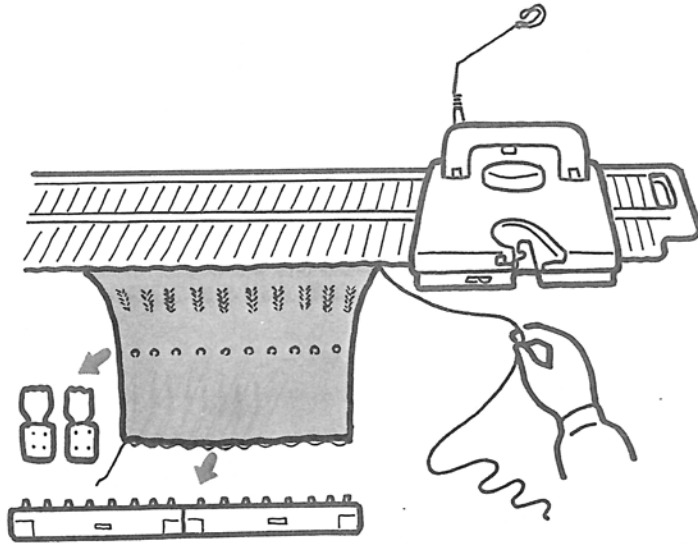


指先がよく動くように、軽く持ってください。

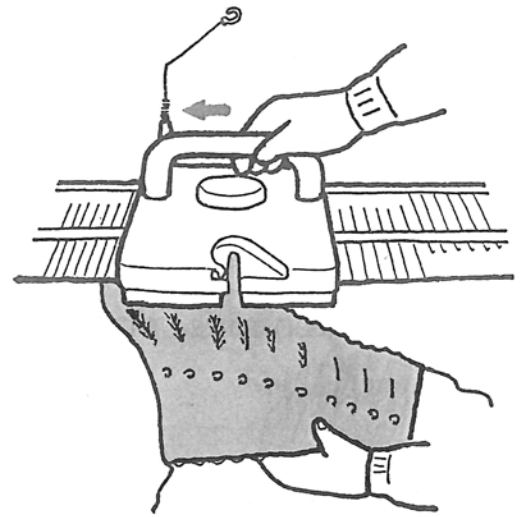
タツピの持ち方

⑫編み地を編み機からはずします

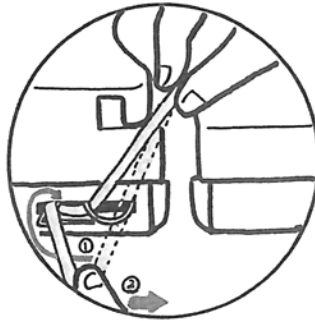
- 編み出し板とオモリをはずします。
- キャリジから糸をはずします。



- 2 キャリジを1回動かすと編み機から編み地がはずれます。



糸ガイドからの糸のはずし方



これで編む練習が
終わりました。
もし、自信がなかったら編み地を
ほどいてもう一度編んでみてね

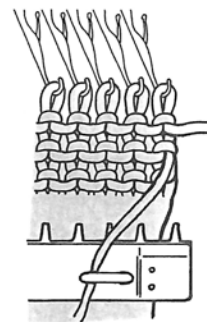


●途中で糸がなくなりそうになったら

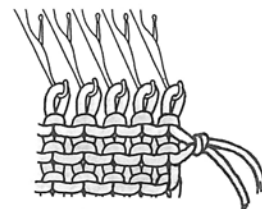
早めに新しい糸につないでおいてください。
編み機で編む場合には、糸がなくなったのを知らずにそのまま編んでしまうと、編み地が一度に全部はずれてしまいます。そのようなことがないように、いつも早めに糸をつなぎ足しておきましょう。
糸のつなぎ方は63頁をみてください。

●糸交換のし方

色や、種類の違う糸に交換して編む場合や、糸のつなぎめを編み地の中に入れてたくない場合には、この方法で新しい糸に変えます。
糸交換する段へきましたら、キャリジを端で止めて糸口の糸をはずします。はずした糸は、編み目がゆるまないように、編み出し板の糸かけにはさんでおきます。キャリジに新しい糸を通して1段編みます。編み出し板にかけてある糸をはずして2本の糸端をゆるまないように軽く結んでおきます。



交換してはずした糸は、編み出し板にはさんでおき、新しい糸で1段編みます。

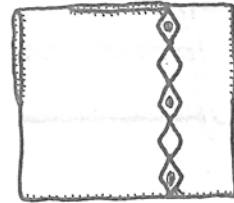


2本の糸端は軽く結んでおきます。

作品を作ってみましょう

MY VEST

(マイベスト)



用意するもの

毛糸 (ダイヤセブン) … 250g
 テラックス)
 カギ針 … 7/0号
 捨て編用の糸 … 残り糸少々
 刺しゅう用の糸 … 少々

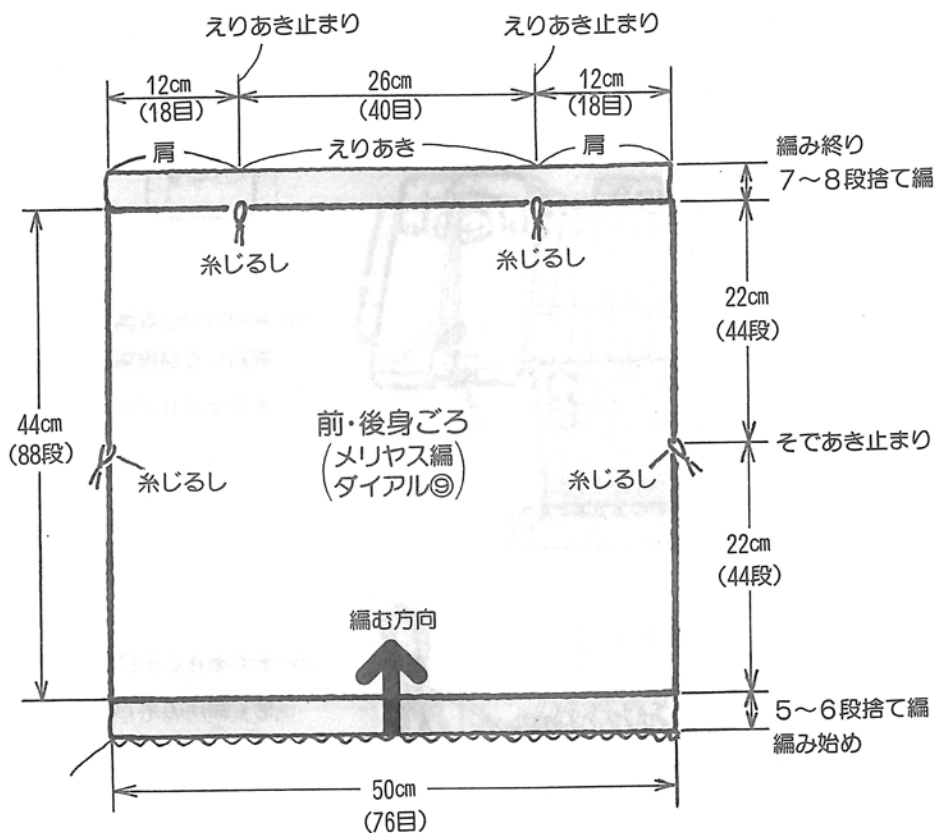
ゲージと出来あがり寸法

メリヤス編
 編み目ダイヤル … ◎
 ゲージ … 15目 } 10cm角
 20段 }

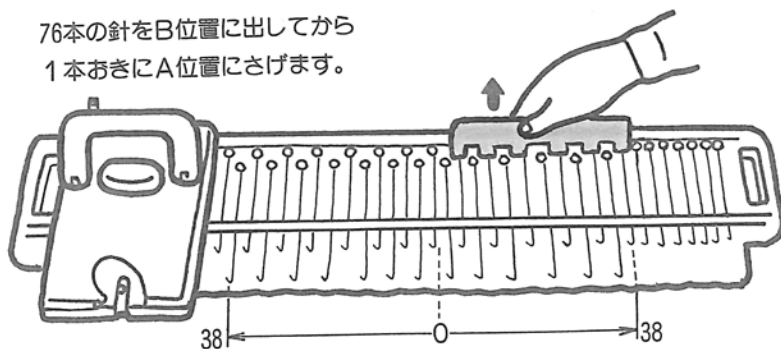
出来あがり寸法

胸囲 … 100cm
 たけ … 44cm

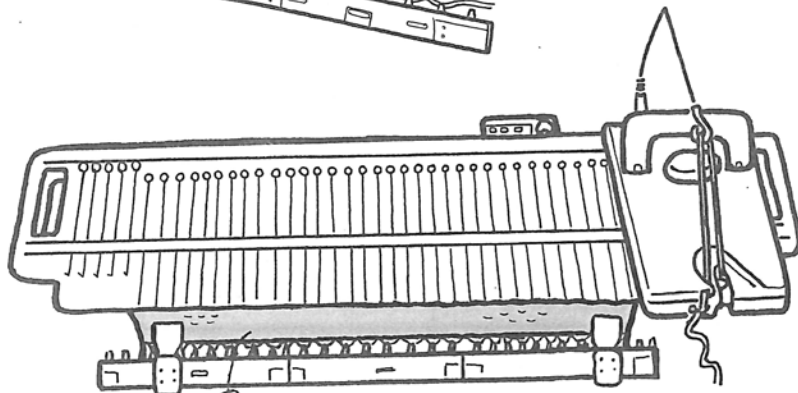
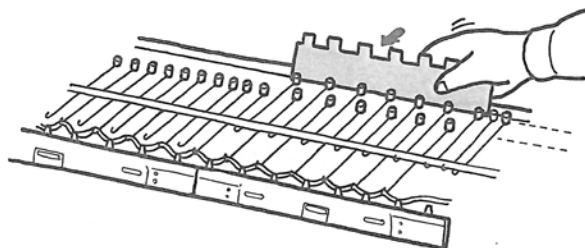
前・後の身ごろを編みましょう (前・後同じものを2枚編みます。)



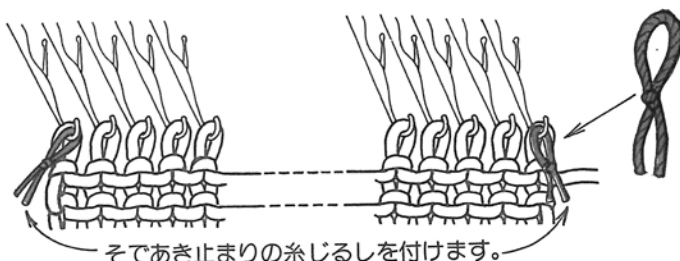
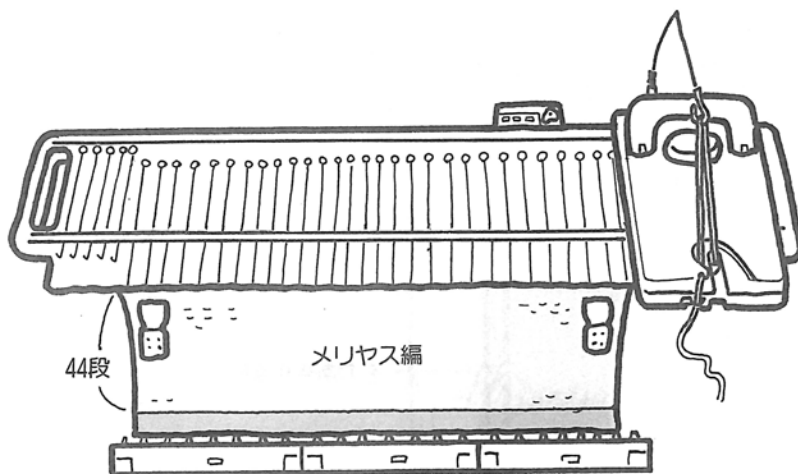
76本の針をB位置に出してから
1本おきにA位置にさげます。



0を中心にして左右に出してください。



捨て編を5～6段編みます。



そであき止まりの糸じるしを付けます。

① 針を編み始めの位置に出します。

身ごろの幅の目数が76ですので、その針数だけ針をB位置に出し、更にそれを1本おきにA位置にさげます。

② 捨て編用の糸で編み出し、捨て編を5～6段編みます。

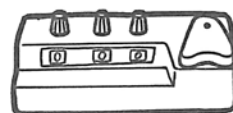
捨て編用の糸をキャリジに通して1段編みます。編み出し板を掛けて、残りのA位置の針をB位置に出します。

そのまま捨て編を5～6段編み、キャリジを右側で止めます。

編み終わった捨て編糸はキャリジからはずして切り、編み終りの目がゆるまないように、編み出し板の糸かけにはさんでおきます。

③ 段数計を0に合わせます。

④ キャリジの編み目ダイヤルを③に合わせます。

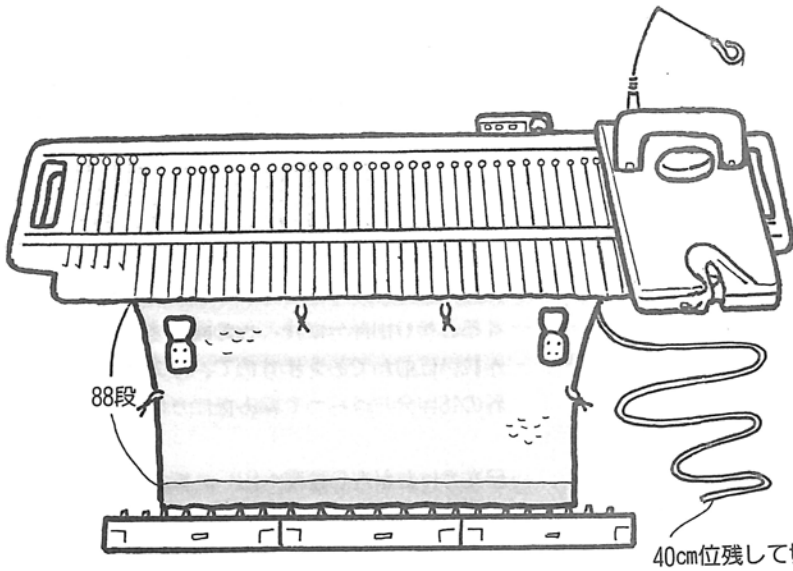


⑤ キャリジに本編み用の糸(セブンテラックス)を通して44段編みます。

そであき止まりまで編めました。

⑥ そであき止まりの糸じるしを付けます。

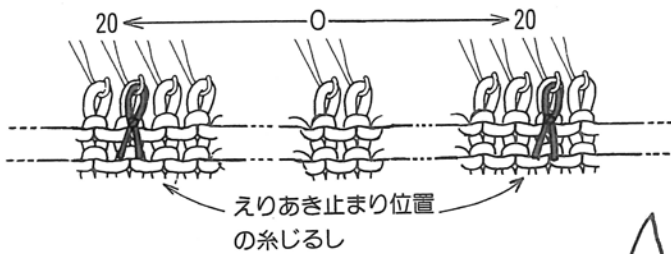
捨て編用の糸で小さな輪を作り、左右の端の針にかけます。



⑦ 続けてそのまま44段編みます。

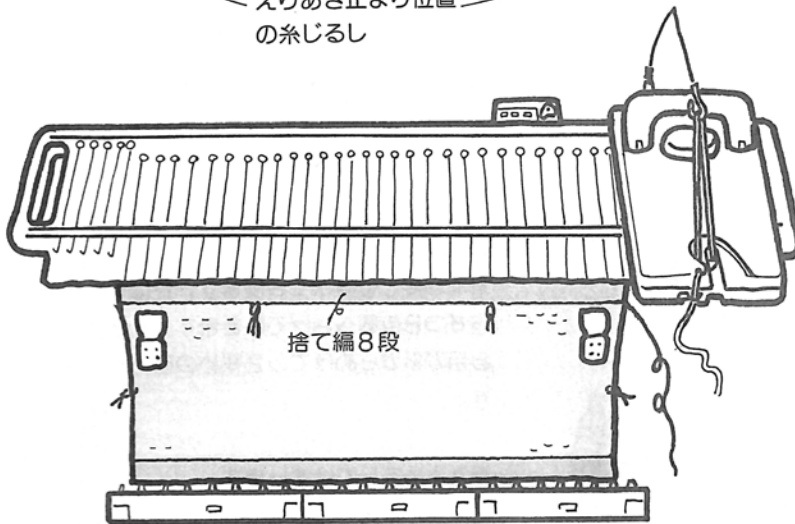
44段編むと、段数計の表示は0になりましたね。これで身ごろの部分は編み終わったことになります。

キャリジから本編用の糸をはずし、編み終りの糸は、肩はぎ用に、40cmくらい残して切ります。



⑧ えりあき止まりの糸じるしを付けます。

えりあき部分の左右の端の針（0から左右に20番めの針）に糸じるしの輪をかけます。



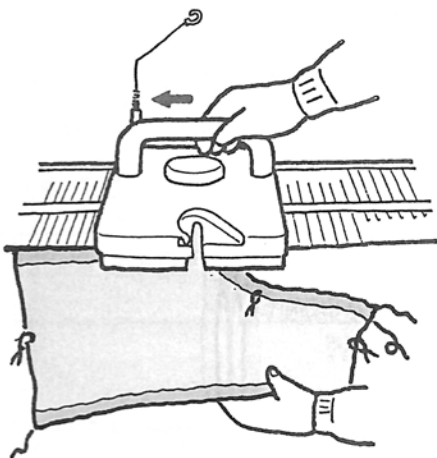
⑨ 編み終りの捨て編をして編み地をはずします。

捨て編糸をキャリジに通して、8段編みます。キャリジから糸をはずして1段編み、編み地をはずします。

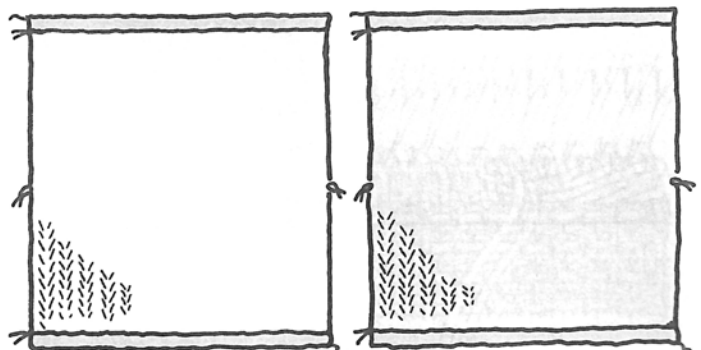
これで身ごろが1枚編みあがりました。

⑩ もう1枚、同じ方法で身ごろを編みます。

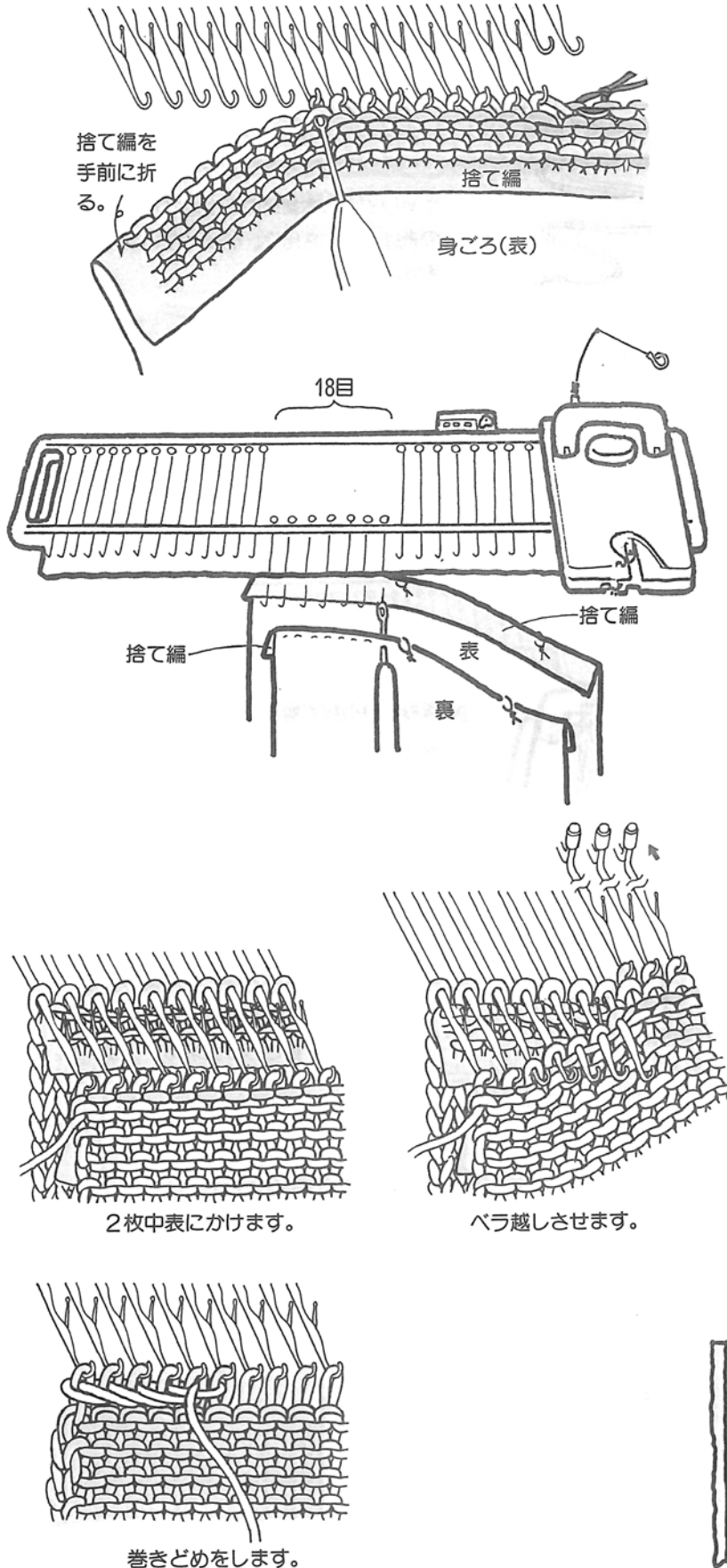
これで、前後の身ごろが出来あがりました。



♥ 前・後の身ごろが編めました ♥



肩をはぎ合わせましょう



- ① 1枚めの身ごろの肩の目を拾って編み機にかけます。

1枚めの身ごろを表の方を手前にして持ち、左側の肩の部分の捨て編を手前に折ります。すると折り山部分に身ごろの編み終りの目がきれいに並んでみえますので、その目を左の肩の18目分だけ拾って編み機にかけます。

目をかけた針をD位置へ出し、編み目をベラの向うにやります。(このとき、針にかけた目が浮かないように、編み地にオモリをかけると後の作業がしやすくなります。)

- ② 2枚めの身ごろの肩の目を、1枚めに重ねてかけます。

2枚めの身ごろは、裏の方を手前にして持ち、捨て編部分を向う側に折ります。1枚めと同じようにして、左側の肩の目18目を、1枚めをかけた針のフックの部分にかけます。(かけた編み目はベラの向うへやらないこと。)

- ③ 編み目をベラ越させます。

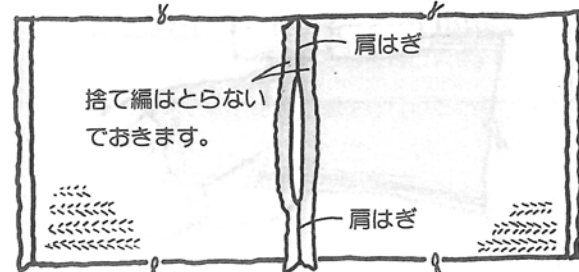
針を一度C位置までさげます。更に端から1本ずつB位置へ上げていきます。1枚めの編み目が針からぬけて、2枚めの目だけ残ります。

- ④ 巻き止めをせずします。

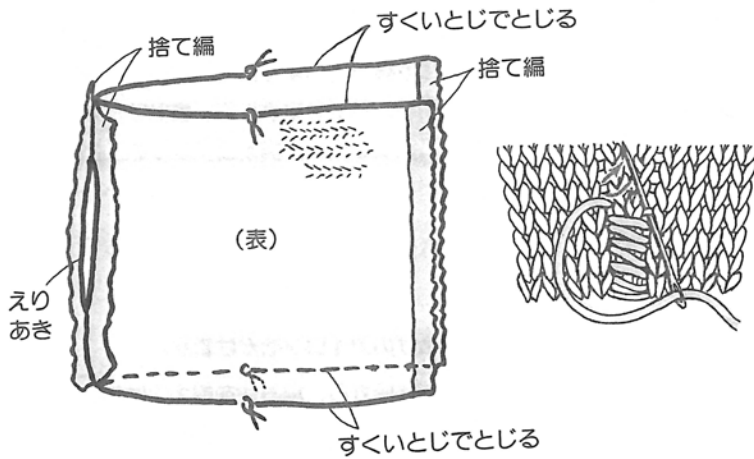
身ごろの編み終りの糸端を、トジ針に通して左から巻き止めをします。(巻き止めの方法は61頁参照)

- ⑤ もう一方の肩も同じようにして、はぎ合わせます。

♥ 肩のはぎの出来あがりです ♥



わきをとじ合わせます



① まず一方のわきをとじます。

表目の方を表側にして肩の部分で折り曲げて重ねます。

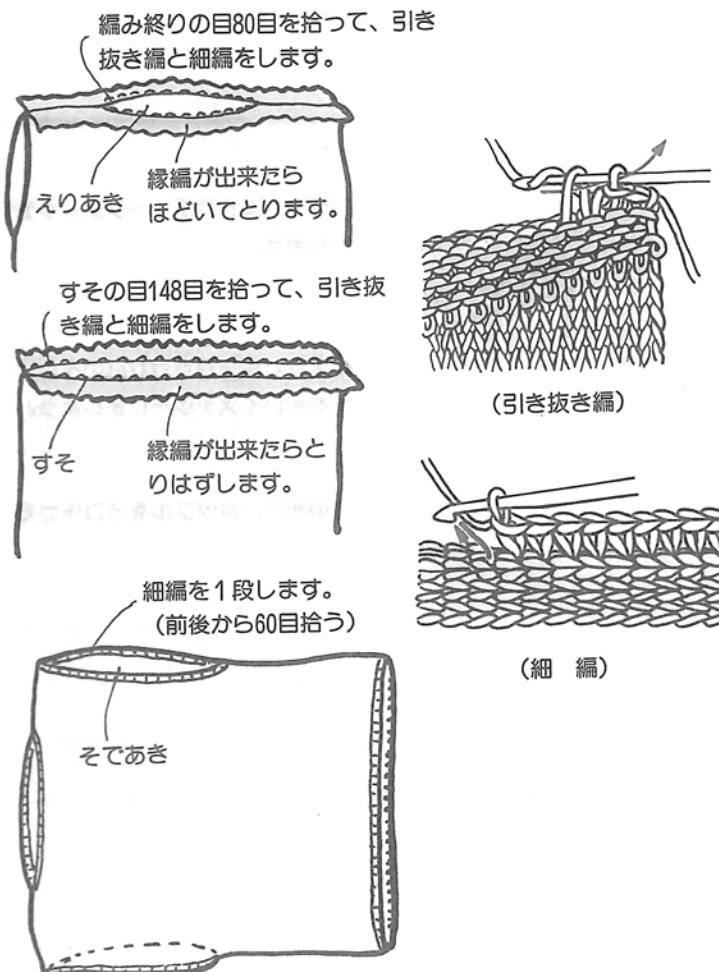
わきのそであきから下の部分をつき合わせに持ちます。

トジ針に糸を通して、すその部分から、そであき止まりの糸じるのしのところまで、すくいとじでとじ合わせます。

(すくいとじの方法は66頁参照)

② もう一方のわきも同じようにしてとじます。

えりあき、すそ、そであきの縁編をして、捨て編をはずします



① えりあきとすそを引き抜き編と細編を1段ずつします。

えりあきの目(80目)を、カギ針で拾って引き抜き編を1段した後、更に細編を1段します。

すそは、身ごろの1段めの下向き目(148目)を拾って同じように、引き抜き編と細編をします。

② そであき部分は、細編を1段します。

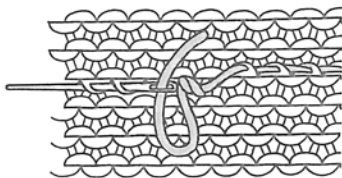
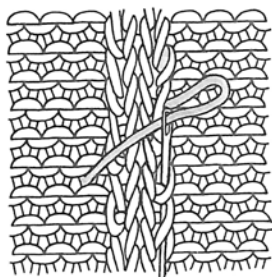
端の1目内側にカギ針を入れて60目分拾って細編を1段します。

③ 捨て編をはずします。

編み終りの捨て編は、端からほどいてとります。

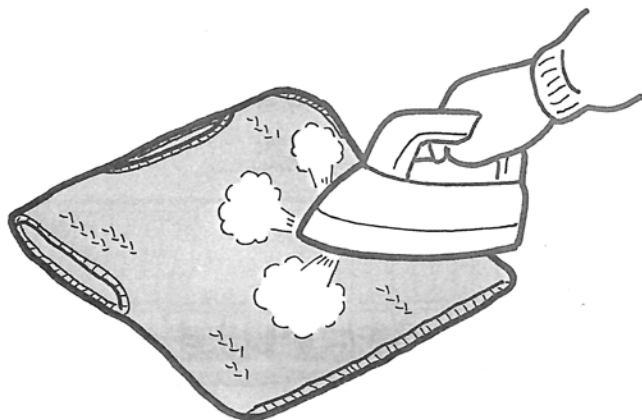
すその編み始めの捨て編は、本編との境目の1段を引き抜いてとり去ります。(62頁の捨て編のところを参照)

仕上げをします



① 糸はしの始末をします。

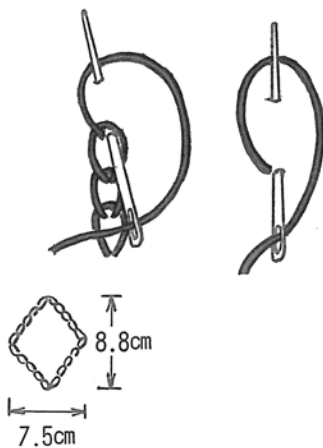
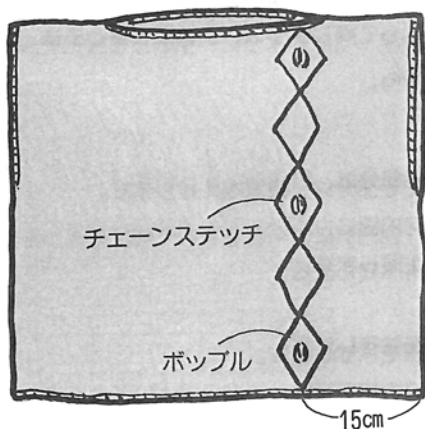
編み始めや、編み終り、糸のつなぎめ等の糸はしが残っていますので、全部5cm位の長さに切り、トジ針に通して、表にひびかないように、とじ代や、編み目からめておきます。



② 仕上げのアイロンをかけます。

まず裏側から、編み地を押えつけないようにしてスチームアイロンをかけます。特にとじ位置はていねいにかけましょう。次に表からもう一度軽く蒸気を当てます。

前身ごろに刺しゅうをします



① 編み上がったベストにチェーンステッチで刺しゅうをします。

配色のよい毛糸又は刺しゅう糸をトジ針に通して、左図のように、ひし形にチェーンステッチをします。編み目がつれないように、ゆるめに糸を引いてステッチしましょう。

② ひし形の中心に、ポップルを3コ作って付けます。

♥ マイベストの出来あがりです ♥

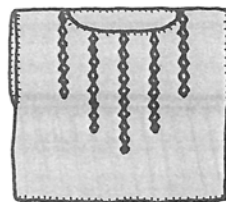


ポップル(3コ)
長編4目の玉編

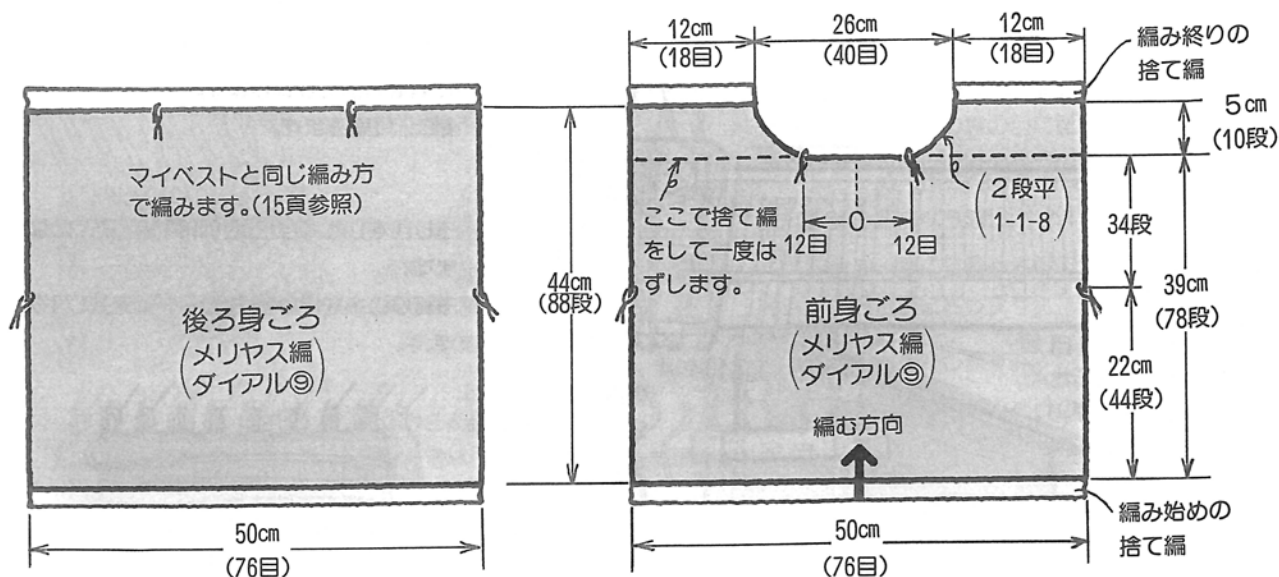
- 刺しゅうの他にも、ワッペンを縫い付けたり、ボタン、リボンなどを自由に飾って、楽しいデザインにしましょう。

MY VEST VARIATION

(マイベスト)
の応用



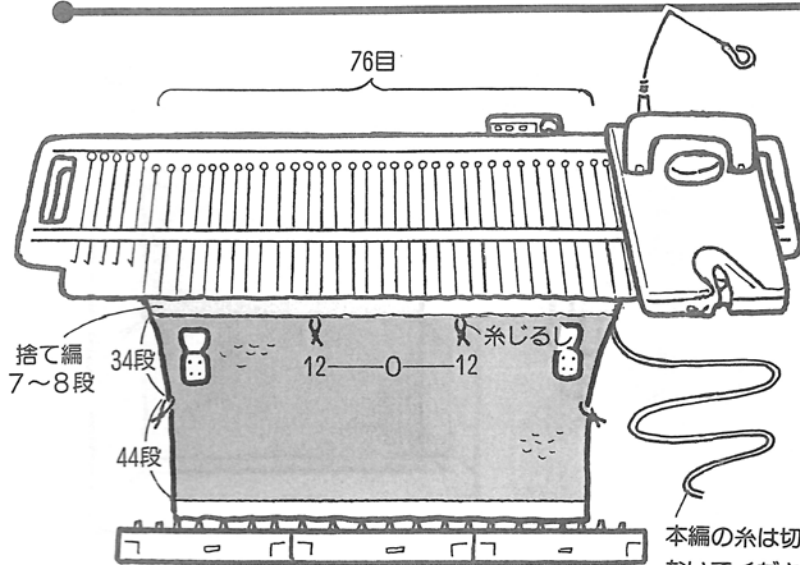
- マイベストに丸くえりぐりをつけた作品です。(編み方もえりぐり以外は同じです。)
- 用意するもの、ゲージ・出来上がり寸法などマイベストと同じです。



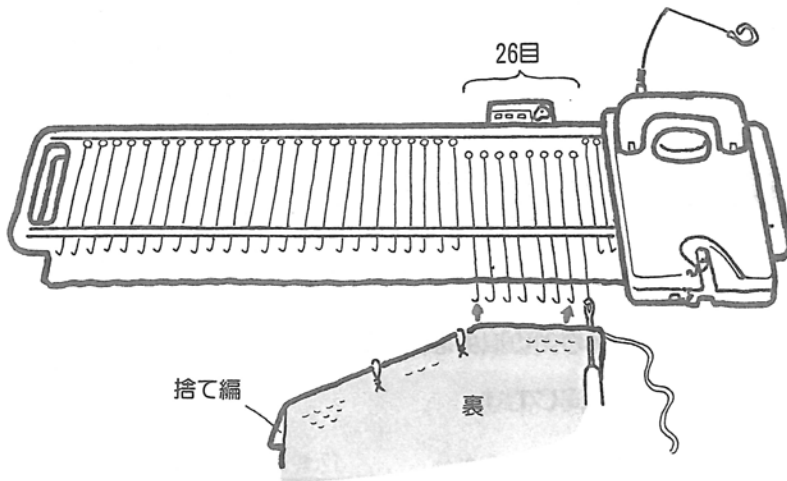
後ろ身ごろを編みましょう

マイベストの身ごろの編み方を参照して、全く同じものを1枚編みます。(15~17頁参照)

前身ごろを編みましょう



- ① 後ろ身ごろと同じに編み出して、えりぐりのところまで編みます。
76目の針を出して、捨て編をしてから本編の糸で44段編み、そであきの糸じるしを付けます。更にえりぐりのところまで34段編みます。
- ② えりぐりの平ら部分に糸じるしを付けます。
中心から左右12番めの針に糸じるしを付けます。
- ③ 捨て編を7~8段編み、編み地をはずします。
えりぐりの部分は、左右の部分を別々に編まねばなりませんので、ここで捨て編をして編み地を全部はずしてしまいます。
はずした本編の糸は切らないでください。



④ 本編の糸が付いている側の糸じるしより外側の目を編み機にかけます。

裏目を手前にして、捨て編部分を向う側へ折り、糸端が付いている側の本編の最後の目から、糸じるしのある手前の目まで、26目を編み機にかけます。

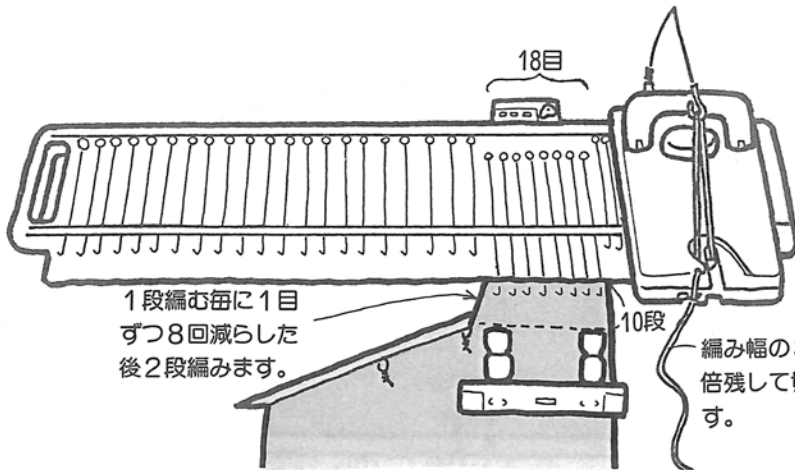
(他の針はA位置へもどします。編み出し板とオモリを忘れずかけてください。)

⑤ えりぐりの減らし目をしながら肩まで編みます。

1段編んで1目減らし目をします。

これを8回くり返します。

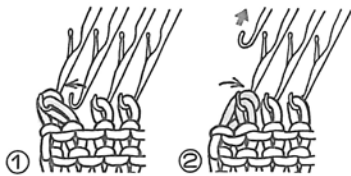
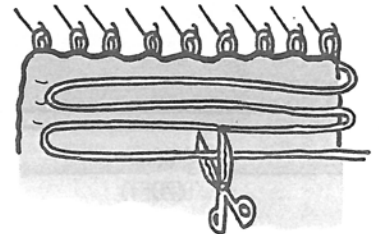
最後に2段編みます。



1段編む毎に1目ずつ8回減らした後2段編みます。

減らし目をしながら合計10段編んだことになります。

編み終りの糸を編み幅の3~4倍残して切ります。



(1目の減らし目)



編み方図に書いてある減らし目の表示の意味は……

(1-1-8)…1段毎に1目ずつ8回

減らし目をする。

(2段平)…何もしないで2段編む。

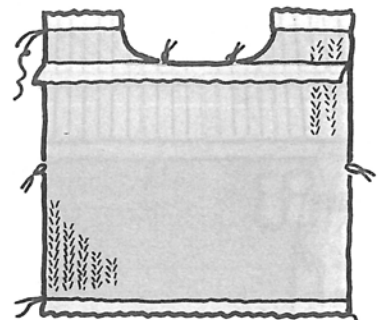
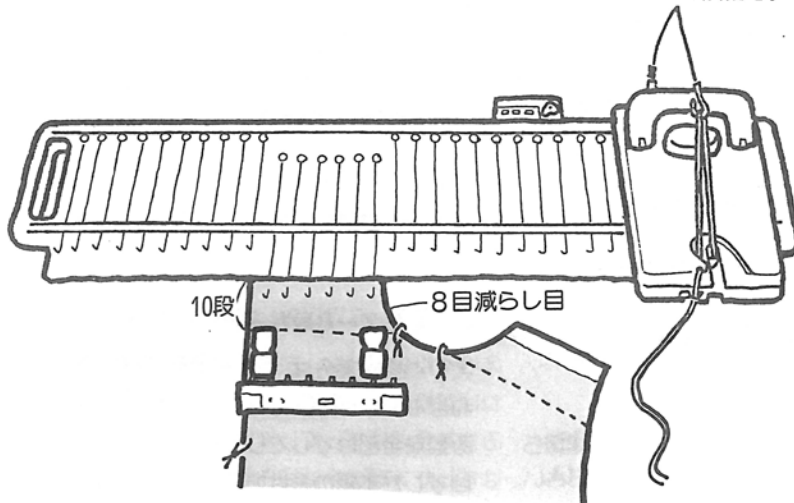
⑥ 捨て編をしてはしません。

⑦ もう一方の肩も同じようにして編みます。

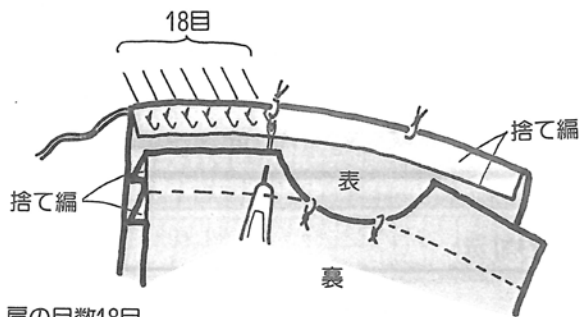
もう一方の肩(左側)の目26目を拾って編み機にかけ、右側と同じようにして、1段編む毎に1目ずつ右側で減らし目をして、肩まで10段編みます。

捨て編をしてはしません。

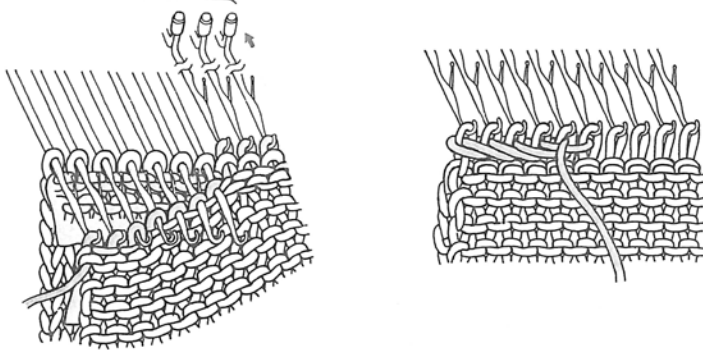
これで前身ごろが編みあがりました。



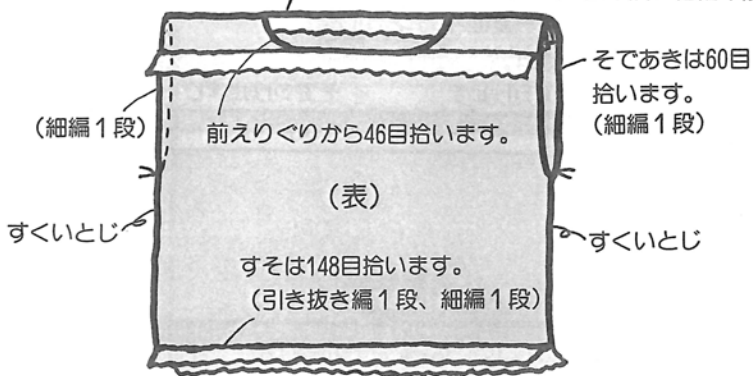
肩をはいで、わきをとじ合わせてから、縁の処理をします



肩の目数18目



後ろえりぐりから40目拾います。
(えりあきは引き抜き編1段、細編1段)



● マイベストと同じ方法でしますので18頁~20頁も参照してください。

① 後ろ身ごろの肩の目を拾って編み機にかけます。

後ろ身ごろの表を手前にして、左の肩の目18目を編み機にかけます。針をD位置に出し、編み目をベラの向うへやります。

② 前身ごろの肩の目を、後ろ身ごろに中表に重ねてかけます。

前身ごろは裏を手前にして、左肩の目18目を後ろ身ごろの肩の目に重ねてかけます。このとき編み目は針のベラの手前の方にかけてます。

③ 編み目をベラ越しさせます。

針を一度C位置へ上げてから、手で端から順にB位置にさげます。

④ 巻きどめをします。

残しておいた編み終りの糸はしをトジ針に通して、左から巻きどめをします。

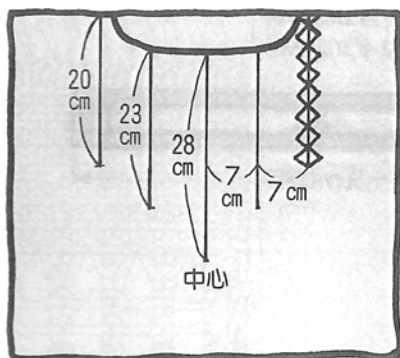
⑤ もう一方の肩も同じようにしてはぎ合わせます。

⑥ わきは、すくいとしでとじ合わせます。

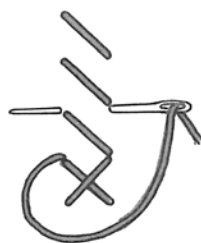
⑦ えりあき、すそ、そであきの縁編をします。
(前えりぐりの拾い目数のみ、マイベストと異なりますので左図をみてください。)

⑧ 捨て編を取りはずします。
(縁編の方法は19頁参照)

前身ごろに模様を入れます



(模様的位置)



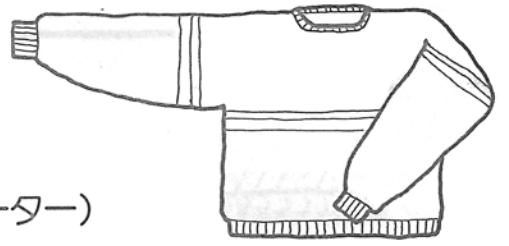
(クロスステッチ)

● アイロンをかけて、編み地をきれいに整えてから、左の図の位置にクロスステッチをします。

♥ ポートネックのベストの出来あがりです ♥

MY SWEATER

(マイセーター)



用意するもの

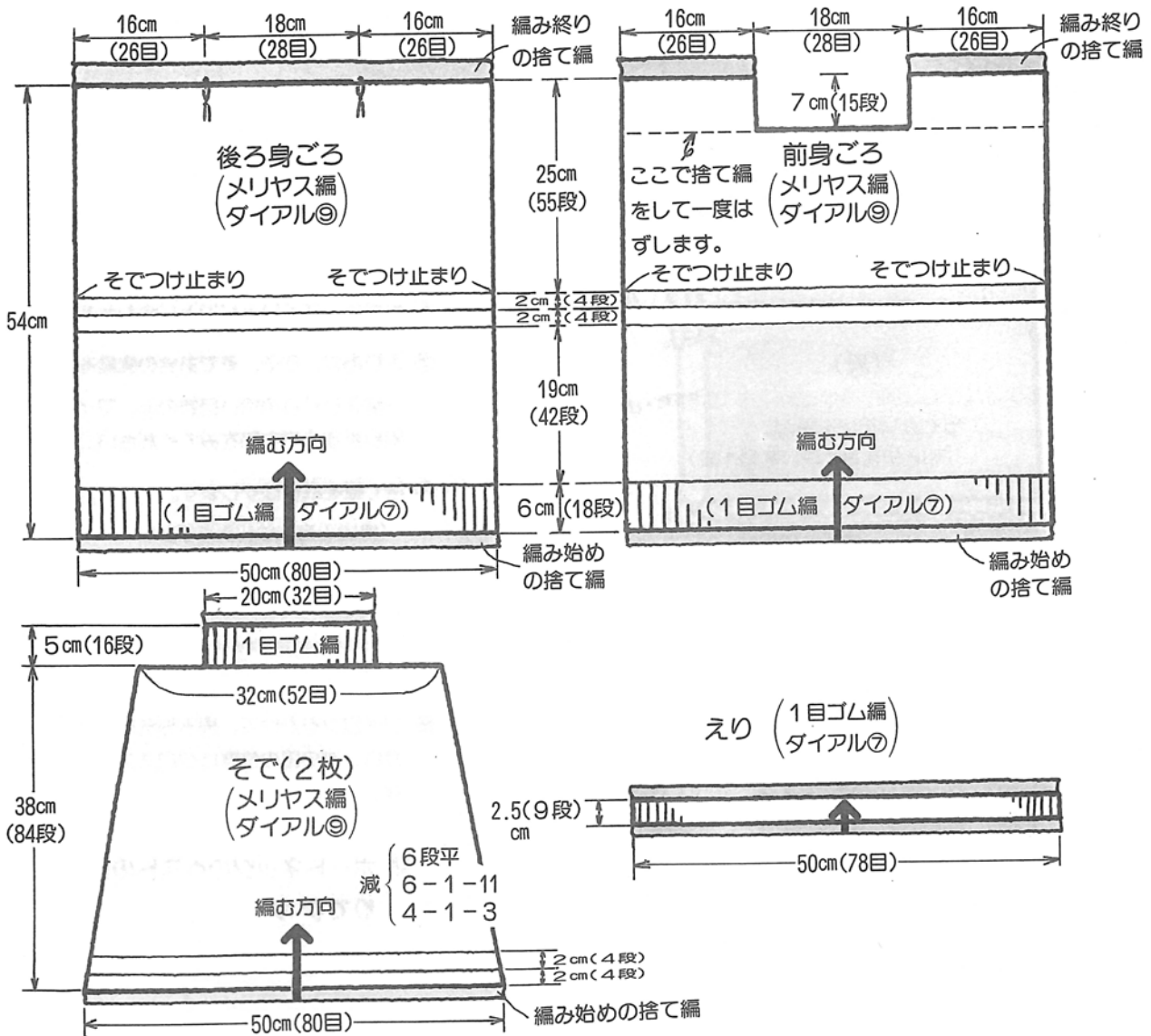
毛糸 (カネボウアンテルセン)
 ダブルニッティング
 白…………… 200g
 黒…………… 300g
 捨て編用の糸……………残り糸少々

ゲージと出来上がり寸法

メリヤス編
 編み目ダイヤル……………◎
 ゲージ…………… 16目 } 10cm角
 23段 }
 1目ゴム編
 編み目ダイヤル……………⑦

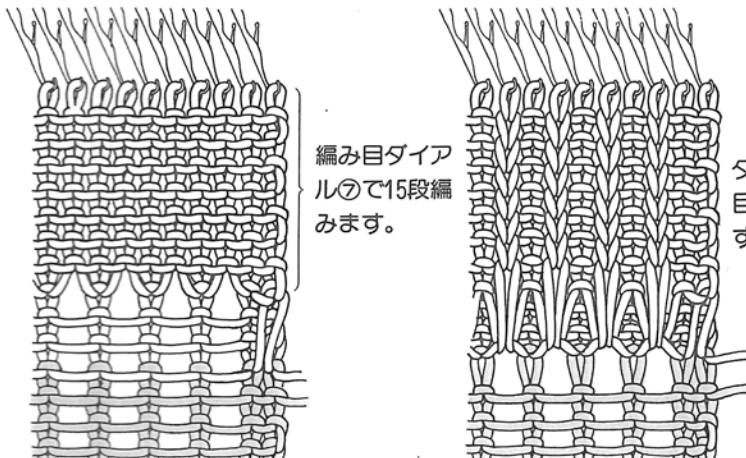
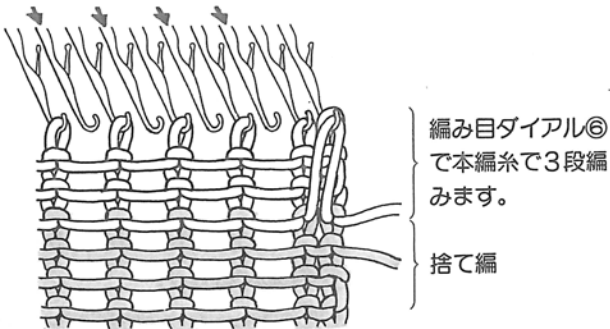
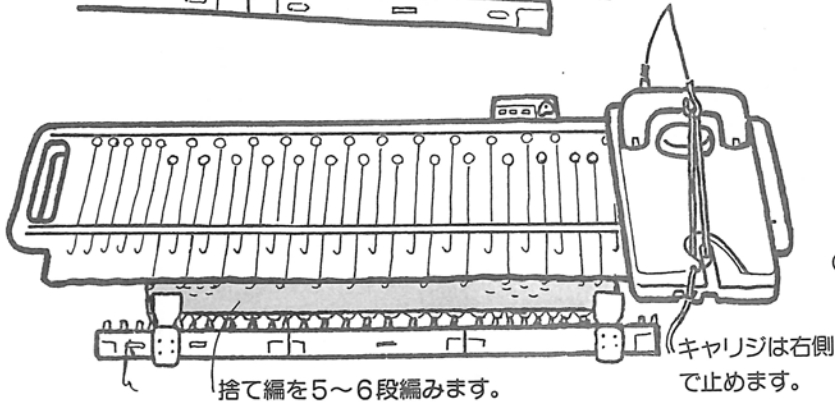
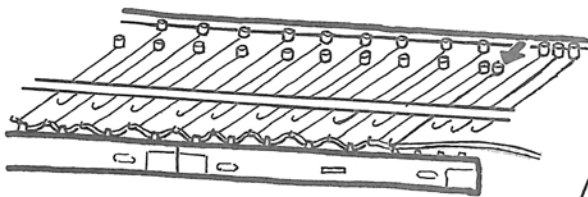
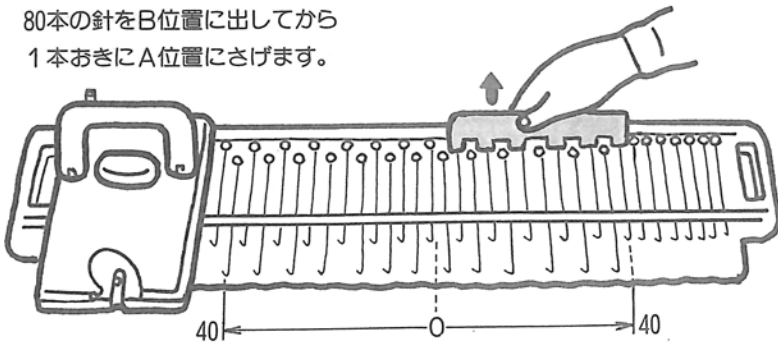
出来上がり寸法

胸囲り……………100cm
 たけ……………54cm
 ゆき……………68cm



後ろ身ごろを編みましょう

80本の針をB位置に出してから
1本おきにA位置にさげます。



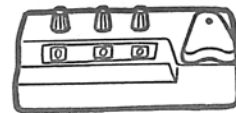
① 1目ゴム編の針出して捨て編をします。

身ごろの幅の目数が80ですので、その針数だけ針をB位置に出します。その針を左から2番めの針から順に1本おきにA位置にさげます。

捨て編用の糸で1段編みます。

編み出し板をさげて、右端のA位置の針（右側40番めの針）のみB位置へ出します。そのまま捨て編を5~6段編み、キャリジを右側で止めます。捨て編糸をはずします。

② 段数計を0に合わせます。



③ 編目ダイヤルを⑥にして本編糸の黒で3段編みます。

右端の下向きループを端の針にかけ、A位置の針をB位置に出します。

④ 1目ゴム編段数を編みます。

編目ダイヤルを⑦にして、15段編みます。

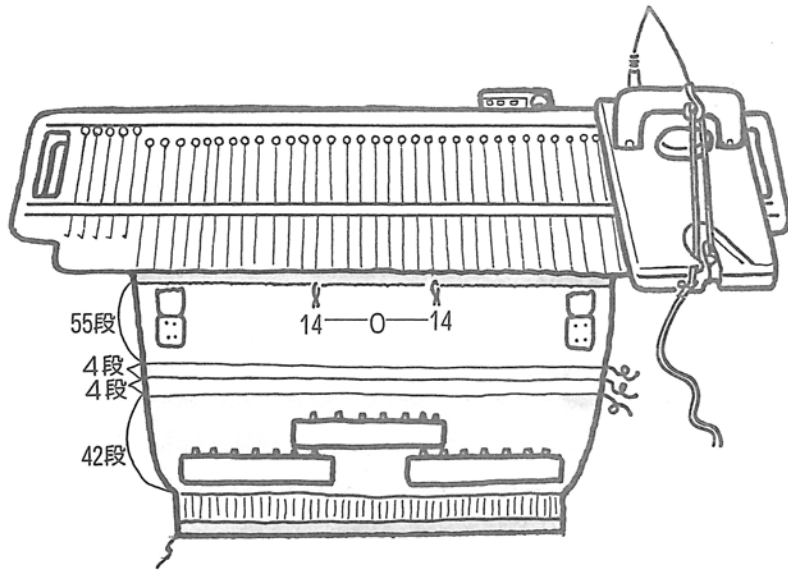
⑤ タツビで1目おきに表目に直します。

左から2番めの針から始めて、右から3番めの針まで裏目に直します。

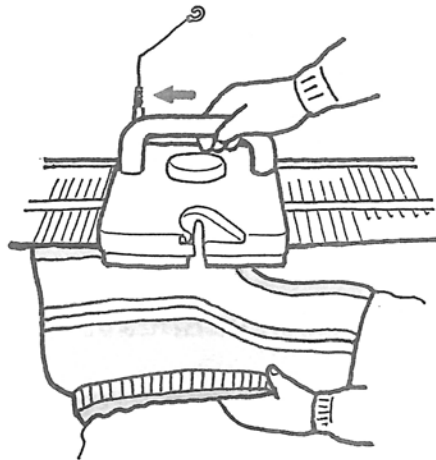
これですそのゴム編が出来ました。

タツビで表目に直します。

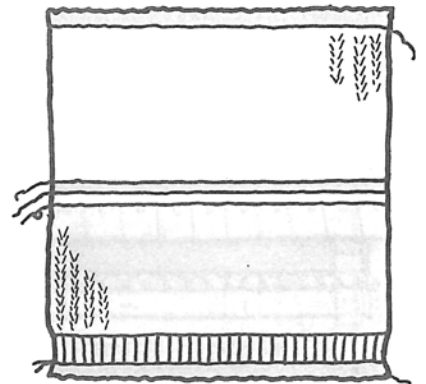
1目ゴム編の編み方は64頁参照



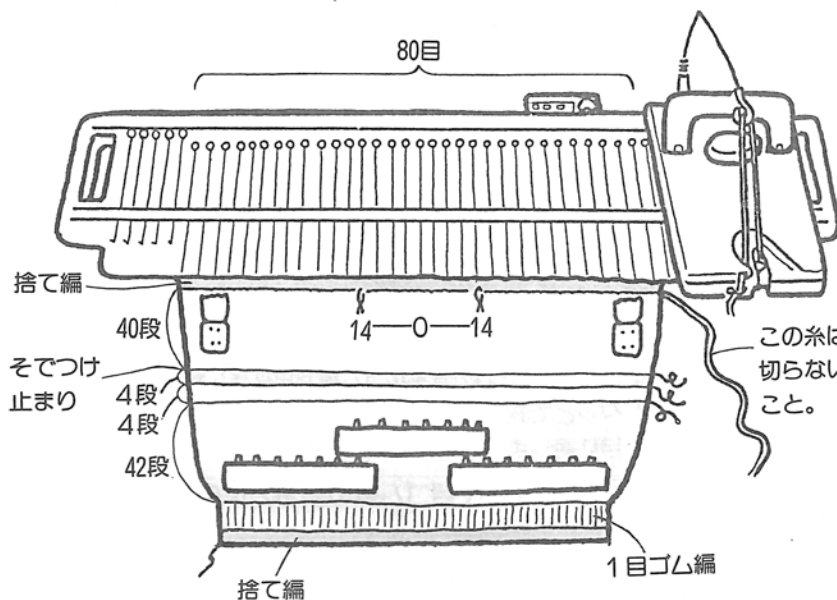
- ⑥ 編み目ダイヤル⑨にして、黒糸で42段編みます。
- ⑦ 白糸に交換して4段編みます。
- ⑧ 黒糸に交換して4段編みます。
ここがそでつけ止まり位置となります。
もし配色をしないで単色で編む場合は、両端に糸じるしを付けてください。
- ⑨ 白色に交換して55段編みます。
- ⑩ えりあき止まりの位置に糸じるしを付けます。
0から左右14番めの針に付けます。
- ⑪ 捨て編を8段編んで編み機からはずします。
これで後ろ身ごろが編み上がりました。



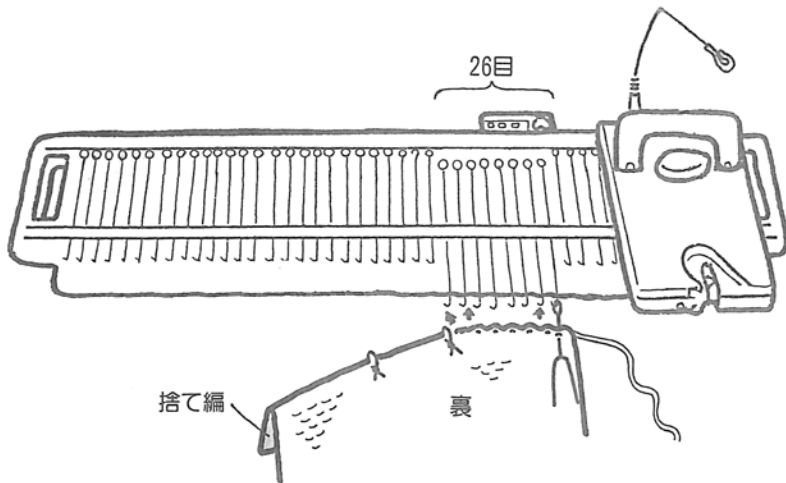
♥後ろ身ごろの編みあがりです♥



前身ごろを編みましょう



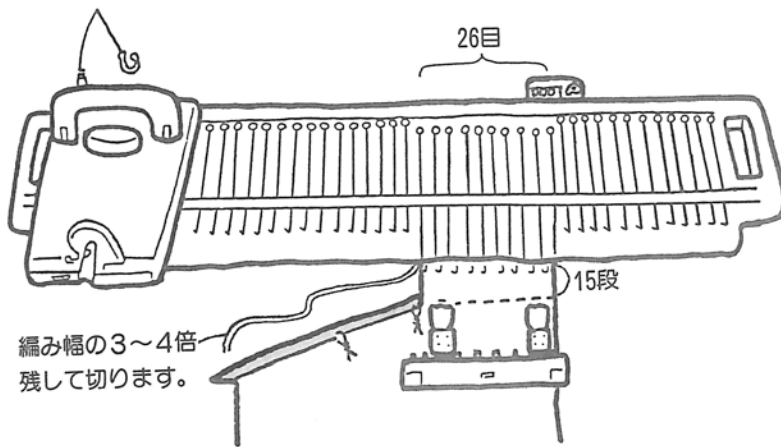
- ① 後ろ身ごろと同じようにして、そでつけ止まりまで編みます。
- ② えりぐりまで編みます。
そでつけ止まりからえりぐりの位置まで白色で40段編みます。
- ③ えりあき止まりの位置に糸じるしを付けます。
中心から左右14番めの針に糸じるしを付けます。
- ④ 捨て編を7~8段編み、編み地をはずします。
これからえりぐりの左右の部分を実際に編まねばなりませんので、編み地を一度はずしてしまっ、編む部分だけ編み機にかけて再び編みます。



⑥ 本編の糸が付いている側の糸じるしより外側の目を編み機にかけます。

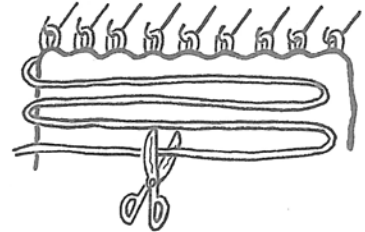
裏目を手前にして捨て編部分を向う側へ折り、糸端が付いている側の本編の最後の目から、糸じるしのある手前の目まで、26目を編み機にかけます。

(他の針はA位置へもどします。編み出し板とオモリを忘れずかけてください。)

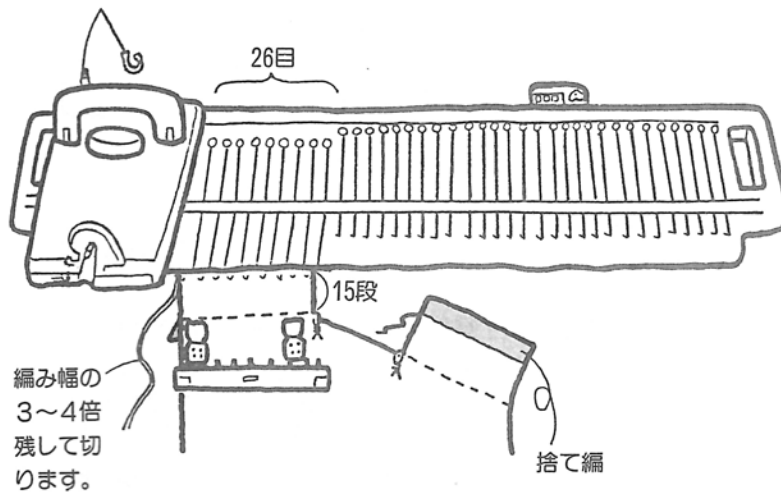


⑥ 続けて肩まで、15段編みます。

編み終りの糸を編み幅の3~4倍残して切ります。



⑦ 捨て編をしてはししません。

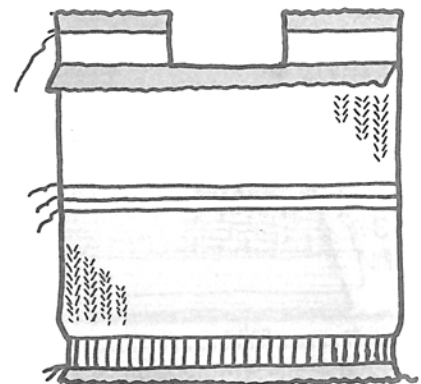


⑧ えりぐりの左側の方も同じようにして編みます。

捨て編部分から26目拾って編み機にかけて肩まで編み、捨て編してはししません。

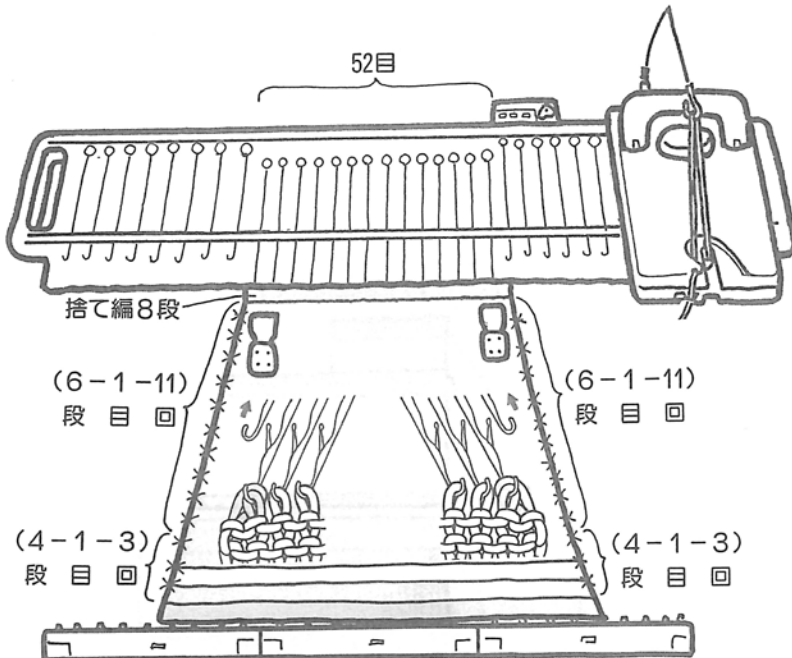
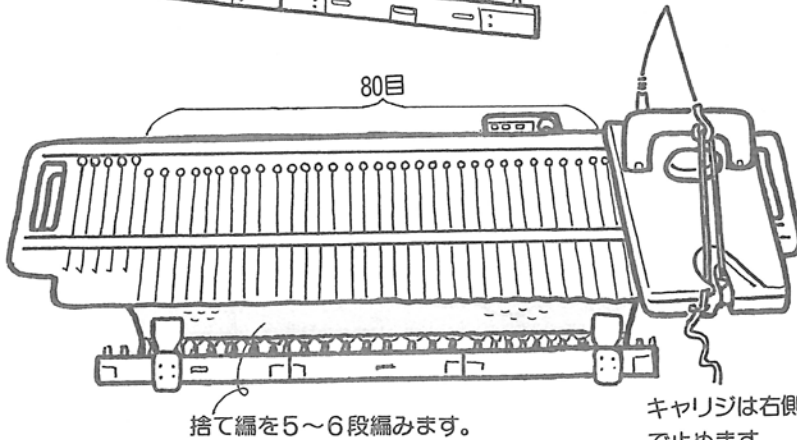
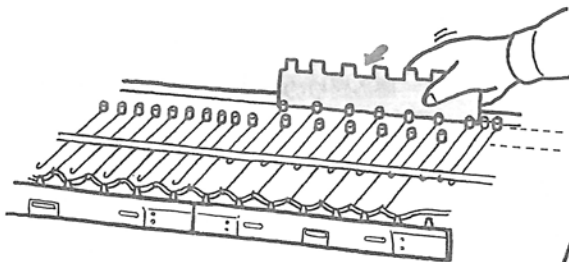
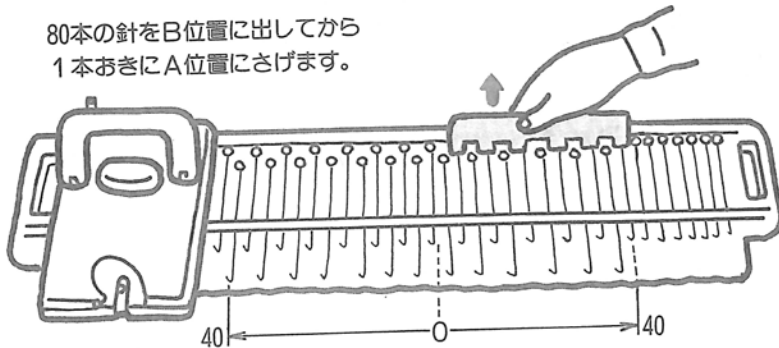
これで前身ごろが編みあがりました。

♥前身ごろの編みあがりです♥



そでを編みましょう (同じものを2枚編みます)

80本の針をB位置に出してから
1本おきにA位置にさげます。



{ 4-1-3.....4段毎に1目ずつ3回減らす }
{ 6-1-11.....6段毎に1目ずつ11回減らす }

そでは、そで口のゴム編部分と、そでの部分を別々に編んでつなぎます。

(そでを編みます)

● そでの一番太い部分から、そで口に向かって編みます。

① 針を編み始めの位置に出します。

そでの幅の目数が80ですので、その針数だけ針をB位置に出し、更にそれを1本おきにA位置にさげます。

② 捨て編用の糸で編み出し、捨て編を5~6段編みます。

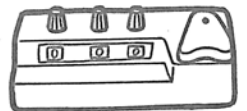
捨て編用の糸をキャリジに通して1段編みます。編み出し板をかけて、残りのA位置の針をB位置に出します。

そのまま捨て編を5~6段編み、キャリジを右側で止めます。

編み始めの捨て編糸はキャリジからはずして切り、編み終りの目がゆるまないように、編み出し板の糸かけにはさんでおきます。

③ 段数計を0に合わせます。

④ キャリジの編み目ダイヤルを⑤に合わせます。



⑤ 両側で減らし目をしながらそで口まで編みます。

黒糸を通して4段編み、両端で1目減らし目をします。

白糸に通しかえて4段編み、両端で1目減らし目をします。

黒糸に通しかえて4段編み、両端で1目減らし目をします。

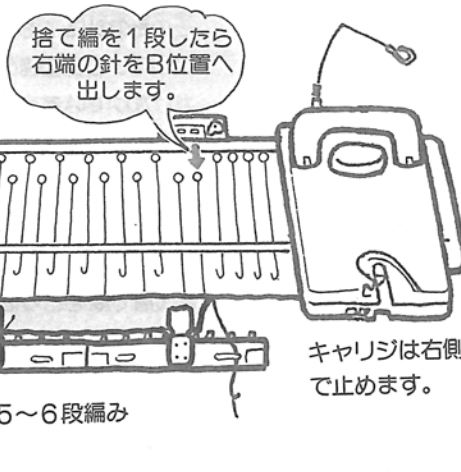
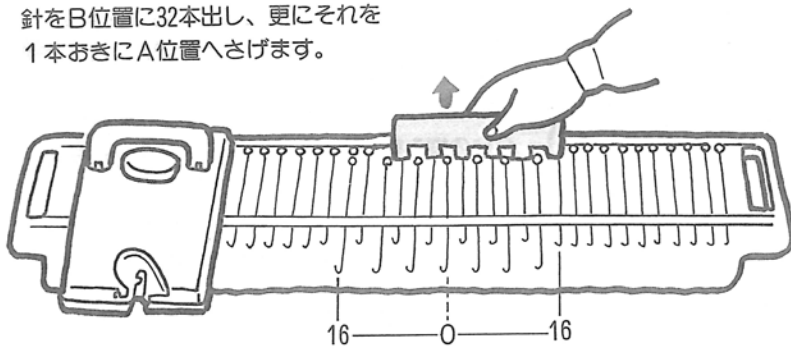
次からは、6段編み毎に1目ずつ減らします。これを11回くり返して、そで口まで84段編みます。

編み目は、52目残っていますね。

⑥ 捨て編を7~8段して編み機からはずします。同じものをもう一枚編みます。

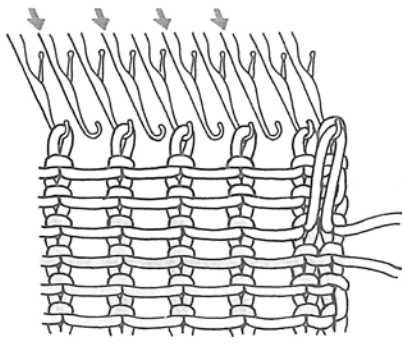
1目の減らし目のし方は58頁参照

針をB位置に32本出し、更にそれを1本おきにA位置へさげます。



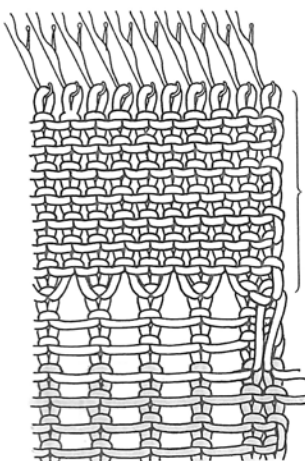
捨て編を5~6段編みます。

キャリジは右側で止めます。

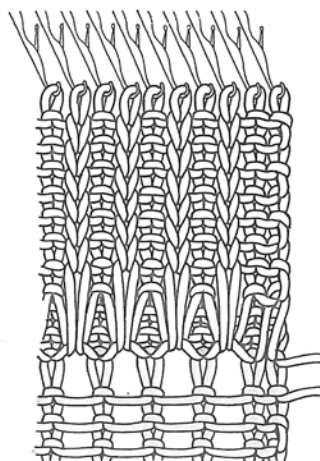


編み目ダイヤル⑥で本編糸で3段編みます。

捨て編



編み目ダイヤル⑦で13段編みます。



(そで口のごム編を編みます。)

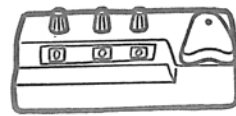
● 身ごろのすそゴムと同じ方法で編みます。

① 1目ゴム編の針出して捨て編をします。

そで口が目数が32ですので、その針数だけ針をB位置に出します。その針を左から2番めの針から順に1本おきにA位置にさげます。

捨て編用の糸で1段編みます。編み出し板をさげて、右端のA位置の針(右側16番めの針)のみB位置へ出します。そのまま捨て編を5~6段編み、キャリジを右側で止めます。捨て編糸をはずします。

② 段数計を0に合わせます。



③ 編み目ダイヤルを⑥にして本編糸の黒で3段編みます。

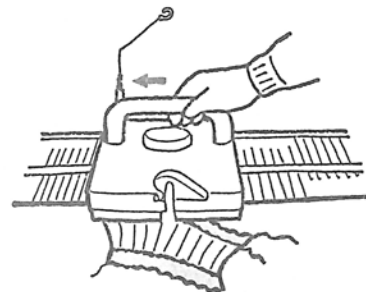
右端の下向きのループを端の針にかけ、A位置の針をB位置に出します。

④ 編み目ダイヤルを⑦にして、13段編みます。

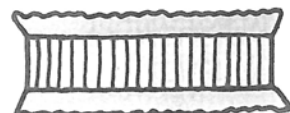
⑤ タツビで1目おきに表目に直します。

左から2番めの針から始めて、右から3番めの針まで表目に直します。

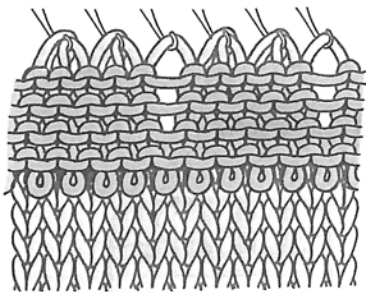
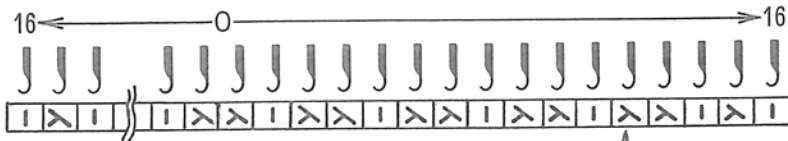
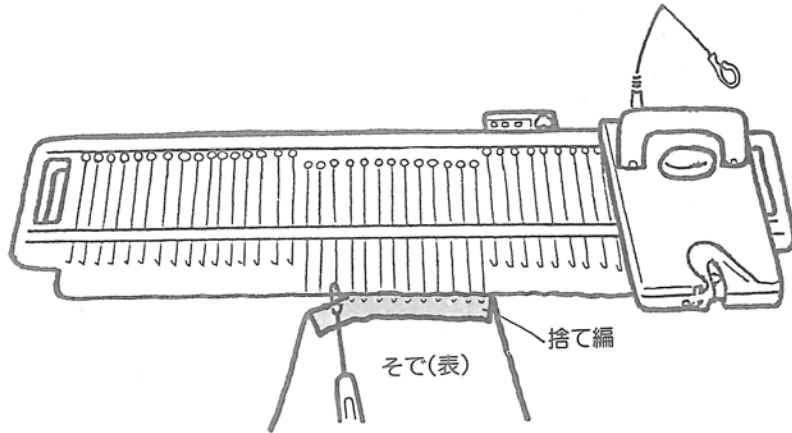
⑥ 捨て編を7~8段して編み機からはずします。



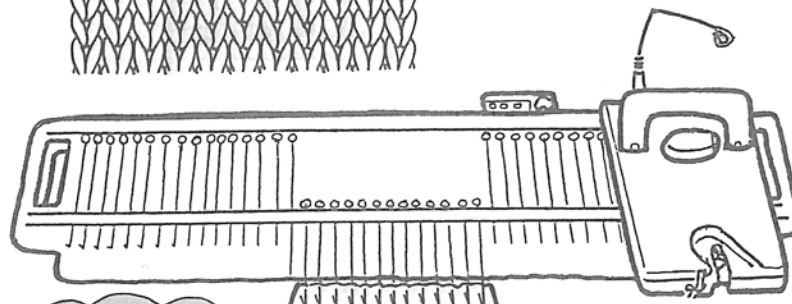
♥ そで口の出来あがりです ♥



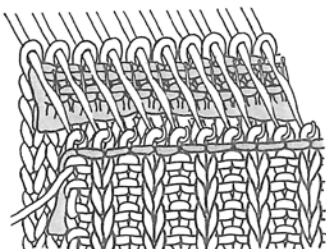
1目ゴム編の編み方は64頁参照



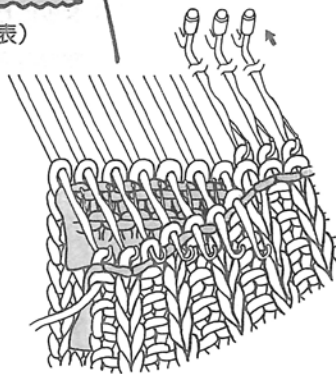
右上2目1度の重ね目



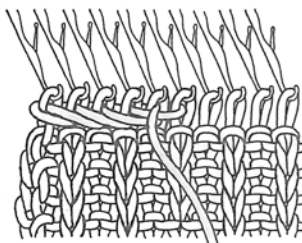
針に全部かけ終わりましたら、捨て編をほどいてとりはずしてしまってもかまいません。



(中表にかけます。)



(バラ越しさせます。)



(巻きどめをします。)

(そでとそで口のゴム編をはぎます)

そでの編み終りの目は52目あり、そで口のゴム編の目は32目あります。そこで、このまま2枚の編み地を重ねて編み機にかけると、そでの方の目があまってしまいますので、そでの目数の多い分だけ、2目ずつ重ねて針にかけて、丁度32目になるように合わせます。

① そでの編み終りの目を編み機にかけます。

まず針を32本分だけB位置に出してください。その針に、そでの編み終りの目を、表を手前にして、左図のように、編み目を重ねながらかけていきます。



(捨て編をとりはずしたときの目のかかり方)

② 針をD位置に出します。

かけたそでの目はバラの後ろにやります。

③ そで口のゴム編の編み終りの目を針のフックにかけます。

ゴム編の方は、裏を手前にして中表になるようにかけます。ゴム編の目の方は、バラの向うにいかないようにしましょう。

④ 編み目をバラ越しさせます。

針を1度全部C位置までさげます。次に端から1本ずつB位置までもどします。フックの中にゴム編の方の目だけ残りましたね。

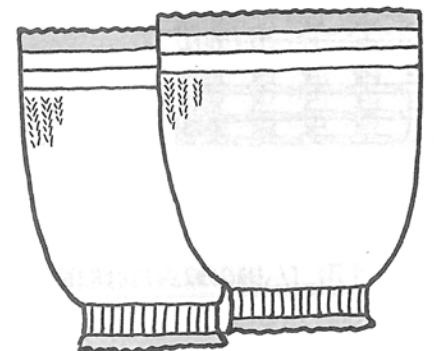
⑤ 巻きどめをします。

トジ針に糸を通して、左から巻きどめをはずします。

もう一方のそでと、そで口を同じようにしてはぎ合わせます。

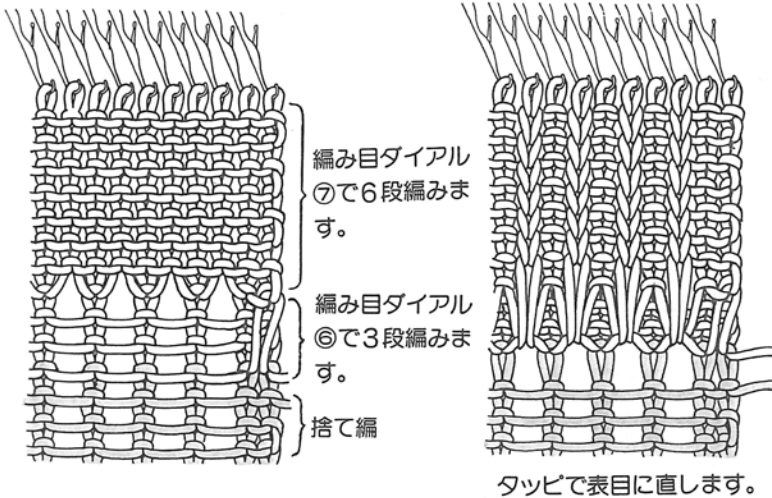
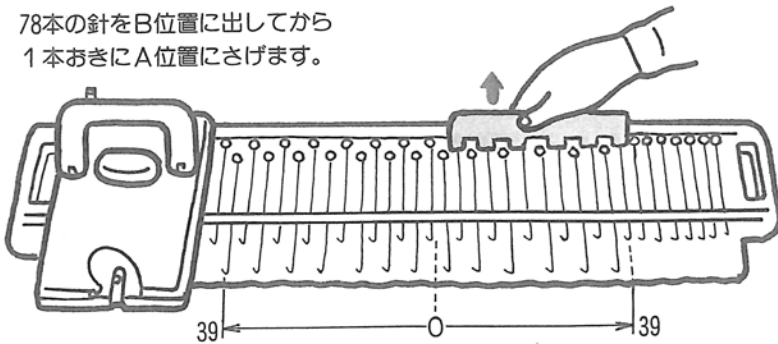
巻き止めのし方は61頁参照

♥そでのできあがりです♥

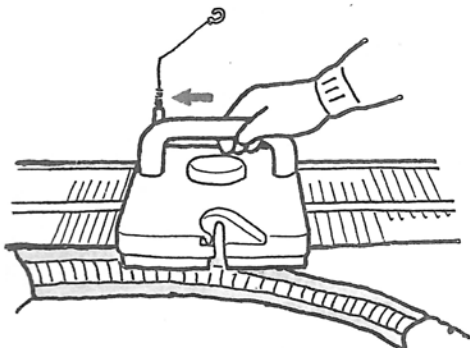
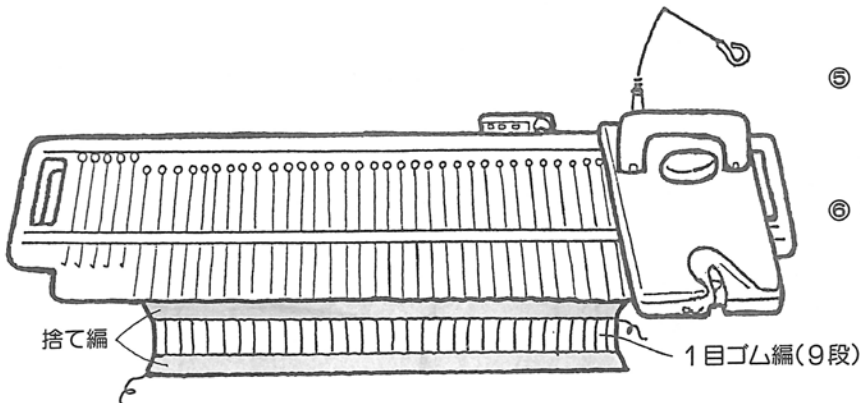


えりを編みましょう

78本の針をB位置に出してから
1本おきにA位置にさげます。



1目ゴム編の編み方は64頁参照



● 身ごろのすそや、そで口のゴム編と同じ方法で編みます。

① 1目ゴム編の針出しで捨て編をします。

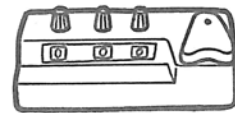
えりの目数が78ですので、その針数だけ針をB位置に出します。その針を左から2番めの針から順に1本おきにA位置にさげます。

捨て編用の糸で1段編みます。

編み出し板をさげて、右端のA位置の針(右側39番めの針)のみB位置へ出します。

そのまま捨て編を5~6段編み、キャリジを右側で止めます。捨て編糸をキャリジからはずします。

② 段数計を0に合わせます。



③ 編み目ダイヤルを⑥にして本編糸の白で3段編みます。

右端の下向きのループを端の針にかけ、A位置の針をB位置に出します。

④ 1目ゴム編段数を編みます。

編み目ダイヤルを⑦にして、6段編みます。

⑤ タッピで1目おきに表目に直します。

左から2番めの針から始めて、右から3番めの針まで表目に直します。

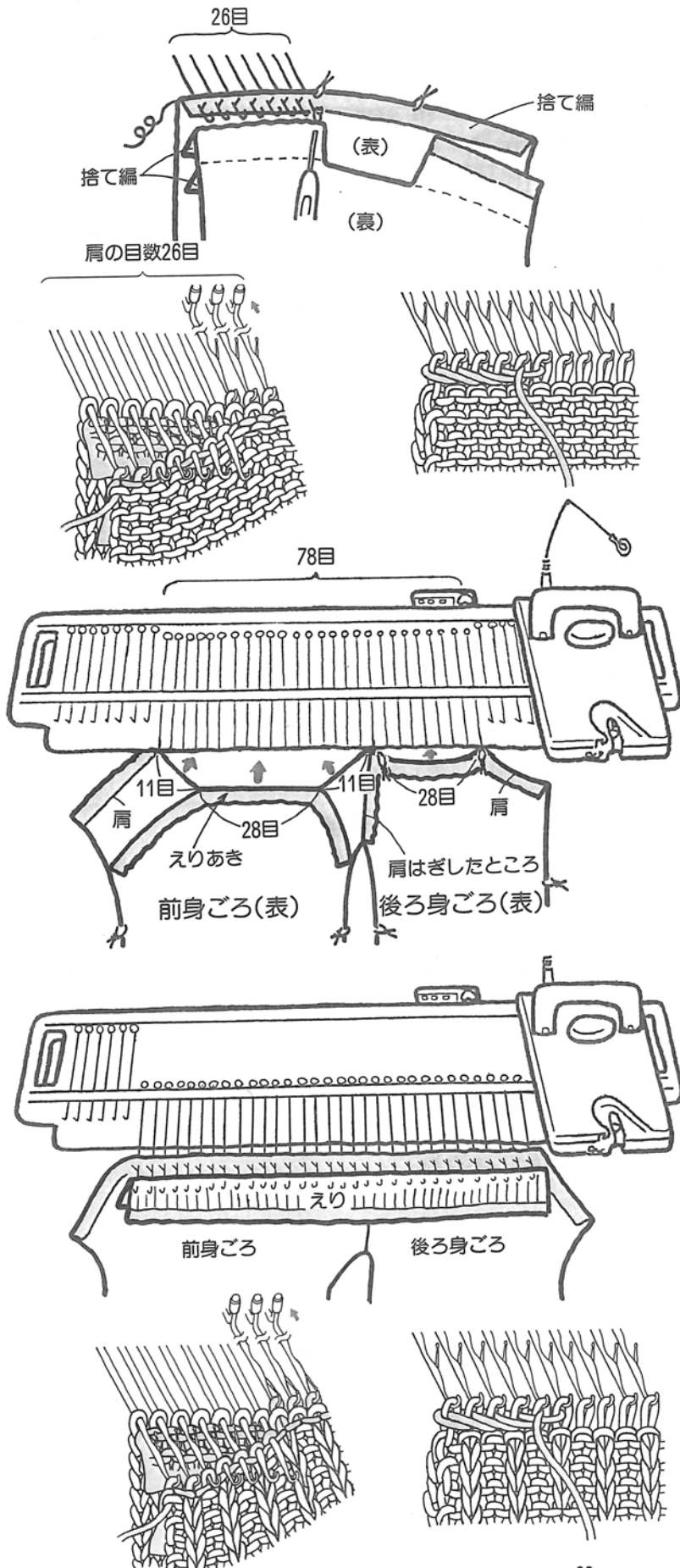
⑥ 捨て編を7~8段して編み機からはずします。

これでえりのゴム編が出来あがりました。

♥えりの出来あがりです♥



肩をはいでえりをつけましょう

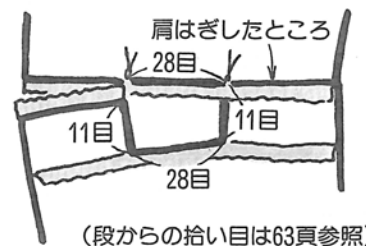


(片方の肩をはぎます)

- 肩のはぎ方は、マイベストと同じ方法でします。(18頁参照)
- ① 後ろ身ごろの肩の目を拾って編み機にかけます。
後ろ身ごろの表を手前にして、左の肩の目26目を編み機にかけます。針をD位置に出し、編み目をベラの向うへやります。
- ② 前身ごろの肩の目を、後ろ身ごろに中表に重ねてかけます。
前身ごろは裏を手前にして、左肩の目26目を後ろ身ごろの肩の目に重ねてかけます。このとき編み目は針のベラの手前の方にかけます。
- ③ 編み目をベラ越しさせます。
針を一度C位置へさげてから、手で端から順にB位置にさげます。
- ④ 巻きどめをします。
残しておいた編み終りの糸をトジ針に通して、左から巻きどめをします。

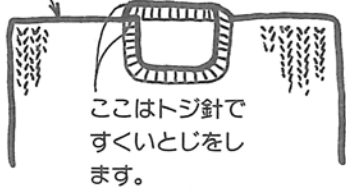
(えりをつけます)

- えりのつけ方は、そで口のゴム編のはぎ方と同じです。
- ① 身ごろのえりぐり部分を編み機にかけます。
身ごろの表側を手前にして、前後のえりぐりから下図の目数だけ目を拾って編み機にかけます。



- かけ終わったら針をD位置へ出し、編み目をベラの向うへやります。
- ② えりを中表に編み機にかけます。
えりのゴム編を裏を手前にして、針のフックにかけます。
- ③ ベラ越しをして巻き止めをします。
針を一度C位置へ戻し、次に端から1目ずつB位置へ押しさげます。
残ったゴム編の目を巻き止めします。

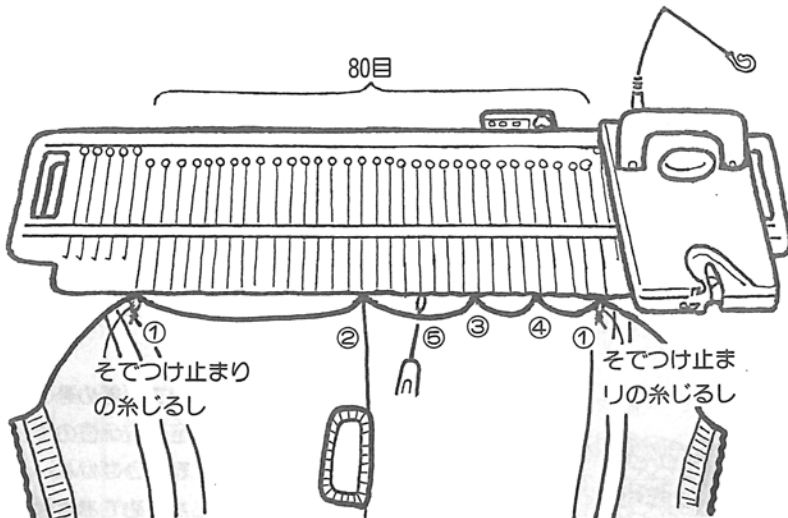
ここをはぎます。



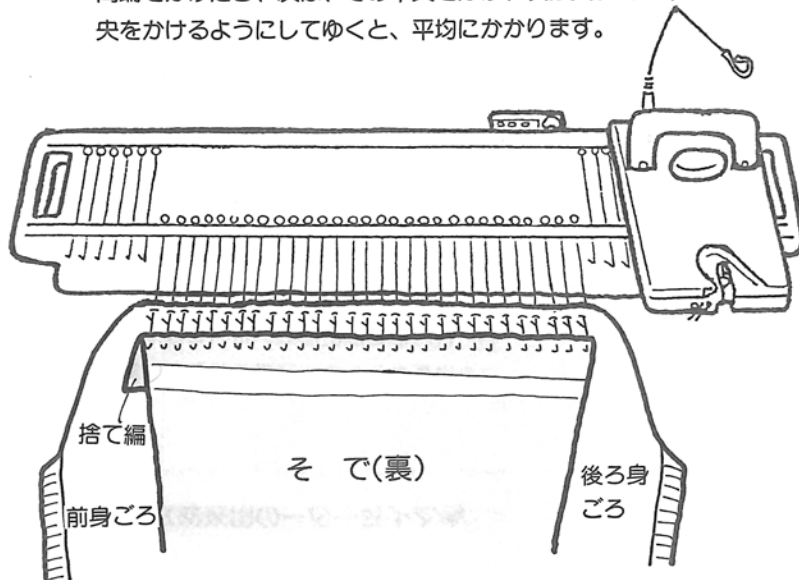
(もう一方の肩をはぎます)

- 先にはいだ時と同じ方法ではぎます。
- えりがつけ終わったところで、前身ごろのえりぐりのところの捨て編は、ほどいてとりはずしましょう。

身ごろにそでをつけましょう

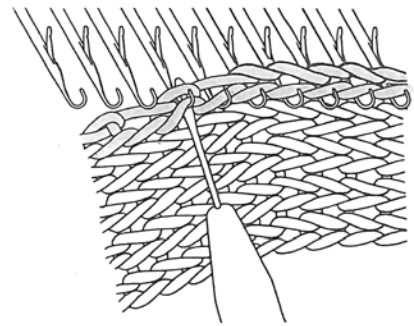


編み地を針にかけるときは、図の番号順のように、最初両端をかけた後、次は、その中央をかけ、次は又、その中央をかけるようにしてゆくと、平均にかかります。



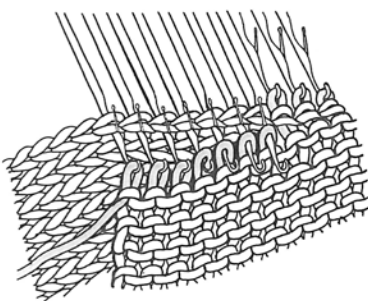
(片方のそでをつけます)

- ① 身ごろのそでつけ部分を編み機にかけます。針を80目分B位置に出します。その針に、身ごろの表側を手前にして、そでつけ部分を平均にかけます。

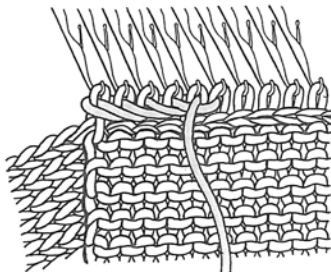


針をD位置に出します。

- ② そでの目を、身ごろと中表になるように重ねて針にかけます。
- ③ かけた目をベラ越しさせて巻き止めします。巻き止めが終わりましたら編み機からはずします。



ベラ越しします。

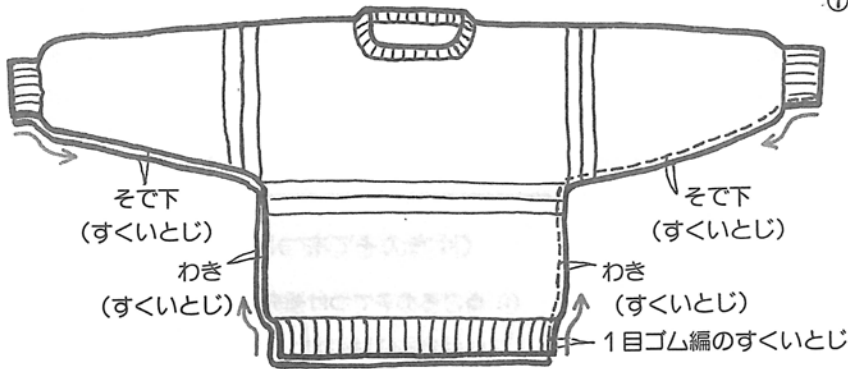


巻きどめをします。

(もう一方のそでをつけます)

同じ方法でもう一方のそでを身ごろにつけます。

わきと、そで下をとじあわせましょう

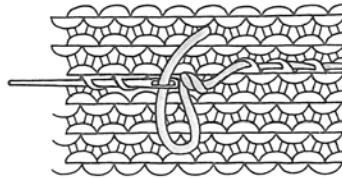


- ① わきも、そで下もすくいとしでとじ合わせます。

編み始めや、編み終わりに糸端が残っていたらそれを使ってとじましょう。

すくいとしの方法は66頁参照

仕上げをします

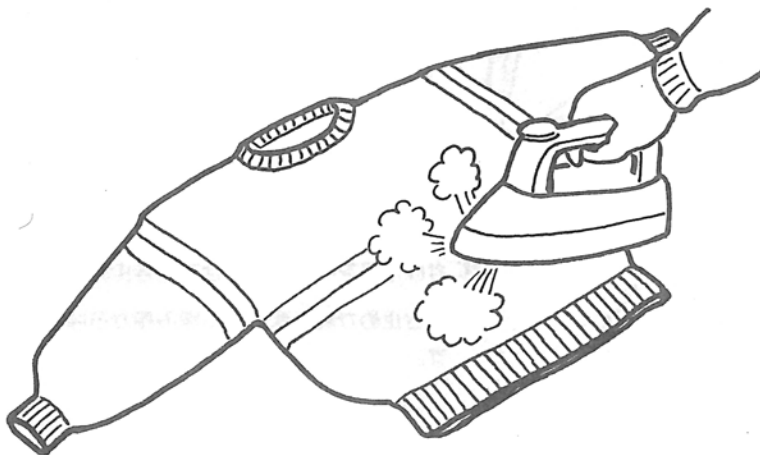


- ① 糸はしの始末をします。

編み始めや、編み終わり、糸のつなぎめ等の糸はしが残っていますので、全部5cm位の長さに切り、トジ針に通して、表にひびかないように、とじ代や、編み目からめておきます。

- ② 編み始めや、編み終わりに残っている捨て編や、糸じるしをきれいにはずします。

(捨て編のはずし方は62頁参照)



- ③ 仕上げのアイロンをかけます。

まず裏側から、編み地を押えつけないようにしてスチームアイロンをかけます。

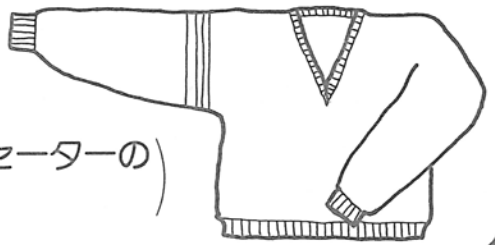
特にとじ位置はていねいにかけてみましょう。次に表からもう一度軽く蒸気を当てます。

♥マイセーターの出来あがりです♥



MY SWEATER VARIATION

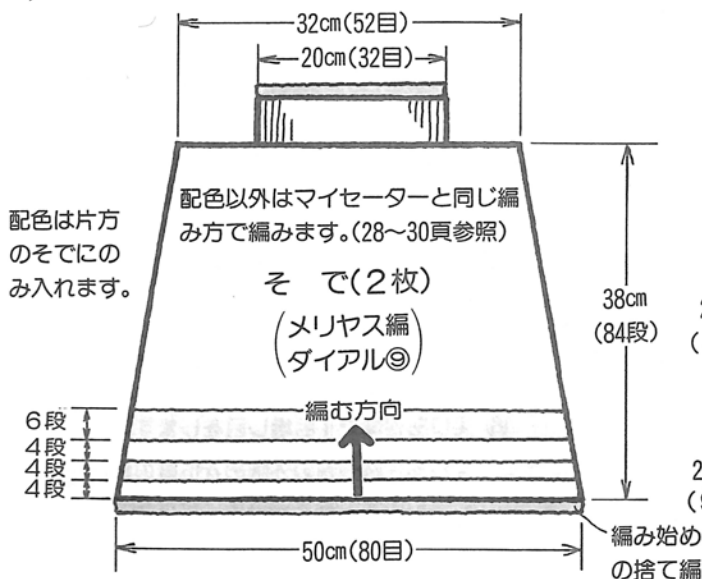
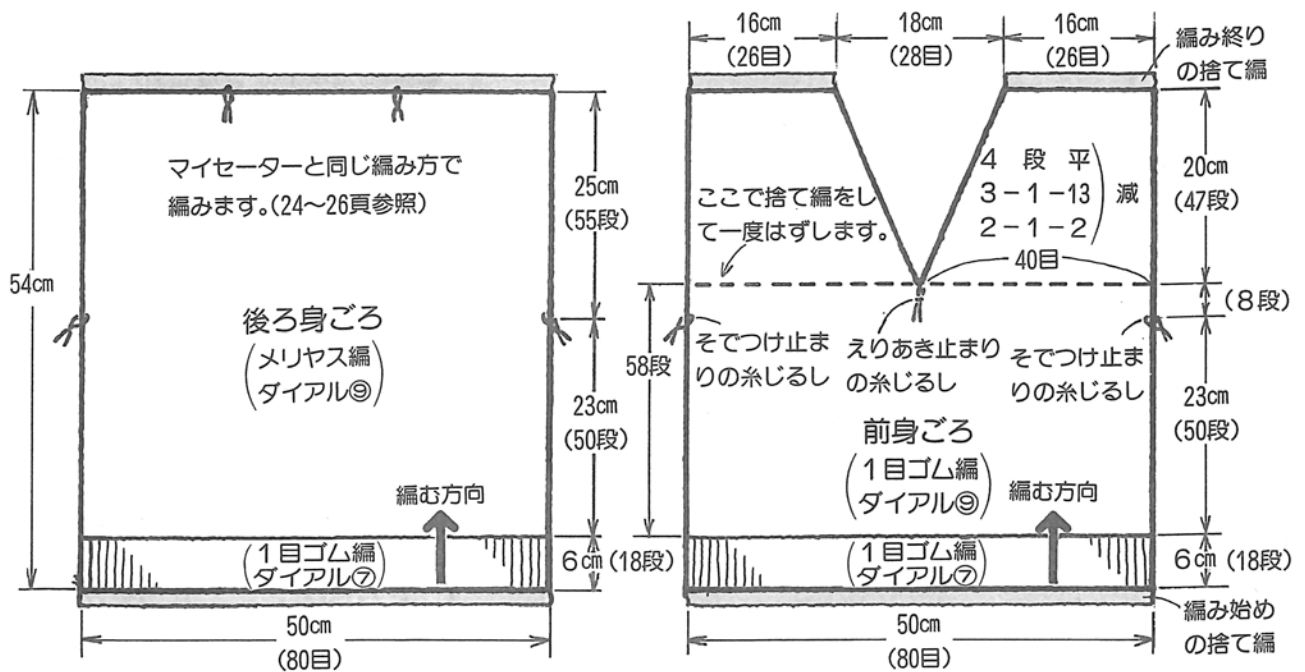
(マイセーターの
応用)



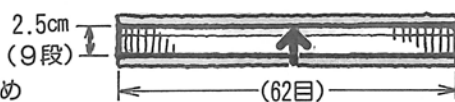
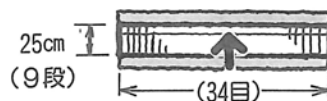
- マイセーターをVえりに変化させた作品です。
(えりぐり以外は、マイセーターと同じ編み方で編みます。)
- ゲージ、出来あがり寸法などは、マイセーターと同じです。

用意するもの

毛糸 (カネボウアンテルセン)
ダブルニットング
オフホワイト…………… 500g
チャコールグレー…………… 10g
捨て編用の糸…………… 残り糸少々



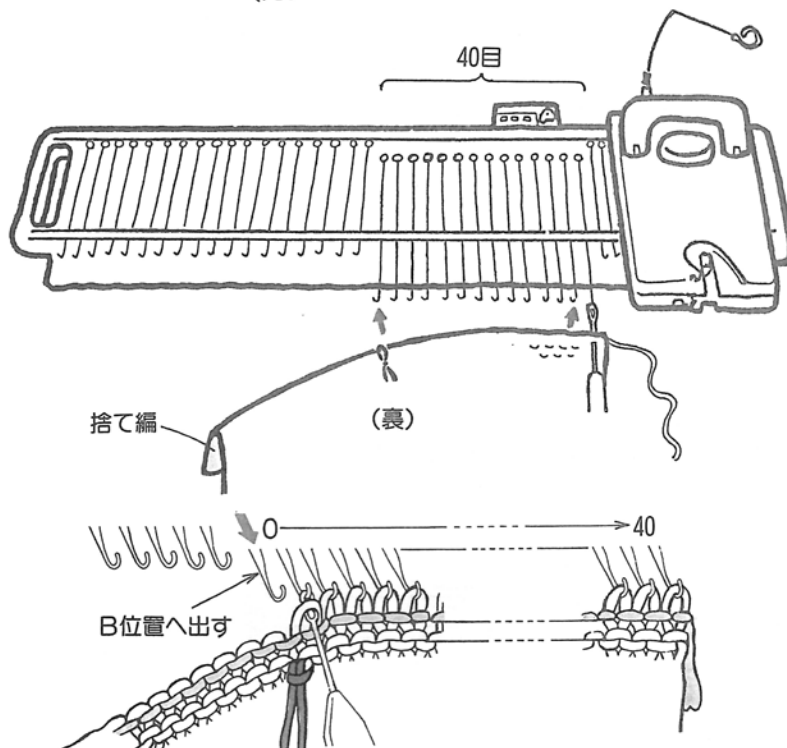
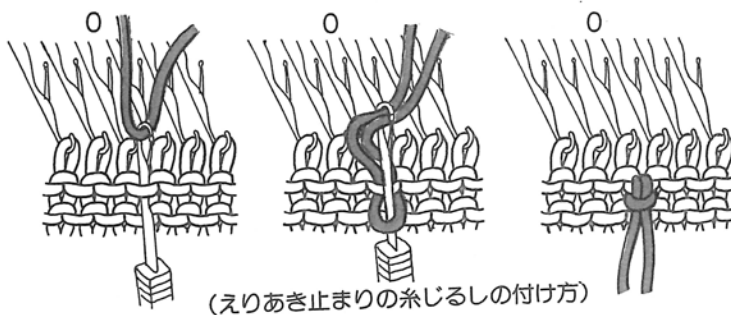
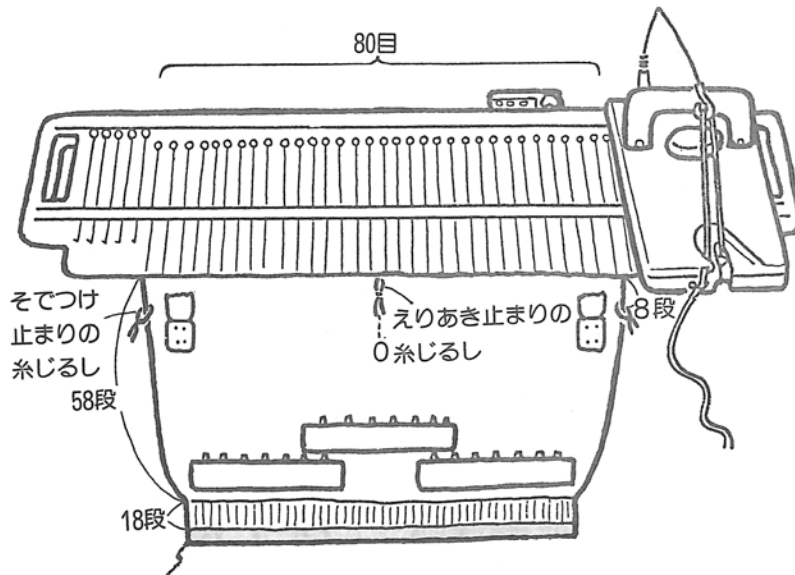
えり (1目ゴム編) (ダイヤル⑦)



後ろ身ごろを編みましょう

マイセーターの後ろ身ごろの編み方を参照して、全く同じものを1枚編みます。但し、配色はしません。(25~26頁参照)

前身ごろを編みましょう



① 後ろ身ごろと同じに編み出して、えりぐりのところまで編みます。

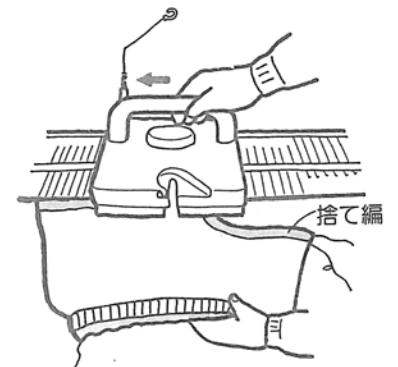
80目の針を出して、捨て編をしてから本編の糸(オフホワイト)で編み始めます。まずそごムを18段編みます。次にメリヤス編で50段編み、両端にそでつけ止まりの糸じるしを付けます。更にえりあき止まりまで8段編みます。

② えりあき止まりに糸じるしを付けます。

編み地の中央部分(0の位置)に捨て編糸で図のように糸じるしを付けます。

③ 捨て編を7~8段編み、編み地をはずします。

えりあきの部分は、左右を別々に編まねばなりませんので、編み地を一度はずしてしまい、片側ずつ編み機にかけて編みます。



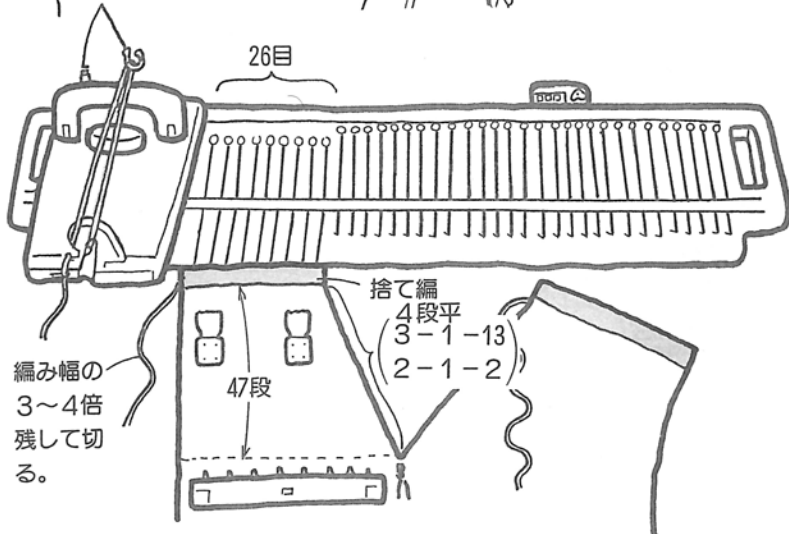
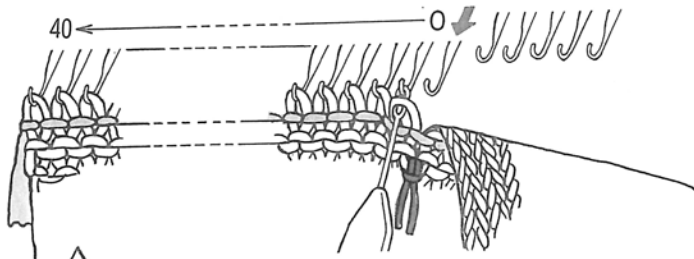
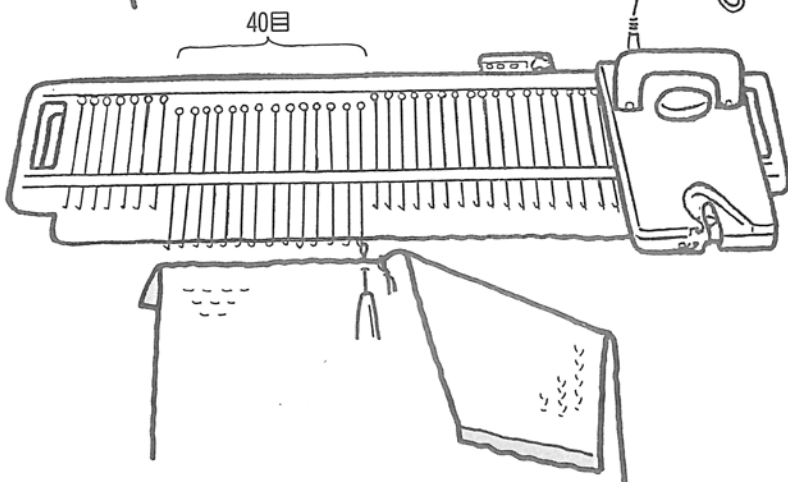
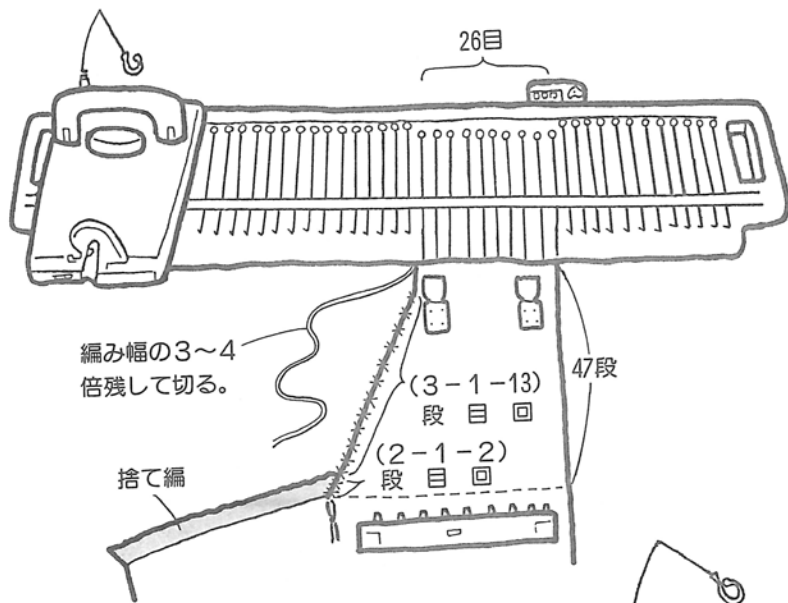
④ 本編の糸が付いている側半分を編み機にかけます。

40本の針をB位置に出します。裏目を手前にして、捨て編部分を向う側へ折り、本編の最後の目を、糸端が付いている側から、糸じるしのある手前の目まで、40目をウツシで編み機にかけます。

編み出し板とオモリを忘れずかけてください。

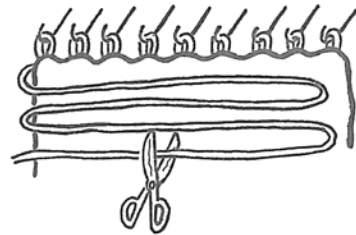
⑤ えりあき側で1目増し目をします。

えりあき側の端の外側のA位置の針をB位置に出します。(ただB位置に出すだけでよい) この1目は、後でえりを付けるときのはぎ代になります。



- ⑥ えりの減らし目をしながら肩まで編みます。
最初に2段編んで、えりあき側で1目減らし目をします。これを2回くり返します。
次に3段毎に1目ずつ、13回減らします。
最後は増減なく4段編みます。

減らし目をしながら合計47段編んだことになります。
編み終りの糸を編み幅の3~4倍残して切ります。



- ⑦ 捨て編をしてはししません。

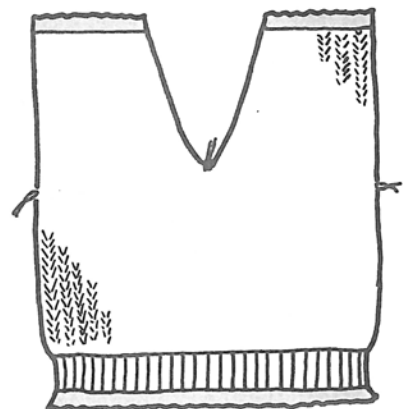
- ⑧ えりぐりの左側の方も同じようにして編みます。

捨て編部分から残りの40目を拾って編み機にかけ、えりあき側で1目増し目してから、同じように減らし目しながら肩まで編み、捨て編をしてはししません。

- 途中のえりあき止まりのところの捨て編は、ほどいてとりはずしておきましょう。

これで前身ごろが編みあがりました。

♥前身ごろの編みあがりです♥



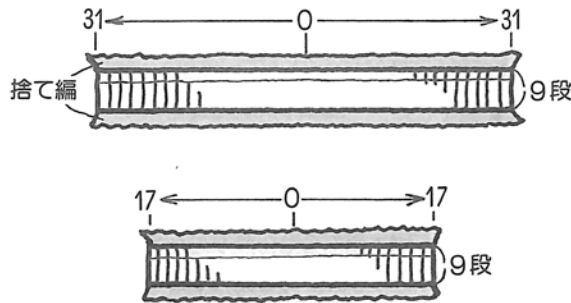
そでを編みましょう

マイセーターのそでの編み方を参照して、全く同じ方法で2枚編みます。(28~30頁参照)



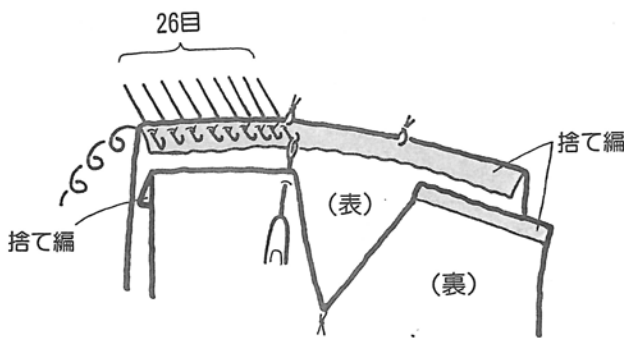
- 左そでのストライプを入れる部分は、編み段数が、4段、8段、12段、18段のときに、減らし目と糸交換を同時にします。あとは、マイセーターと同じように編みます。

えりを編みましょう



- マイセーターのえりの編み方と同じ方法で編みます。(31頁参照)
62目のもの……………1本
34目のもの……………1本
マイセーターと同じく9段編みますが、最後の3段は、グレイの糸で編みます

肩をはいでえりとそでを付けます

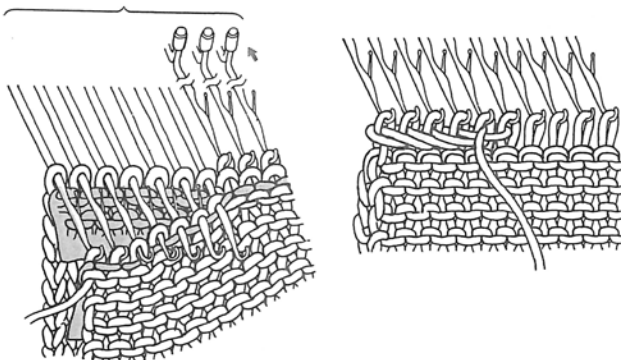


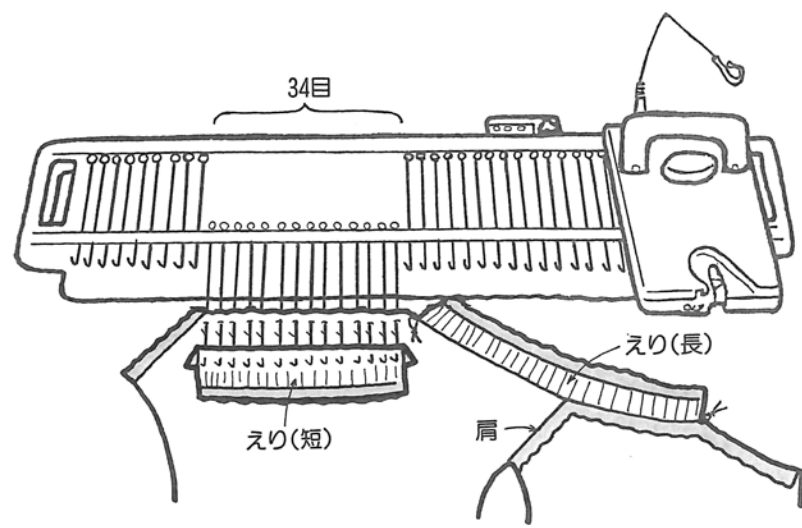
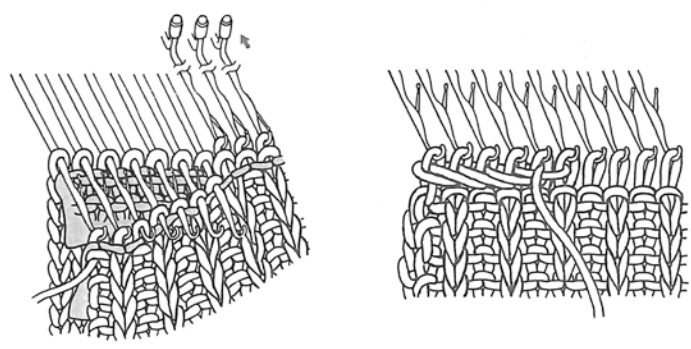
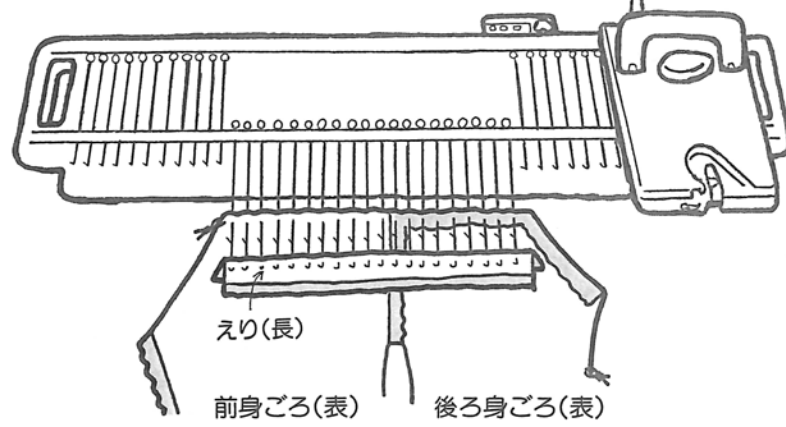
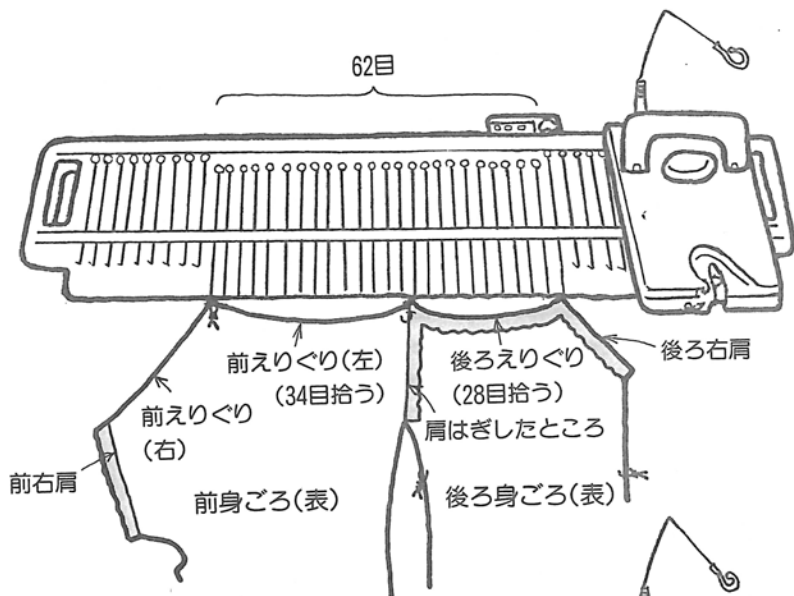
- 肩のはぎ方もマイセーターと同じ方法でします。

(左の肩だけはぎ合わせます)

後ろ身ごろの左肩と、前身ごろの左肩の目を
中表に編み機にかけて、ペラ越しして巻き止めをします。(32頁参照)

肩の目数26目

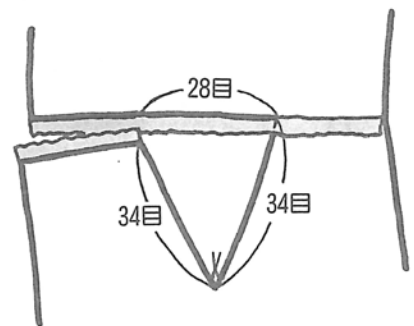




(えりをつけます)

● えりのつけ方は、マイセーターの場合と同じですが、Vえりの先のところを境にして2つに分けて付けます。

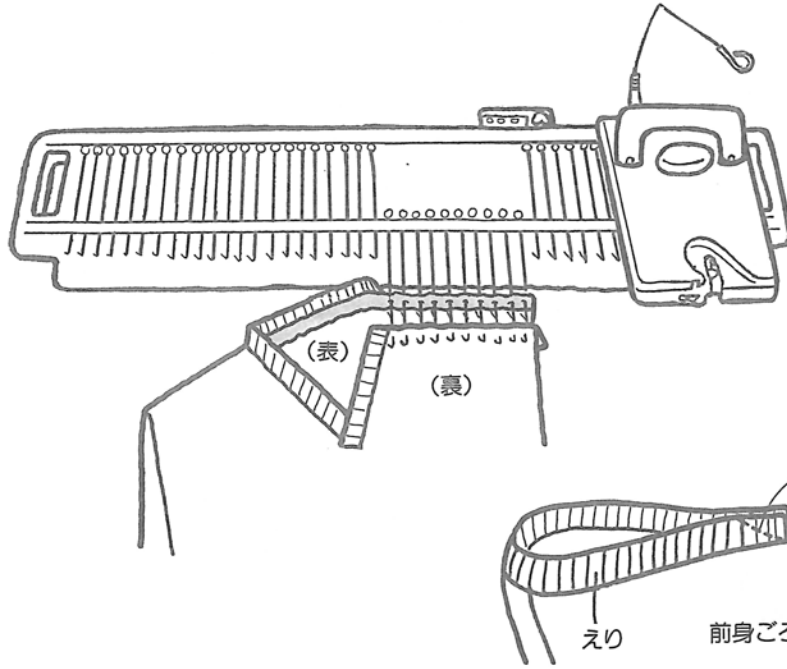
① Vえり先より左側を編み機にかけます。後ろえりぐりから28目、続けて前身ごろのVえりの片側から34目を、表目を手前にして編み機にかけ、針をD位置に出します。



② 長い方のえりを表中表に編み機にかけます。長い方 (62目) のえりを、裏を手前にして、針のフックにかけます。

③ ベラ越しをして、巻き止めをします。針を一度C位置へ戻し、次に端から1目ずつB位置に押しさげます。残ったゴム編の目を巻き止めします。

④ Vえりの右側と短い方のえりを、同様にしてつけます。Vえりの右側から34目拾い、それに、34目のえりを重ねてかけて、ベラ越しして、巻き止めをします。



⑤ もう一方の肩をはぎます。

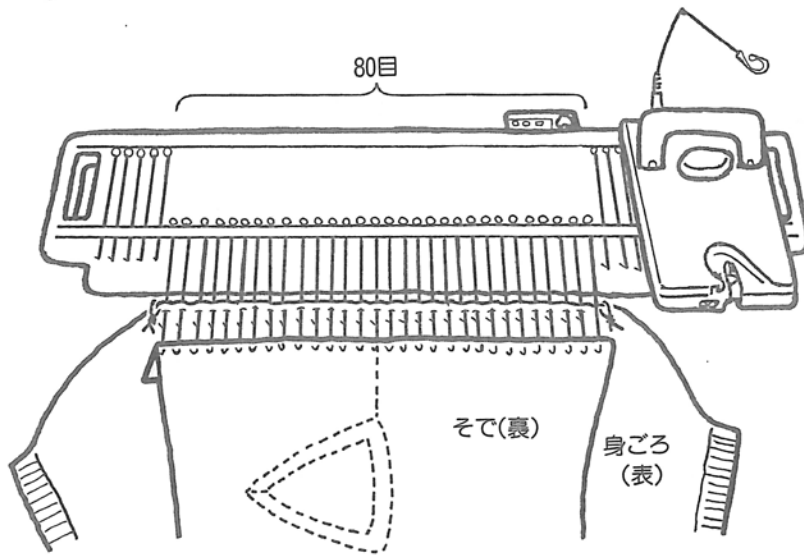
⑥ Vえりの先をとじます。

Vえりの先の部分を裏側から、図のように重ねて、半返し縫いをします。

ここは手で
すくいとじます。

裏から手で
半返し縫い
をします。

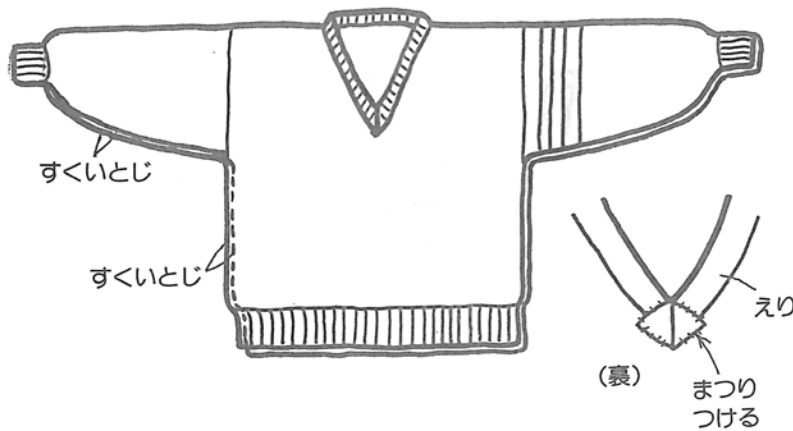
そでをつけます



マイセーターのときと同じ方法で付けます。
(33頁参照)

● そでを付けるとき、身ごろの左そで側にストライプの入った方のそでを付けます。

わきとそで下をとじあわせてから仕上げをします



● マイセーターの34頁を参照してください。

① わきとそで下は、すくいとじでとじます。

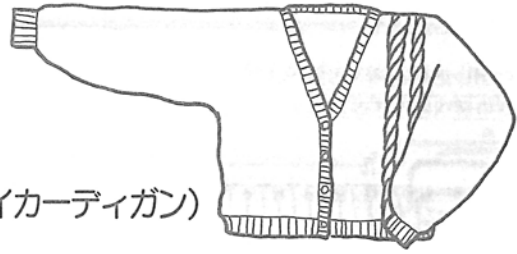
② 捨て編をはずして、糸端の始末をします。

③ アイロンをかけて仕上げをします。

アイロンをかけるとき、Vえりの先は、縫い代を割って裏からアイロンをかけてください。後で縫い代がごろつかないように、細い糸で軽くまつりつけておきます。

♥ Vネックセーターの出来あがりです ♥

MY CARDIGAN (マイカーディガン)



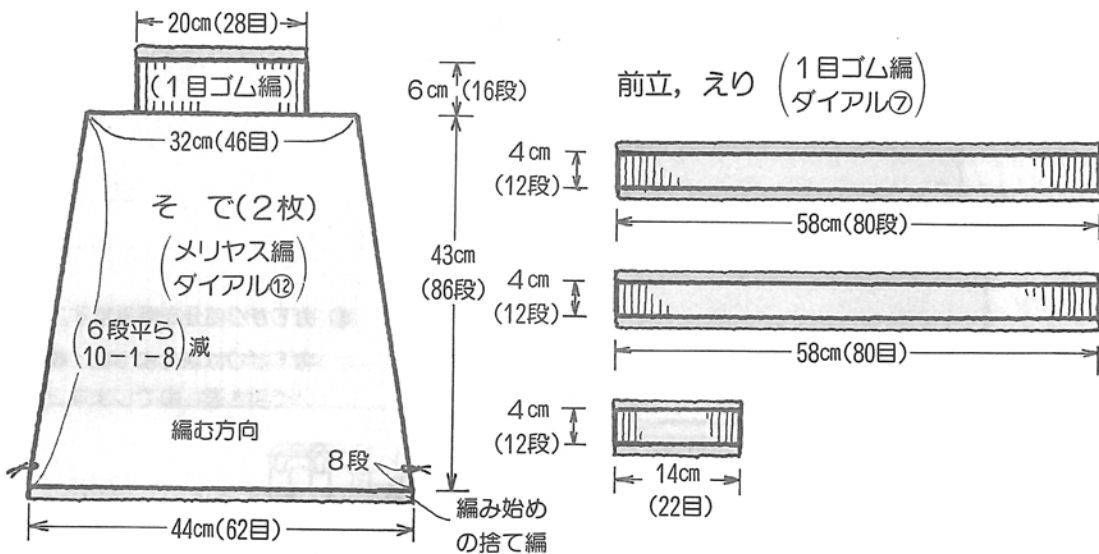
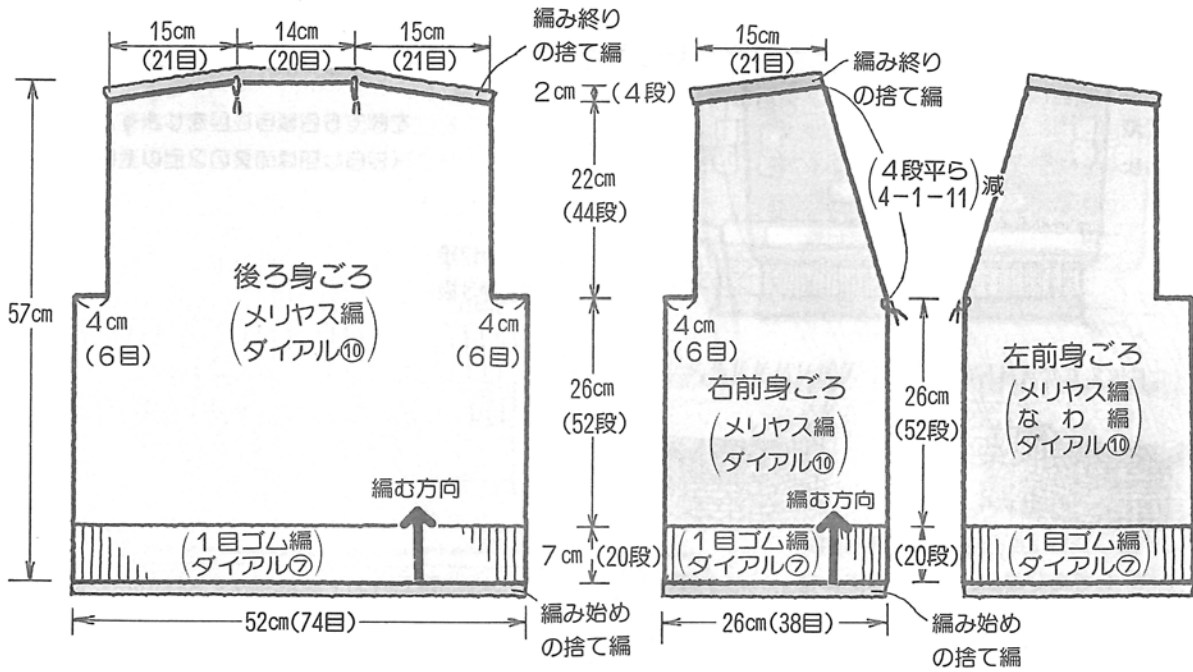
用意するもの

毛糸 (ハマナカ スコッチツイード紺) 500g
 直径2.5のボタン 4個
 捨て編用の糸 残り糸少々

ゲージと出来あがり寸法

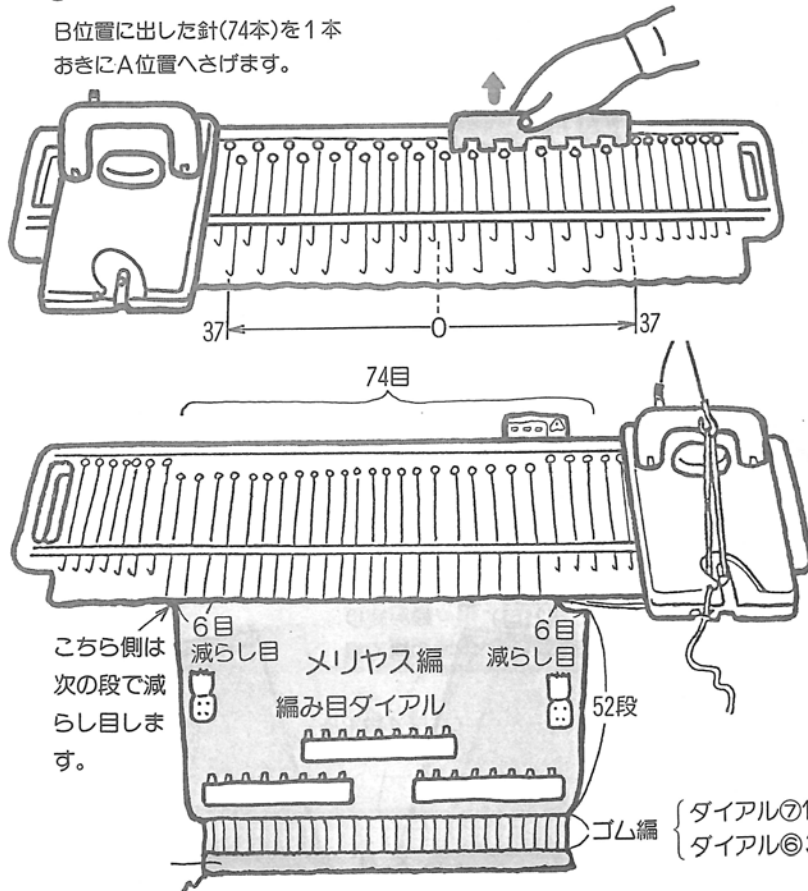
メリヤス編
 編み目ダイヤル ⑩
 ゲージ (14目) 10cm角
 (20段)

出来あがり寸法
 胸囲 104cm
 たけ 57cm
 ゆき 71cm

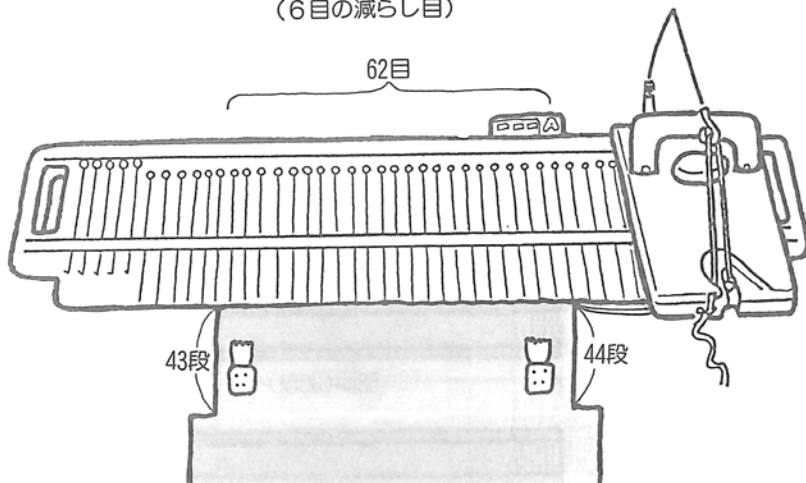
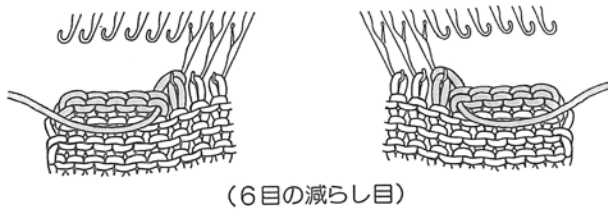


後ろ身ごろを編みましょう

B位置に出した針(74本)を1本
おきにA位置へさげます。



こちら側は
次の段で減
らし目しま
す。



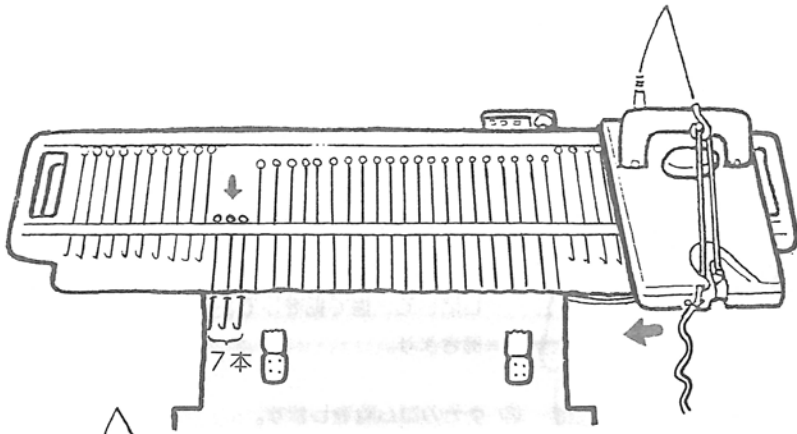
- ① 1目ゴム編の針出しして捨て編をします。
後ろ身ごろの幅の目数が74目ですので、74本の針で1目ゴム編の針出しをして、捨て編を5~6段編み、キャリアジを右側におきます。
- ② すそのゴム編をします。
編み目ダイヤルを⑥にして3段編みます。
A位置の針をB位置に出して、編み目ダイヤルを⑦にして17段編みます。
タッピで1目おきに表目に直します。
- ③ そでぐりまで編み、減らし目をします。
編み目ダイヤルを⑩に合わせて、52段編みます。
糸端のある右側で6目減らし目をします。
1段編みます。
左側で6目減らし目をします。
(減らし目は58頁の2目以上の減らし目参照)

- ④ 肩まで編みます。
そのまま、まっすぐ43段編みます。

- ⑤ 肩下がり部分を編みます。
肩下がりには次のように、編む部分を減らしていく引き返し編でします。(60頁参照)

キャリジが右側にありますので、左端の針から始めます。

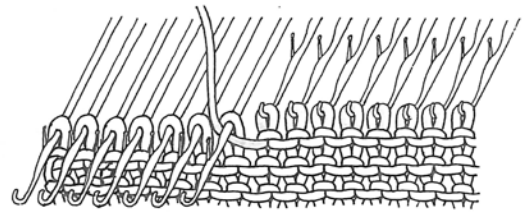
(1) 左側の針7本をB位置からD位置へ出します。



(2) 1段編みます。

D位置へ出した針は編まれずに上に糸が渡ります。

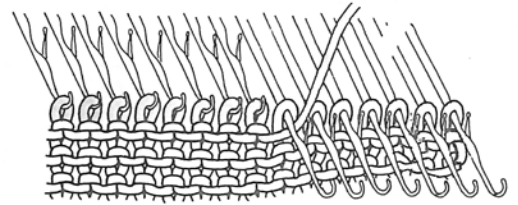
(3) 編み終わったとなりのD位置の針に糸を下からかけます。



(4) 右側の針6本をD位置へ出します。

(5) 1段編みます。

(6) 編み終わったとなりのD位置の針に糸を下からかけます。

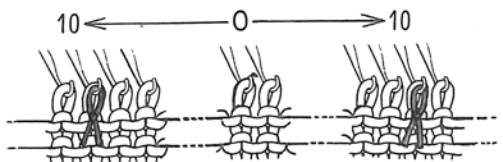


(7) (1)から(6)までをもう1回くり返します。

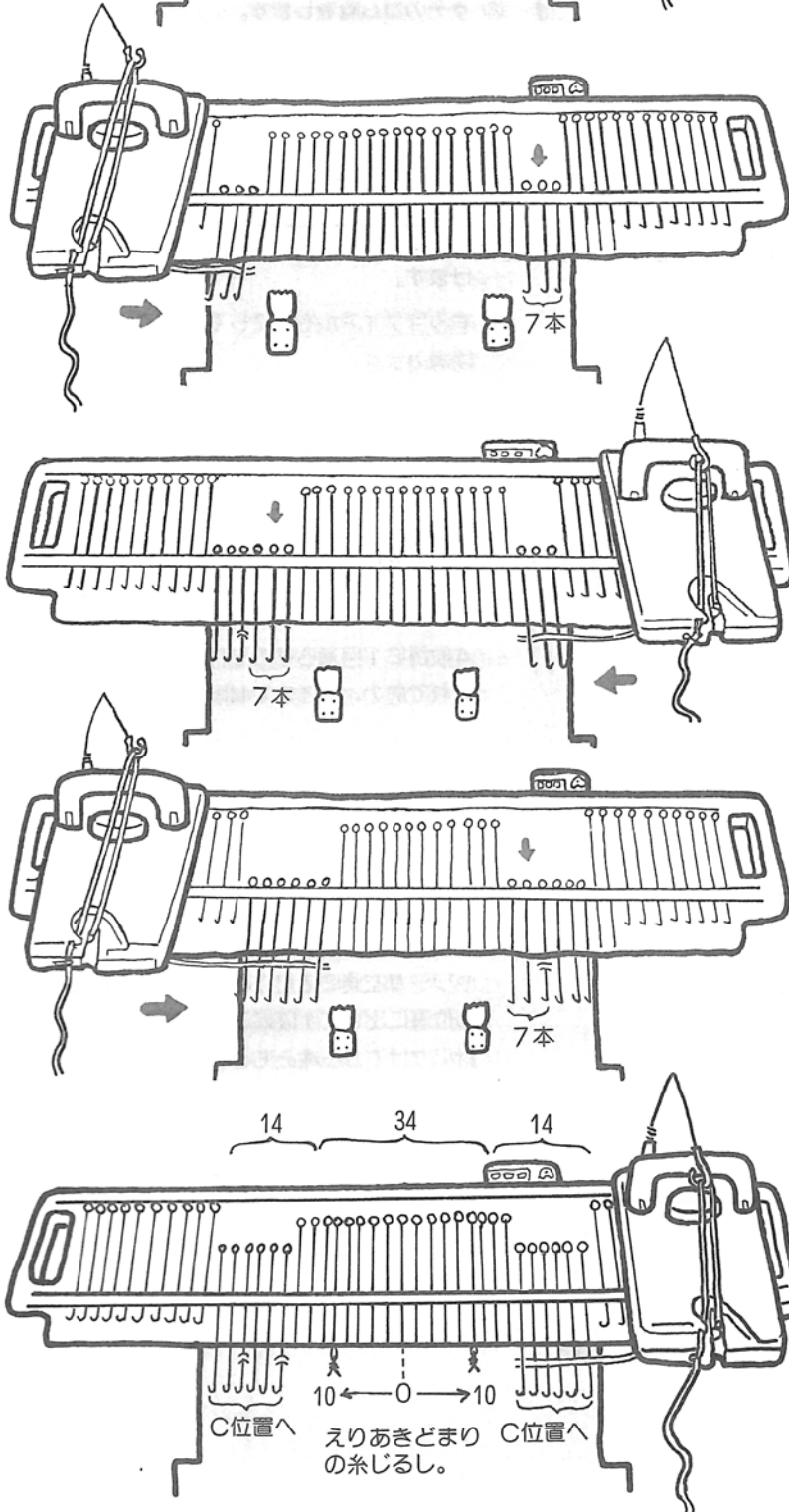
(左右で6目ずつ2回引き返し編をして、合計4段編んだこととなります。)

(8) 引き返し編が終了したらD位置に出ている針をC位置にもどします。

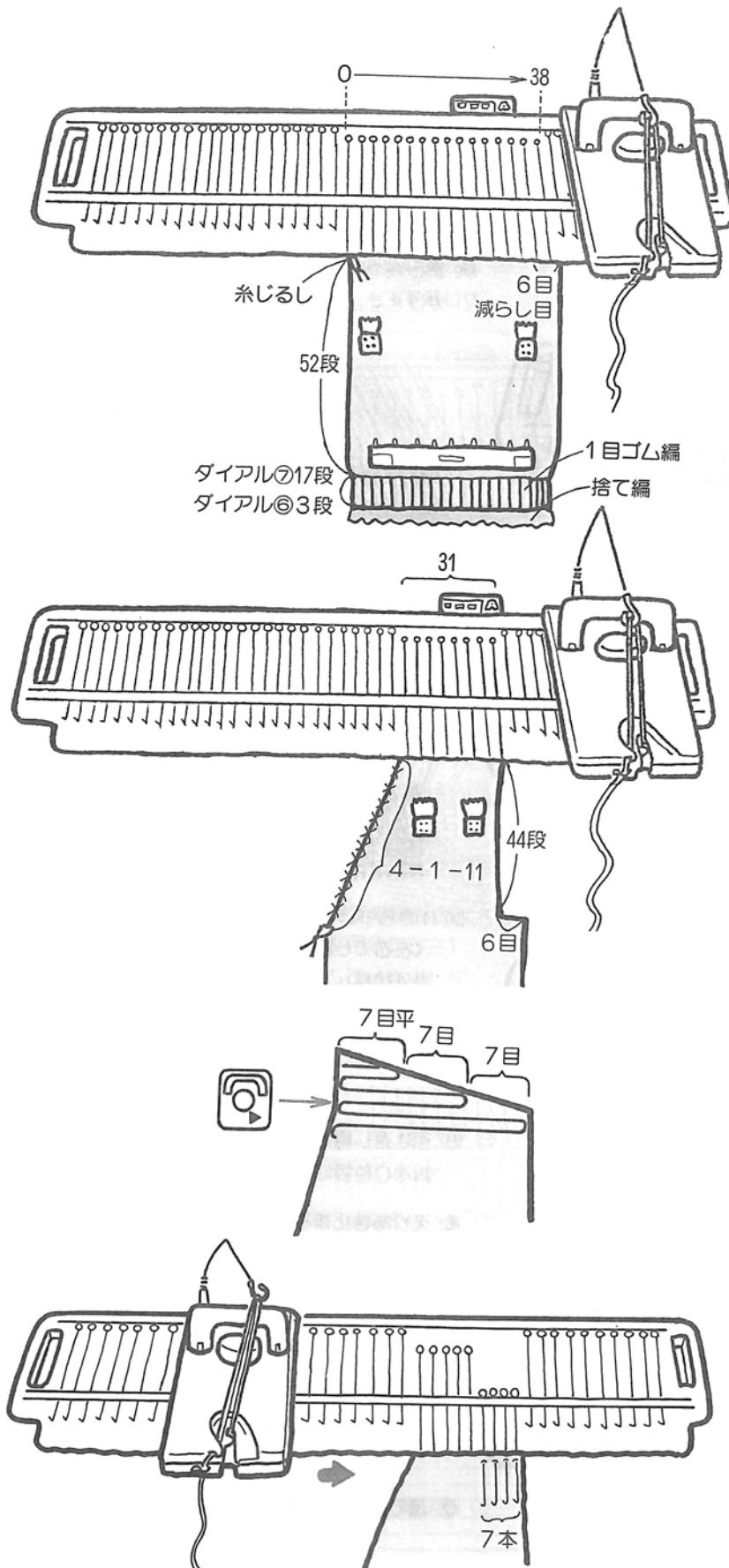
(9) えりあき止まりの糸じるしを付けます。



(10) 捨て編を7~8段編んではずします。

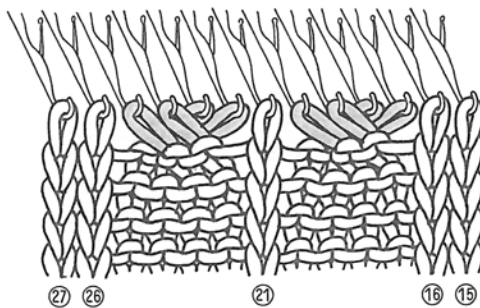
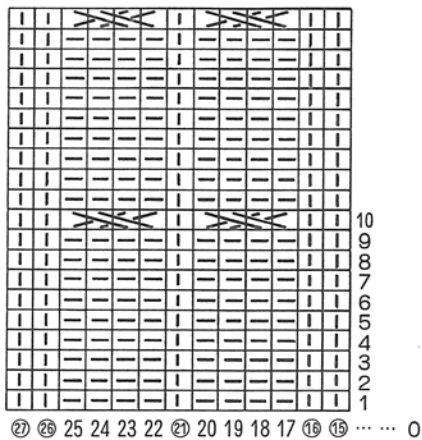
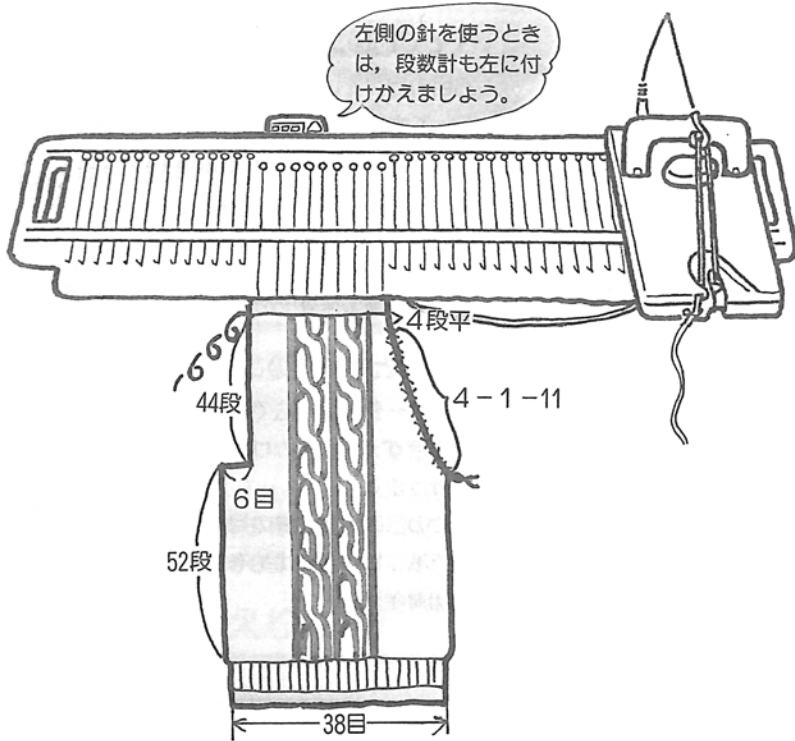


前身ごろを編みましょう



(右前身ごろを編みます)

- ① 1目ゴム編の針出しで捨て編をします。
前身ごろの幅の目数が38目ですので、編み機の0から右側に38目の針を1目ゴム編の針出しにして、捨て編をして、キャリアジを右側におきます。
- ② すそのゴム編をします。
後ろ身ごろと同様に編みます。
ダイヤル⑥で3段編み、全目にして、ダイヤル⑦で17段編み、タツビで1目ゴム編をします。
- ③ そでぐりまで編み、減らし目と糸じるしを付けます。
編み目ダイヤルを⑩にして、そでぐりまで52段編みます。
右側で6目の減らし目をします。
左端の目に入りあき止まりの糸じるしを付けます。
- ④ えりの減らし目をしながら肩まで編みます。
左のえりあき側で次のように減らし目をします。
4段毎に1目減らすのを11回します。
これで肩のところまで44段編めました。
- ⑤ 肩の引き返し編をします。
後ろ身ごろと同じ方法ですが、片側だけの引き返し編をします。
キャリアジが右側にありますので1段編み、キャリアジが左側にきたところで右側の針7本をD位置に出して1段編み、糸をD位置の端の針にかけてから編みもどります。
これをもう一回くり返します。
肩はぎ用の糸を残して切ります。
- ⑥ 捨て編をしてはしません。



15 16 21 26 27の目はタッピで表目に直します。……中心(0)からの針の位置

(左前身ごろを編みます)

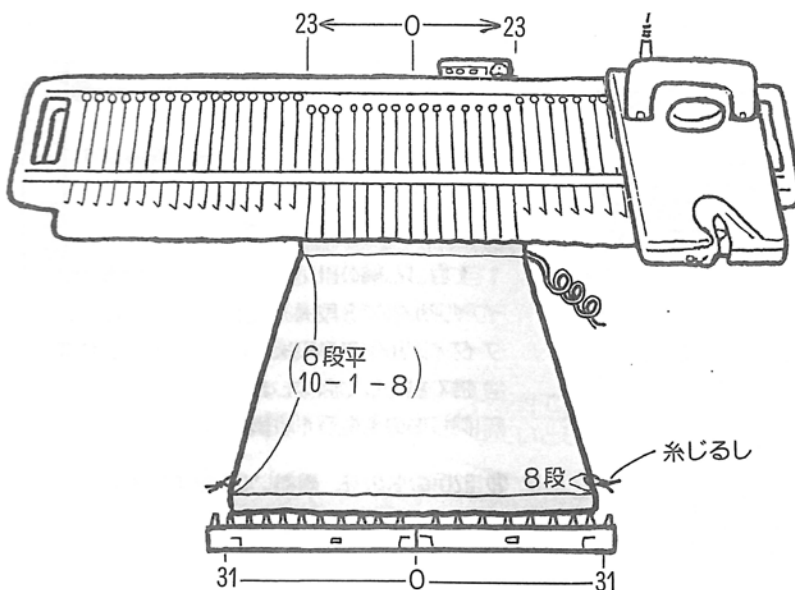
右前身ごろに対して左右対称に編みます。針出しは、0より左側の38針を使って捨て編をしてから、すその1目ゴム編を編みます。身ごろのメリヤス編の部分には2目交差のなわ編を入れて編みます。(53頁参照) なわ編の位置と方法は左図のようにします。

- 編み目を交差した次の段がよく編めないときは、編み目を交差し終りましたら、交差した針をD位置へ出してから、C位置へもどします。それから次の段を編んでください。

その他そでとえりの減らし目及び肩下がり引き返し編は右前身ごろを参照して左右反対にして編んでください。

そでの減らし目より上は、えりの減らし目や肩の引き返し編などをしながら、なわ編もしなければなりませんので、前もって、減らし目や、なわ編の交差をする段数を順に書き出しておき、編む時は、段数計を見ながらその指示通りに編むと間違いがなく効率的です。

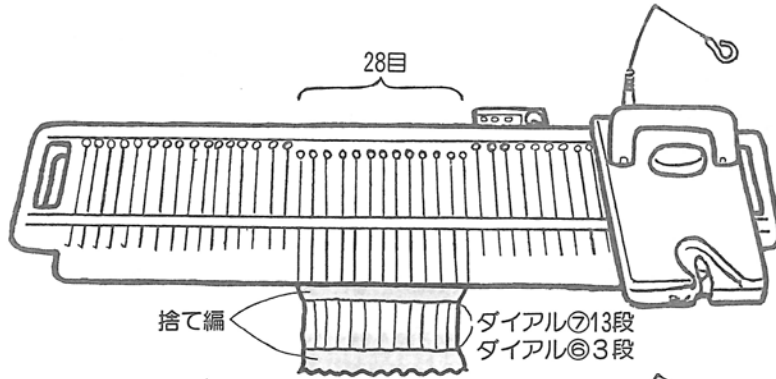
そでを編みましょう



- そでの編み方は、編み目ダイヤル、編む目数、段数、減らし目の数が異なりますが、編む手順と方法は、マイセーターの場合と全く同じです。28頁を参照してください。

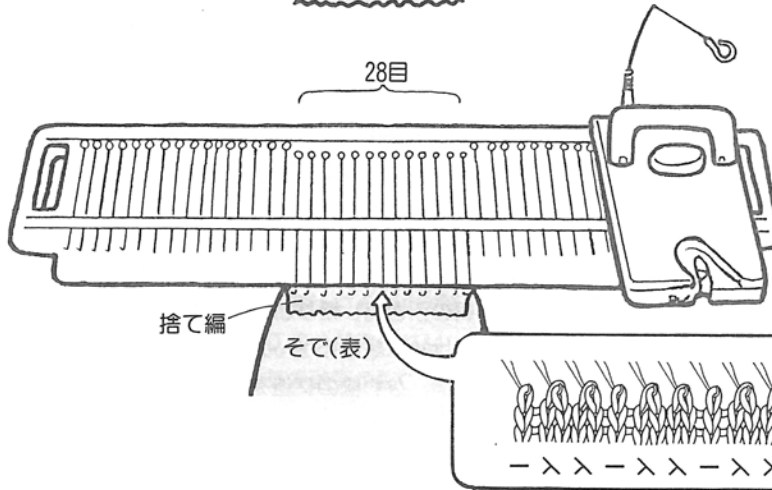
(そでを編みます)

- ① 62目で捨て編をして編み始めます。
- ② 減らし目をしながらそでの部分を編みます。編み目ダイヤルを⑩にセットします。8段編んで、両端に糸じるしを付けます。そのまま両端で10段毎に1目8回減らし目をした後、6段編みます。
- ③ 捨て編をしてはずします。



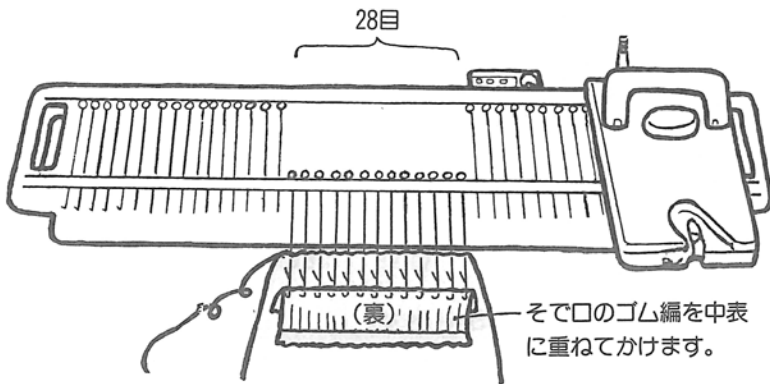
(そで口のゴム編を編みます)

28目の目数で、1目ゴム編の針出しして捨て編をしてから、ダイヤル⑥で3段編み、全目の針出しにして、ダイヤル⑦で13段編みます。タッピで1目ゴム編にします。捨て編をしてはしませんが。そでとそで口のゴム編を同じようにしてもう1枚ずつ編みます。

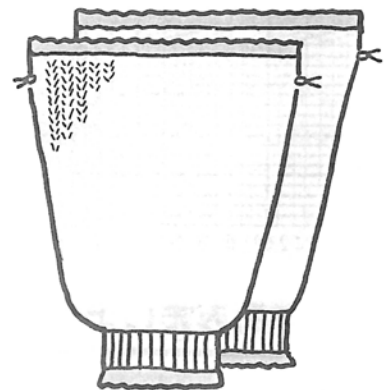


(そでとそで口のゴム編をはぎます)

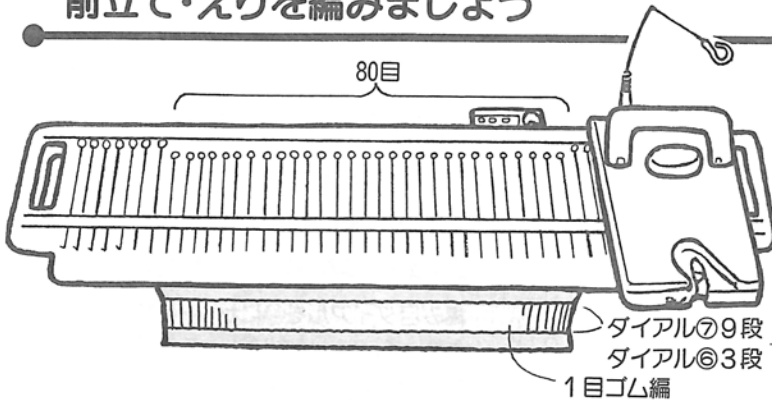
マイセーターの方法で、そでの方の余分な目を2目ずつ重ねてかけ、丁度28目になるようにかけます。そでの目に、ゴム編の目を中表に重ねてかけ、ペラ越しして巻き止めをします。(30頁参照)



♥そでの出来あがりです♥



前立て・えりを編みましょう

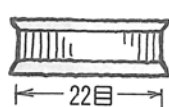
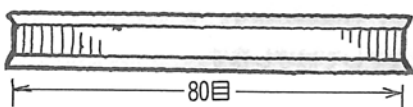


● マイセーターのえりと同じ方法で編みます。(31頁参照)

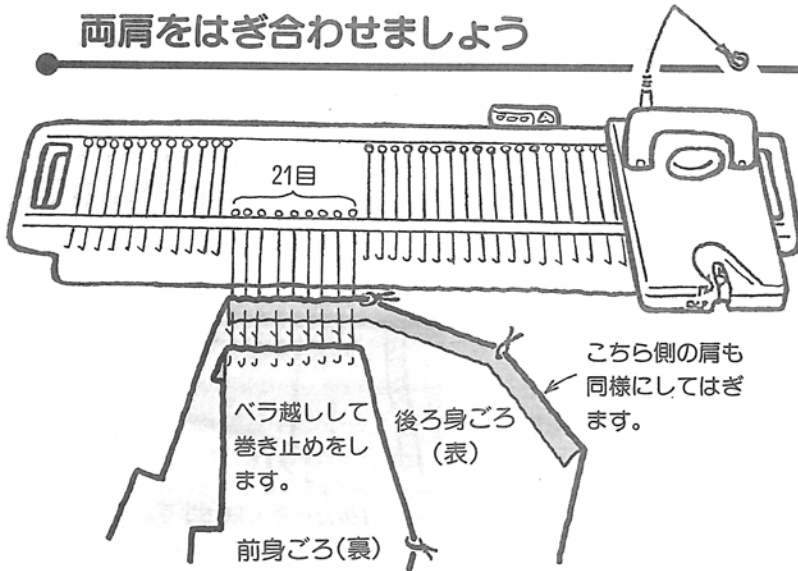
① 80目のものを2枚編みます。

1目ゴム編の針出しして捨て編をしてから、ダイヤル⑥で3段編み、全目の針出しにして、ダイヤル⑦で9段編み、1目ゴム編にします。捨て編をしてはしませんが。同じものをもう1枚編みます。

② 22目のものを、同様にして1枚編みます。

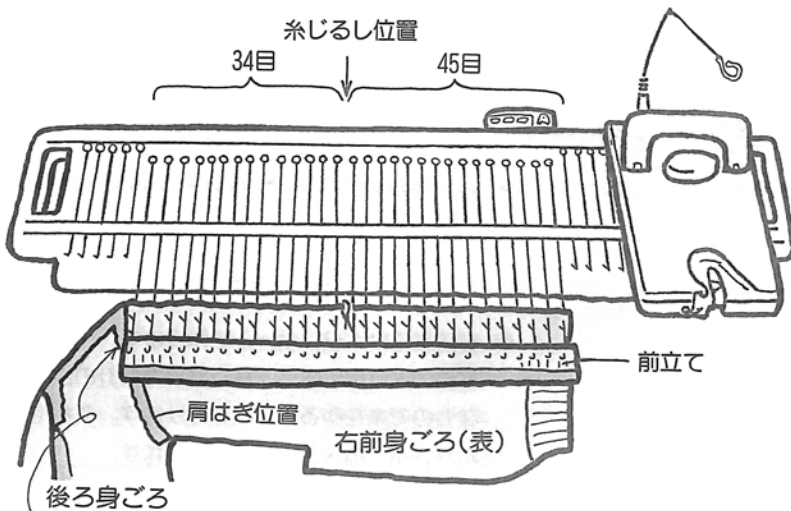


両肩をはぎ合わせましょう

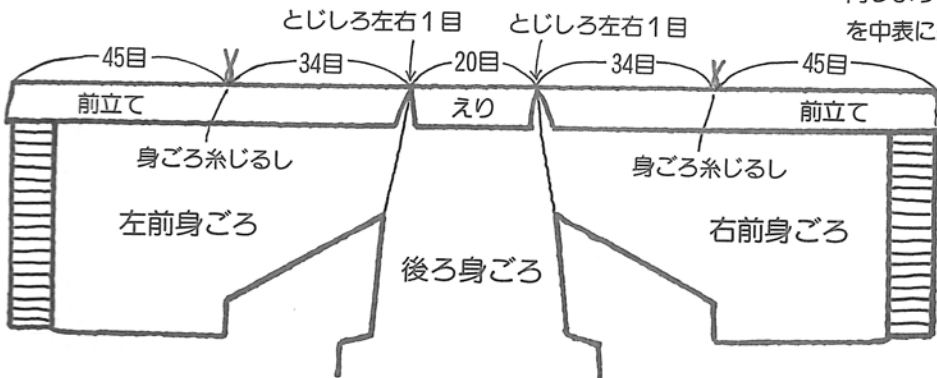


- マイセーターと同じ方法で両肩共はぎ合わせてください。(32頁参照)

前立てとえりを付けましょう



後ろ身ごろ 端の1目は、とじしろとして2目重ねて針にかけます。



- マイセーターのえりと同じ方法で付けます。

① 右前身ごろに前立てを付けます。

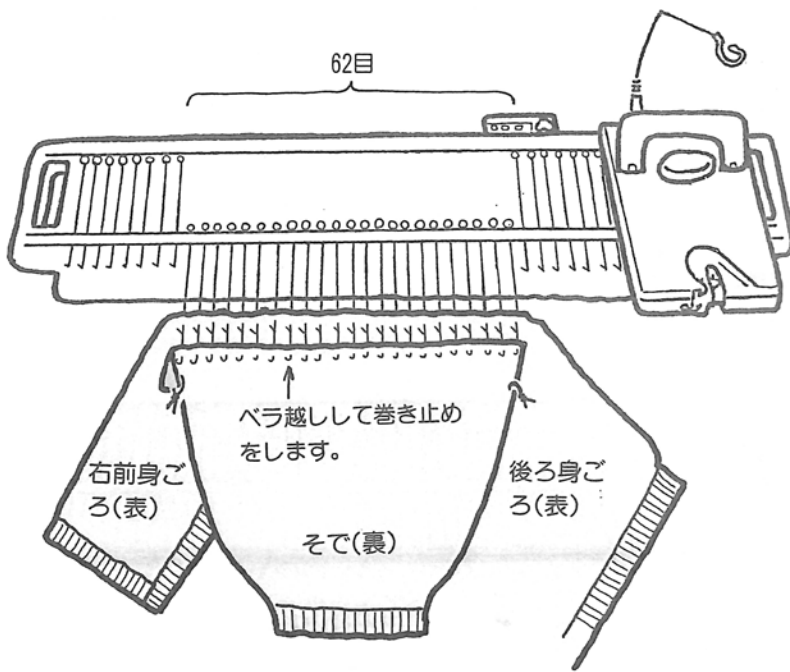
右前身ごろを表を手前にして編み機にかけます。(33頁の身ごろへのそでのつけ方参照) すそから糸じるしのところまでで45目、糸じるしから肩のところまでで34目拾ってかけます。右前身ごろと中表になるように、前立てを重ねてかけます。左端の1目は、とじしろとして、2目重ねてかけます。ベラ越しして、巻き止めをします。

② 左前身ごろも同じようにして付けます。

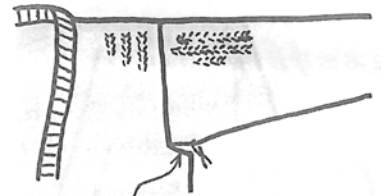
③ 後ろ身ごろにえりを付けます。

同じように、後ろ身ごろのえりあきと、えりを中表に編み機にかけて、ベラ越しして巻き止めをします。えりの両端の1目は、とじしろとして、重ねて針にかけます。

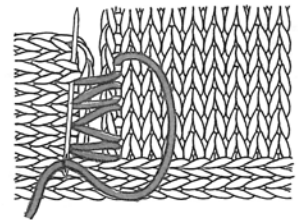
そでを付けましょう



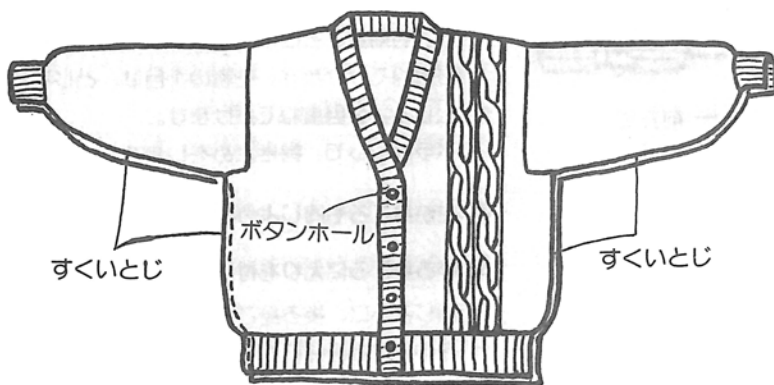
- マイセーターのそでの付け方と同じ方法ですが、カーティガンの場合は、身ごろにそでぐりがありますのでその点だけ注意してとじましょう。(33頁参照)



ここは後から手ではぎます。

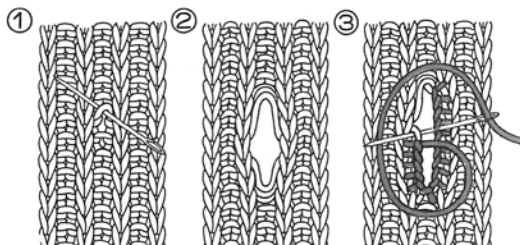
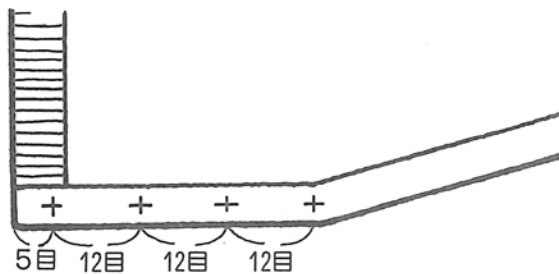


わきとそで下をとじ合わせてから仕上げをします



- わきとそで下は、すくいとじをします。(マイセーターの34頁参照)
- 右前立てにボタンホールを作ります。右図のような位置に、トジ針かカギ針のようなもので糸をゆるめて穴をあけます。それをボタンホールステッチでかがります。

仕上げのアイロンをかけます。
仕上げの方法は20、34頁も参照してください。
左前身ごろの前立てにボタンを付けます。



♥ マイカーティガンの出来あがりです ♥

模様編の編み方

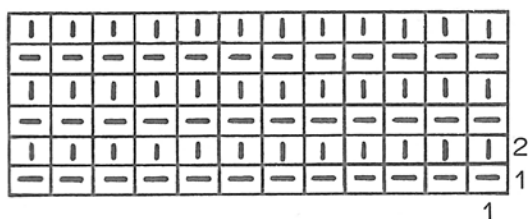
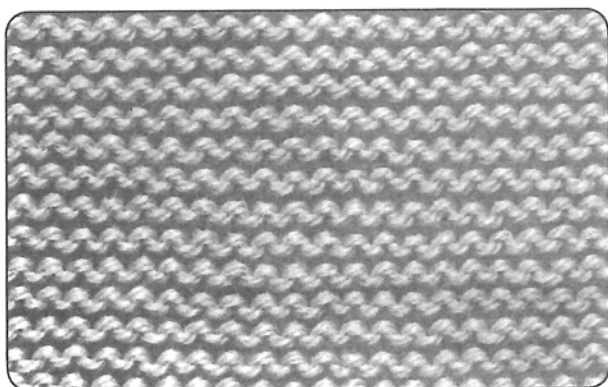
- メリヤス編以外のいろいろな編み方を覚えましょう。ウツシやタツビを利用したり、針を操作することによって沢山の変化のある模様を編むことが出来ます。早速マスターして作品作りに応用しましょう。

(注意)●それぞれの模様には、編み目記号図がついていますが、手編みの場合の記号と同じです。ただし、編み機で編む場合は、編み目を裏目側から見て編みますので、表目を使う模様の場合も、すべて裏目側から見た表示になっていますので注意してください。主な編み記号の一覧表が巻末の73頁のついていますのでご覧ください。

- 模様編の場合は、編み目を移したり、引き上げたりしますので、編み目が不安定になりがちです。そこで編み目を落ち着かせるために、必ず編み出し板とオモリを正しくかけることを心がけてください。

ガーター編

- 表目と裏目を1段おきに交互にした編み方です。



- メリヤス編を2段編み、そのうちの1段をタツビで表目に直すという方法で編みます。

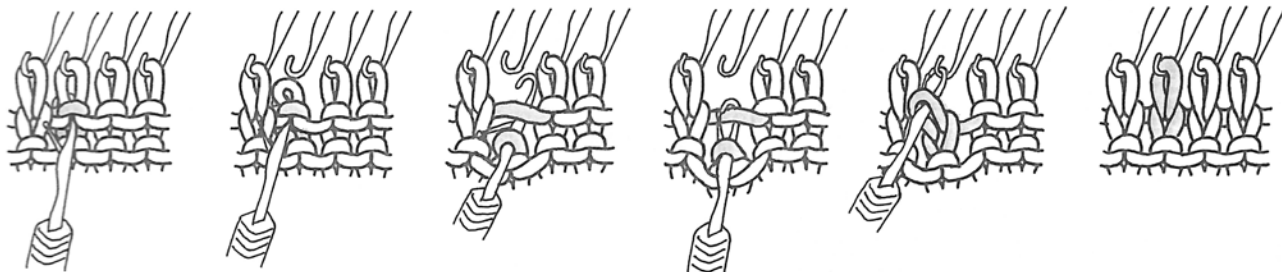
(編み方)

- ①メリヤス編を2段編みます。
- ②今編んだ最後の1段をすべて表目に直します。(下図参照)
- ③①②をくり返します。
(場合によっては端の1目は表目に直さなくてもかまいません。)

(ヒントとアドバイス)

- ガーター編は、編み目ダイヤルをややつめて編むと、きれいに仕上がります。特に前立てやえり、縁編などに使う場合は、標準より1~2目盛つめて編みます。

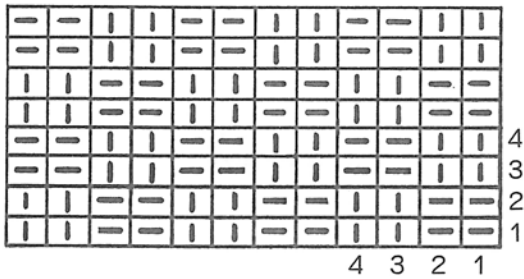
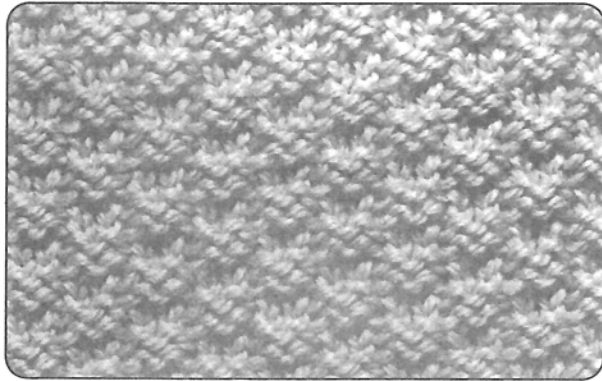
(ガーター編の場合の表目への直し方)



- ①1段下の目にタツビの先を横にして図のように入れます。
- ②そのままタツビの先を持ち上げて編み目をはずします。
- ③タツビを押し込みながら下に強く押しつけると編み目がほどけます。
- ④ほどけた横糸をタツビのフックにかけて引き出すと表目になります。
- ⑤タツビの先を横にして針のフックにかけ編み目を移します。
- ⑥同じようにして順に表目に直していきます。

表 目 裏 目 模 様

- タツビで裏目を表目に直して模様を作ります。



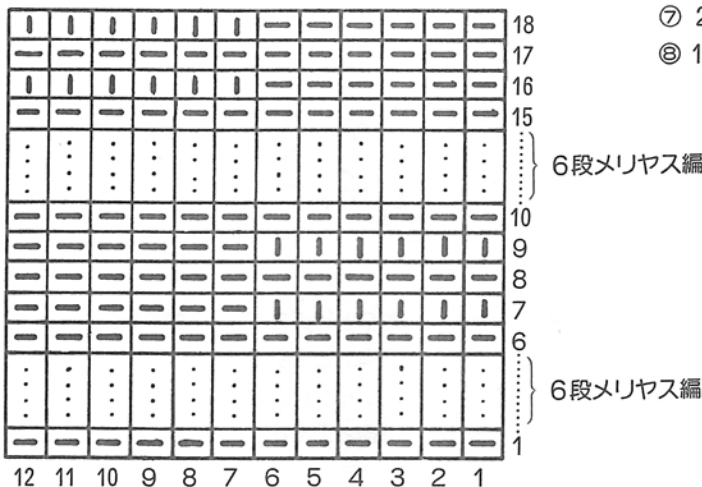
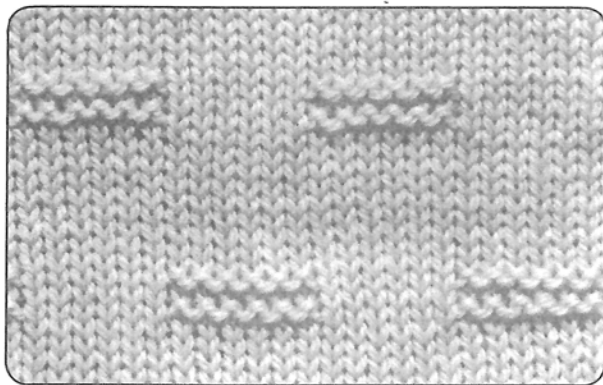
- 2目2段ずつ交互に表目と裏目にした模様（かのご編）です。

（編み方）

- ① 2段メリヤス編を編みます。
- ② 2目おきに2目ずつタツビで2段表目に直します。
- ③ 2段メリヤス編を編みます。
- ④ ②のとき裏目のままだった所を表目に直します。
- ⑤ ①～④をくり返します。

（ヒントとアドバイス）

- 編み目ダイヤルは、ややきつめの方がきれいに編めます。
- 裏目に直す方法は、ガーター編、又は1目ゴム編と同じです。



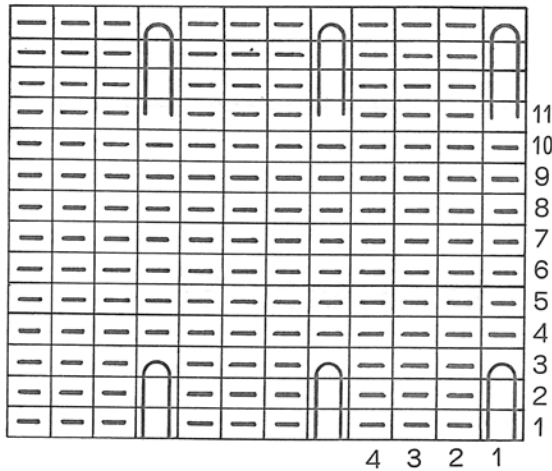
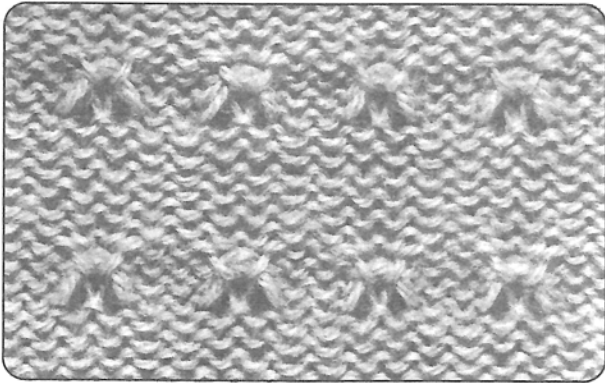
- 簡単に編めて、とても効果的な模様です。

（編み方）

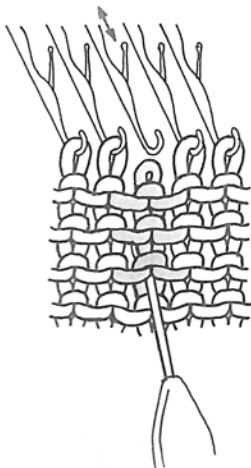
- ① 7段メリヤス編を編みます。
- ② 7段めの目を6目おきに6目ずつタツビで表目に直します。
- ③ 2段メリヤス編を編みます。
- ④ 9段めの目を②のときと同じく、表目に直します。
- ⑤ 7段メリヤス編を編みます。
- ⑥ 16段めの目を、②のとき表目に直さなかった所を表目に直します。
- ⑦ 2段メリヤス編を編みます。
- ⑧ 18段めの目を⑥と同じく表目に直します。

引き上げ編

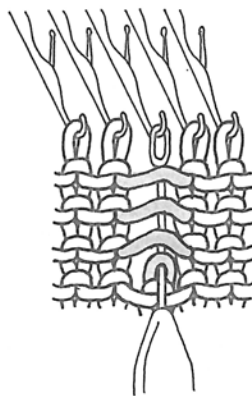
● ウツシを使って模様を作ります。



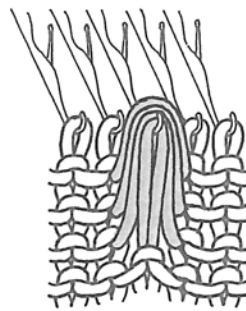
(編み目の引き上げ方) …… 3段引き上げの場合。



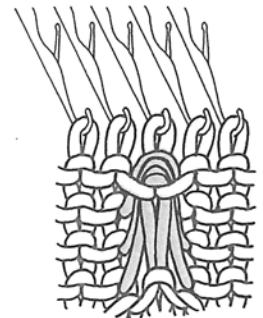
① 3段下の編み目にウツシの先を入れて編み目はずします。



② 編み目をほどいてウツシを図のように入れ、先をフックにかけます。



③ 全部まとめて、フックに移します。3目おきに同様に行います。



④ 1段編むと図のようになります。

● 3目おきに3段引き上げた模様です。

(編み方)

模様図は最初の段から引き上げ編になっていますので、その前にメリヤス編を2段以上編んでください。

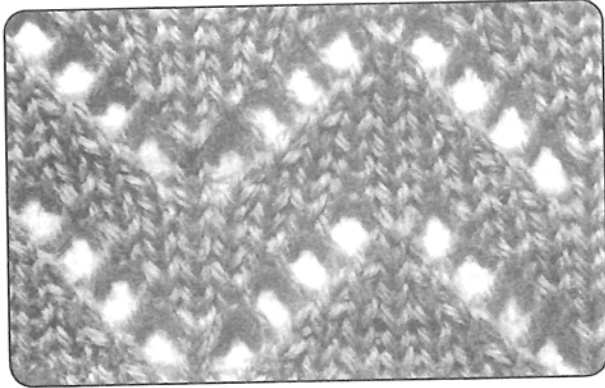
- ① 3段メリヤス編を編みます。3目おきに図のように目はずして3段ほどき、それをウツシで引き上げて針にかけます。
- ② 8段メリヤス編を編みます。
- ③ ①②をくり返します。

(ヒントとアドバイス)

- 編み出し板とオモリをしっかりかけてください。特にウツシで引き上げて、次の段を編むときは浮きやすいですから注意してください。
- 引き上げることの出来る段数は、3段位までです。細い糸ほど引き上げやすくなります。編み目ダイヤルはきつすぎると編みにくくなります。

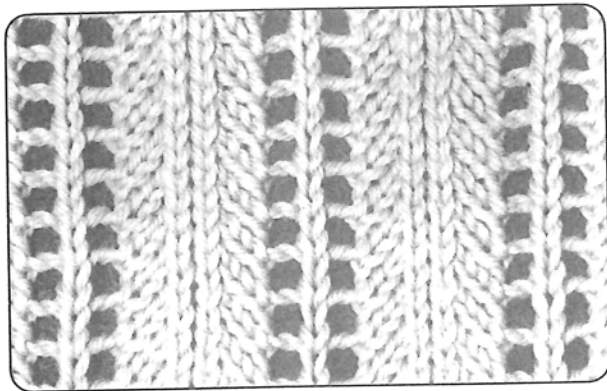
レース編 (透かし模様)

- ウツシで編み目を移して穴をあけ、模様を作ります。



○	-	-	-	-	-	-	-	-	△	○	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
△	○	-	-	-	-	-	△	-	△	○	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	△	○	-	-	-	△	-	-	-	△	○	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	△	○	-	-	△	-	-	-	-	△	○	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
○	-	-	-	-	-	-	△	○	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
△	○	-	-	-	-	-	△	-	△	○	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	△	○	-	-	-	△	-	-	-	-	△	○	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	△	○	-	-	△	-	-	-	-	△	○	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1



△	△	△	○	-	○	/	/	△	△	△	△	△	○	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
△	△	△	○	-	○	/	/	△	△	△	△	△	○	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
△	△	△	○	-	○	/	/	△	△	△	△	△	○	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

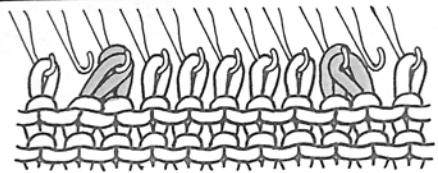
8 7 6 5 4 3 2 1

- 模様図に従ってウツシで編み目を移しながら編みます。

(編み方)

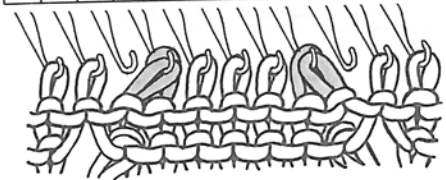
- ① メリヤス編を2段編みます。
- ② 模様図の2段めの通り編み目を移します。

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
-	○	△	-	-	-	-	-	△	○	-



- ③ メリヤス編を2段編みます。
- ④ 模様図の4段めの通り編み目を移します。

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
-	-	○	△	-	-	-	-	△	○	-



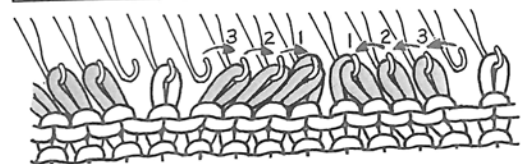
- ⑤ 以下同じようにして、2段メリヤス編を編んで6段めの模様図の通り編み目を移し、更に2段メリヤス編を編んで8段めの模様図の通り目を移します。
- ⑥ ①~⑤までをくり返します。

- よせ目のレース編です。(よせ目とは、目を何目分かまとめて同じ方向へ移動して、編み目にななめ方向の流れをつくる方法です。)

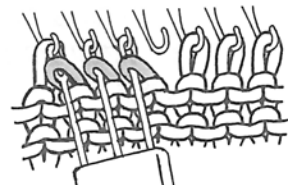
(編み方)

- ① メリヤス編を2段編みます。
- ② 模様図の2段めの通り、編み目を移します。

△	△	○	-	○	/	/	△	△	△	△	△	○	-
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---



目を移す順序は、上図の番号順に移します。



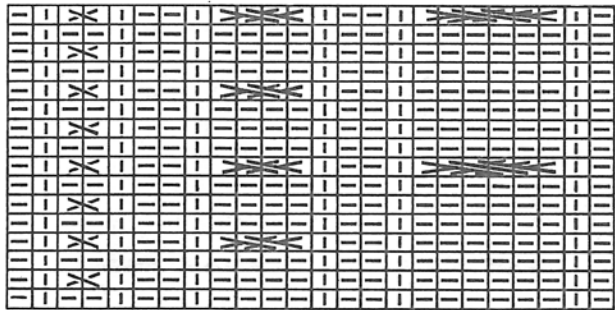
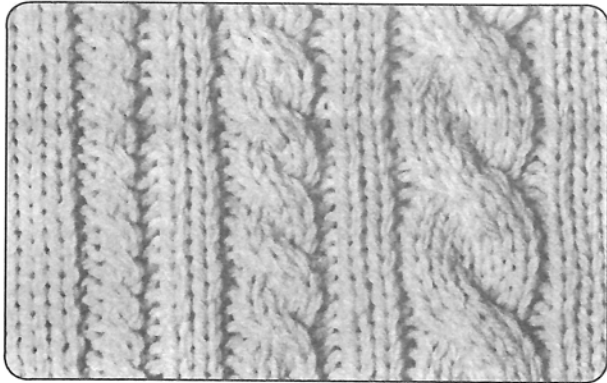
3目のウツシを使って移すと効率よく出来ます。

- ③ ①②をくり返します。

な わ 編

● ウツシで編み目を交差させて、なわのような感じを出させる編み方です。

1目の交差 2目の交差 3目の交差



● 2本のウツシを使って目を移しかえます。
ウツシには、先が1本のもの、2本のもの、3本のものがあり、それぞれ組み合わせて使えるようになっていますので、編みたいなわの太さに応じて使い分けてください。

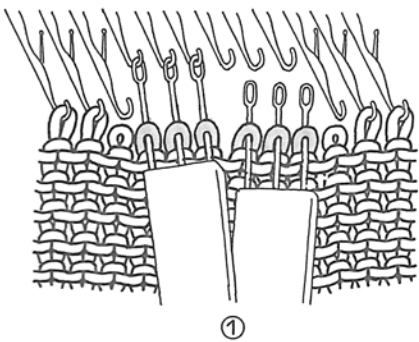
(編み方) …… 3目3目のなわ編の場合

- ① メリヤス編を5段編みます。
- ② 3目のウツシ2本をそれぞれ両手に持ち、交差する針の目をそれぞれとります。
- ③ ウツシの先を上向けたまま編み目を交差させ互いの空き針にかけます。
(交差するとき移しずらいようでしたら、交差する針の外側の針の目はずしておくと移しよくなります。)
- ④ メリヤス編を10段編みます。
- ⑤ ②～④をくり返します。
- ⑥ 2回位交差したところで、なわ編の両外側のはずしてある目をタッビを使って表目に直します。

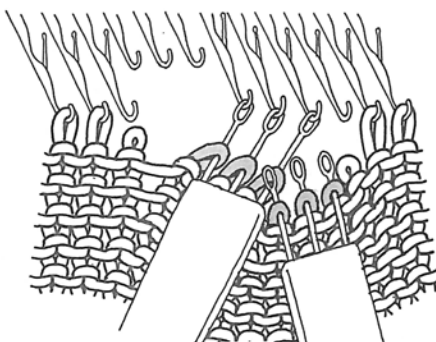
(ヒントとアドバイス)

● 編み目を交差した次の段がよく編めないときは、編み目を交差し終わりましたら、交差した針をD位置へ出してから、C位置へもどします。それからメリヤス編を編みます。

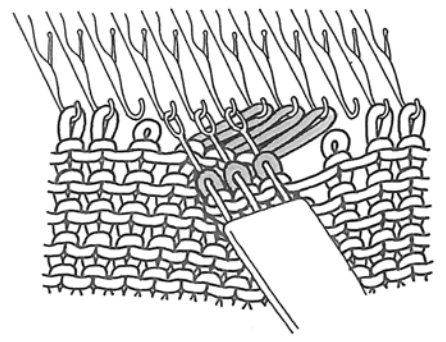
(編み目の交差のし方)



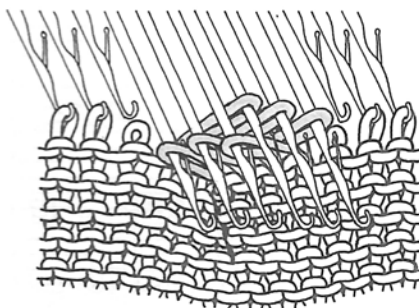
①



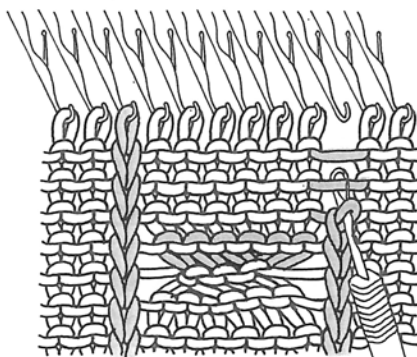
②



③



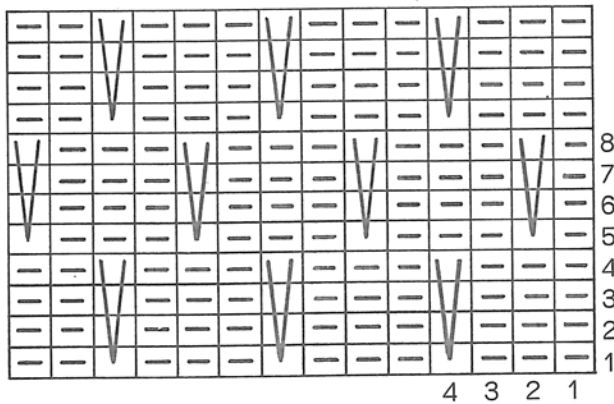
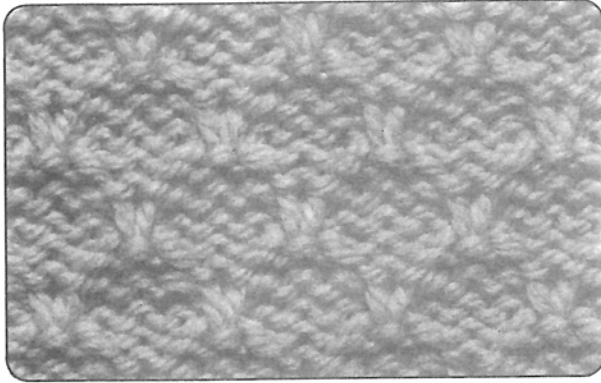
④



⑤

浮き目模様

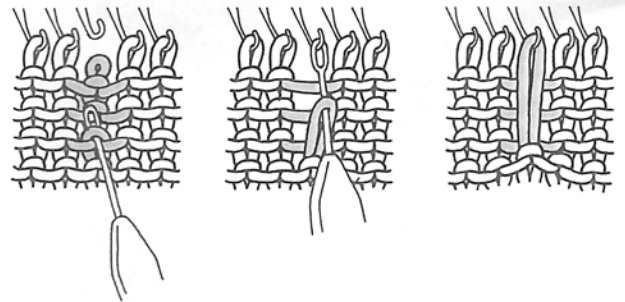
ウツシを使って、編み目をほどき、糸を横にすべらせて模様を作ります。



- 3目おきに3段すべらせた模様です。

(編み方)

- ① メリヤス編を4段編みます。
- ② 端から4目めから3目おきに、次のようにしてすべり目にします。



まず、3段下の編み目にウツシの先を入れてから、編み目はずしてほどきます。

ほどいて横に渡った3本の糸はそのままにして、ウツシにかかっている目だけを上の針にかけます。

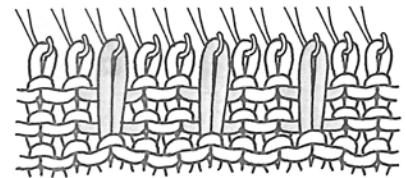
3本おきに他の針も同様にします。

- ③ メリヤス編を4段編みます。
- ④ ②のときすべり目にした針に対して2目ずらした針を、ウツシですべり目にします。
- ⑤ ①~④をくり返します。

- 2目おきに2段すべらせた模様です。

(編み方)

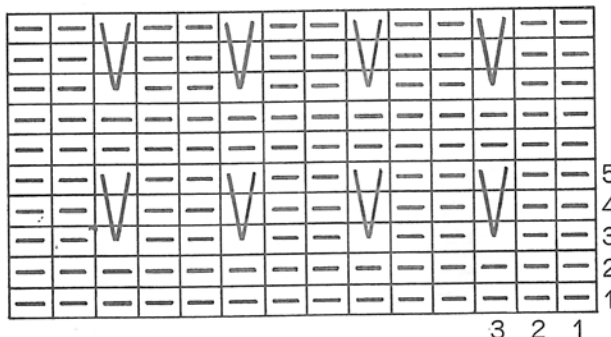
- ① メリヤス編を5段編みます。
- ② 端から3番めから2目おきに、2段のすべり目にします。



- ③ ①②をくり返します。

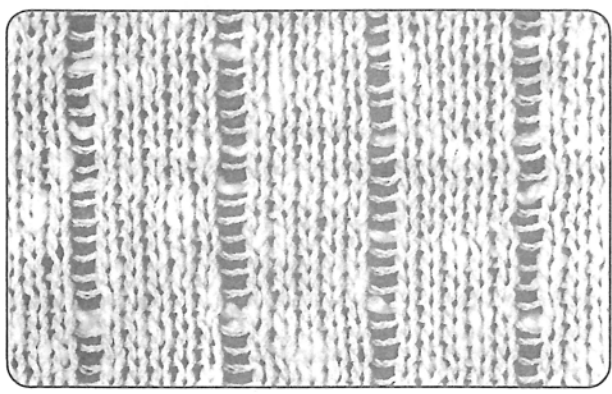
(ヒントとアドバイス)

- すべり目編で、すべらせることの出来る段数は、3段位までです。
- オモリと編み出し板はしっかりかけてください。(オモリがよくきいていないとすべり目をした次の段が編めないことがあります。)



針 ぬ き 編

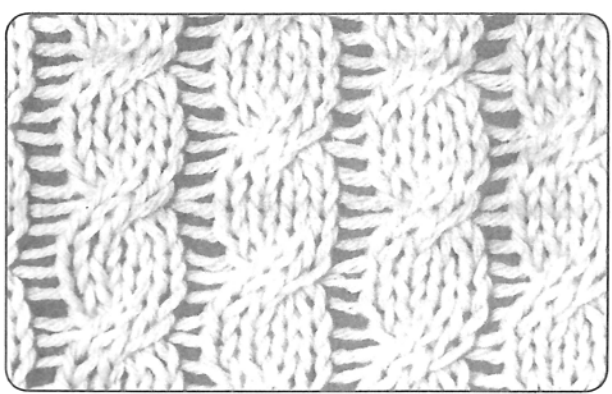
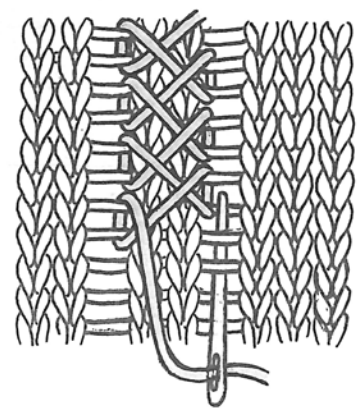
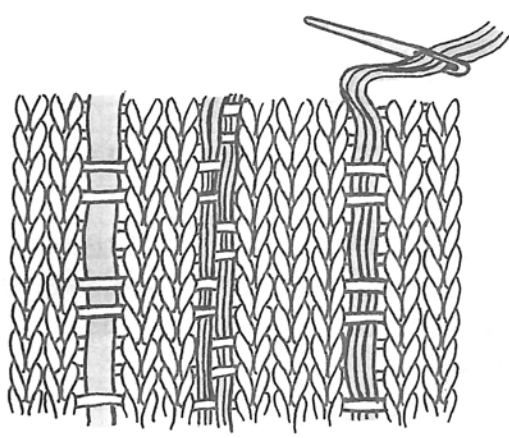
● 何目おきかに針をA位置にして編みます。



- ノットヤーン等の節のある糸の場合は、針ぬきして編んだままの編み地でもかまいませんが、その他の糸の場合は、目がゆるみやすく、単調なので、後から針ぬきした部分にリボンや、別の糸を通したり、他の糸でかがったりして変化をつけます。
- 左の模様は、5目おきに1目ずつ針ぬきしたものです。

(編み方)

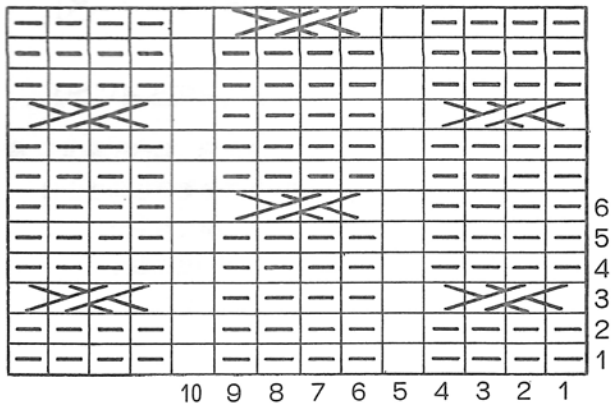
針ぬきの方法は、最初の針出しのときに、ぬく針をA位置へもどしてしまうか、又は、普通に編み出して、捨て編のときに抜く針の目をとりの針に移してから、空になった針をA位置へもどします。



● なわ編となわ編の間を針ぬきしたものです。

(編み方)

- ① 4目おきに1目ずつ針抜きします。
- ② メリヤス編を3段編みます。
- ③ 1列おきに2目ずつ交差させます。
- ④ メリヤス編を3段編みます。
- ⑤ 先に交差しなかった列を交差させます。
- ⑥ 以後3段編む毎に、交互に交差していきます。

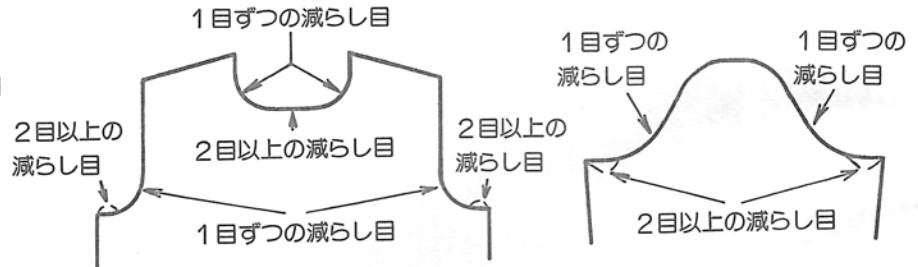


- 交差した次の段を編むときは、その段からC位置へもどし、その位置で編み始め、理なく編めます。
- 3目3目のなわ編の場合は、その段のみの針ぬきをする段のみ、針ぬきして編みます。交差する時はその段を編みます。

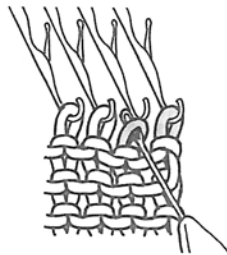
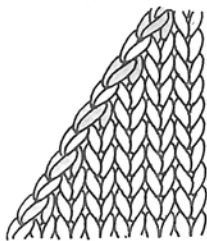
作品をつくるためのテクニク

編み目の減らし方

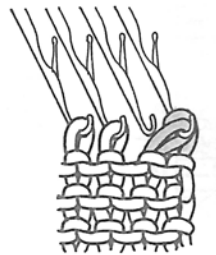
- ウツシを使って目を移して編み目を減らします。



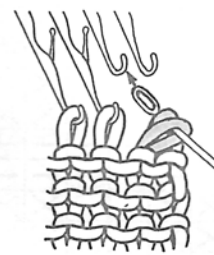
(端で1目減らし目をする場合) ★えりぐり、そでぐりなどの減らし目をするときに使います。



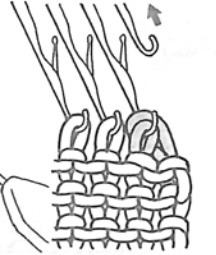
① 1目内側の目をウツシにとります。



② 端の目に重ねてか

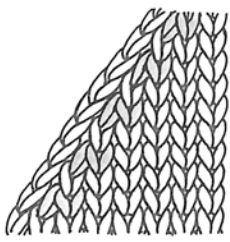


③ 端の重ねた目をウツシにとり、内側の針にかけます。

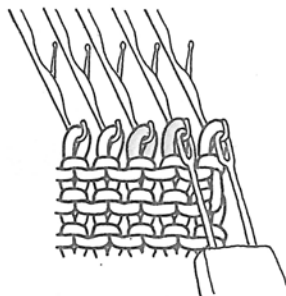


④ 端の空針はA位置にもどします。

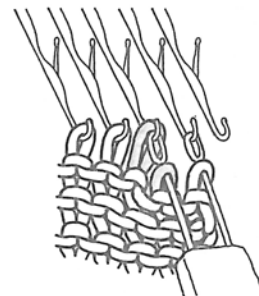
(1目内側で1目減らし目をする場合) ★えりぐり、そでぐり以外の減らし目のときに使います。



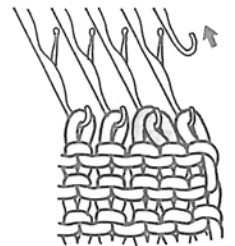
慣れない間は1目のウツシを使って1目ずつ目を移しましょう。



① 2目のうつしを使って端の2目をとります。

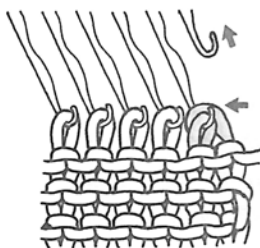


② 1目内側にずらしてうつしの目をかけます。

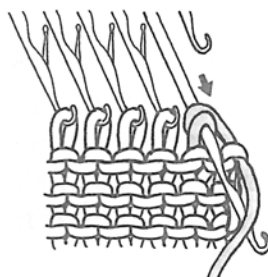


③ 端のあいた針をA位置にもどします。

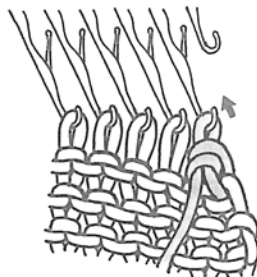
(2目以上減らす場合)



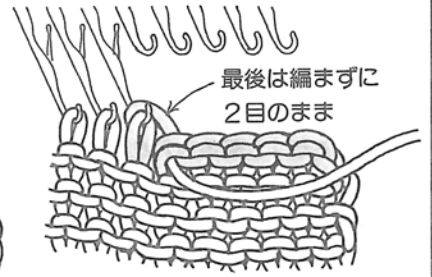
① 端で1目減らす方法で目を移します。



② 端の針をD位置へ出しフックに糸をかけます。



③ 端の針をB位置に引きこみ編みます。



④ 減らす数だけ①～③を繰り返します。

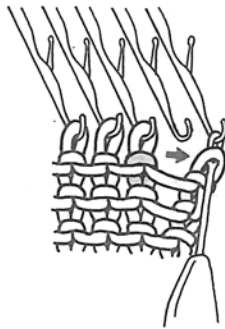
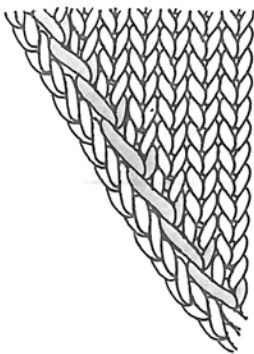
最後は編まずに2目のまま

編み目の増し方

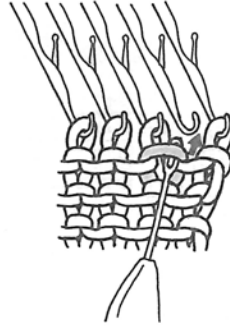
- 1目の増し目の場合はウツシを使ってします。
2目以上の増し目の場合は巻き目です。
- そで下や、フレンチスリーブ等
のとき使います。



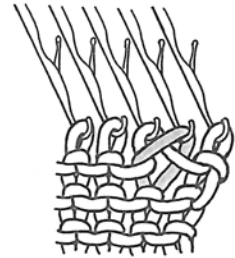
(1目内側で1目増し目をする場合)



①端の目を1目外側へ移します。

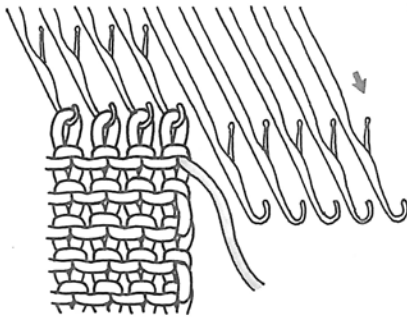


②1目内側の1段下の目をうつしてとります。

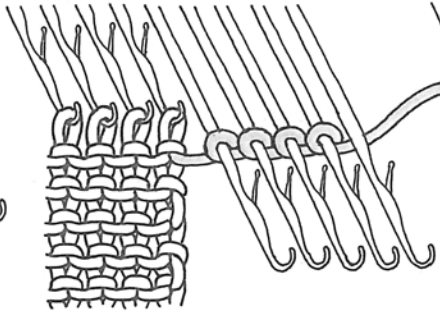


③うつしにとった目をあいた針に移します。

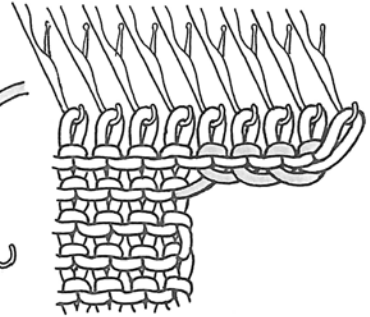
(2目以上増す場合……糸端のある側でふやします)



①増し目をする数だけA位置の針をD位置に出します。



②内側の針から糸を図のようにゆるめに巻いていきます。(最後の針は巻かずに針の下をくぐらせます)



③増し目をした針をC位置に下げ編みます。

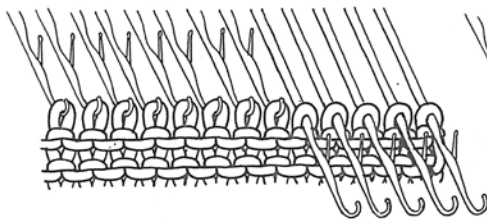
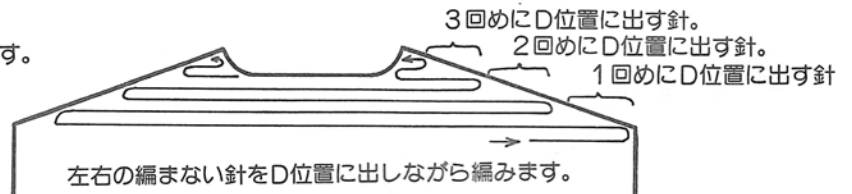
★針に糸を巻いた後で編むときは編む糸のたるみをとってから編んでください。

引き返し編の編み方

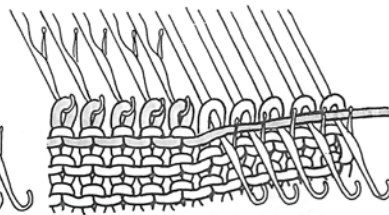
- 引き返し編は、ゆるやかな斜線や曲線を編むときに使います。

(編む部分を減らしていく場合)

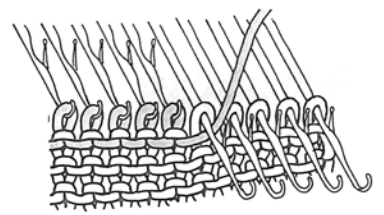
- 肩下がりやダーツを編むときに使います。



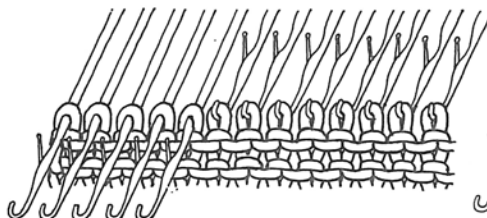
① キャリジのない側の編まない針をD位置へ出します。



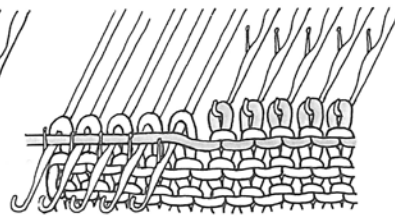
② 1段編みます。



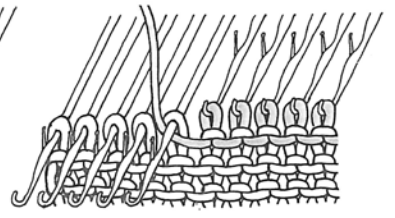
③ 編み終ったとなりのD位置に出ている針に糸を下からかけます。



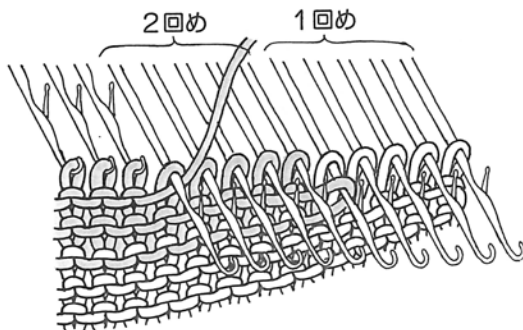
④ 反対のキャリジのない側の編まない針をD位置に出します。



⑤ 1段編みます。



⑥ 編み終った隣のD位置に出ている針に糸を下からかけます。

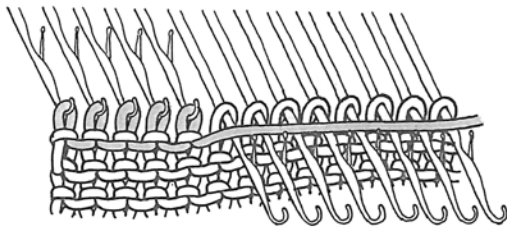
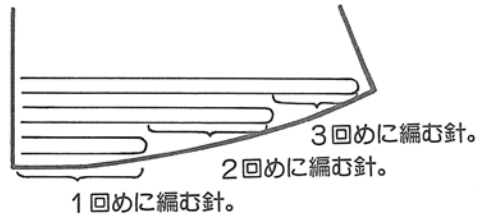


⑦ 次の休める針をD位置に出し1段編んで同じようにとなりのD位置の針に糸をかけます。以後、同じようにくり返して編んでいきます。

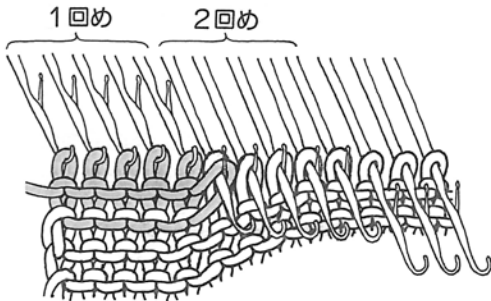
編まない針をD位置へ出すのは、いつもキャリジのない側でします。

(編む部分をふやしていく場合)

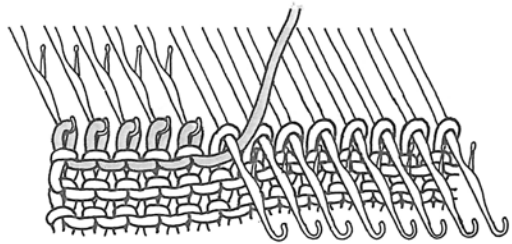
- スカートのすそなどを編むときに使います。



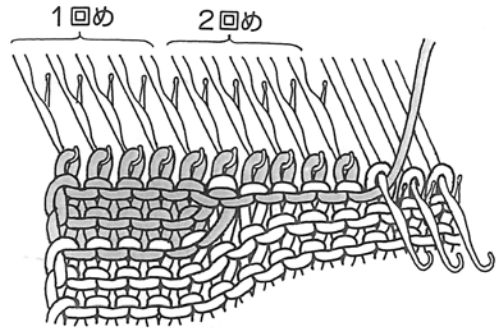
① キャリジのない側の編まない針をD位置へ出して1段編みます。



③ 1段編みます。これで1回めの引き返しができる。次に2回めの編む針をC位置に下げます。



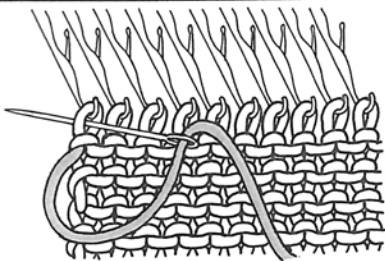
② 編み終わったとなりのD位置に出ている針に糸を下からかけます。



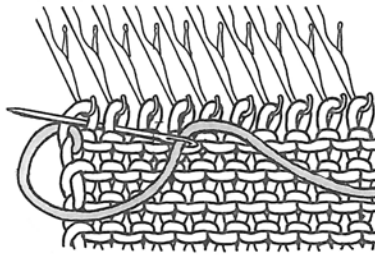
④ 1段編んで編み終わったとなりの針に糸を下からかけます。③～④をくり返します。

巻き止め

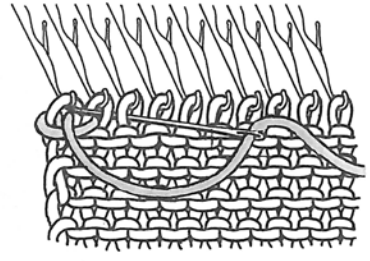
- 編み終わりの目をほどけないように止める方法です。編み終わりの糸端を編み幅の3倍ほど左側に残して切り、それをとじ針に通して使います。編み終わりの糸が左側にない場合は、適当な長さの糸を針に通して使います。



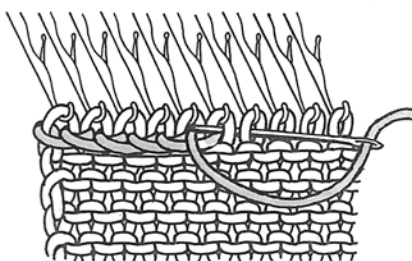
①



②

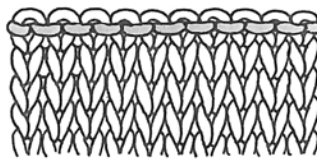


③



④

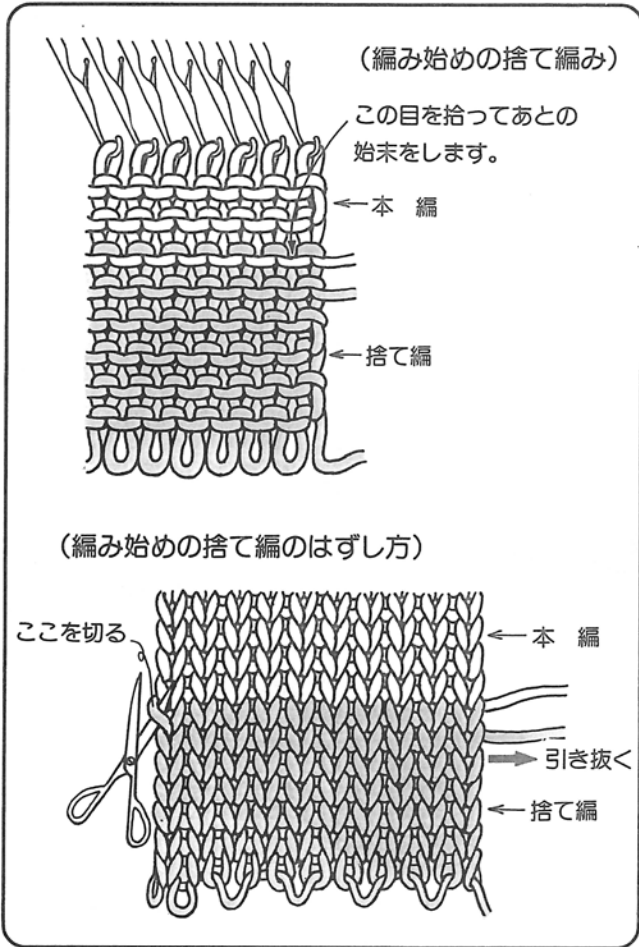
(出来上がり……表目側)



⑤

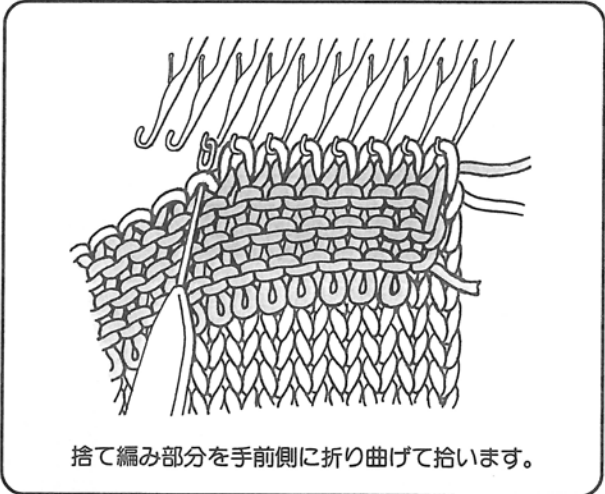
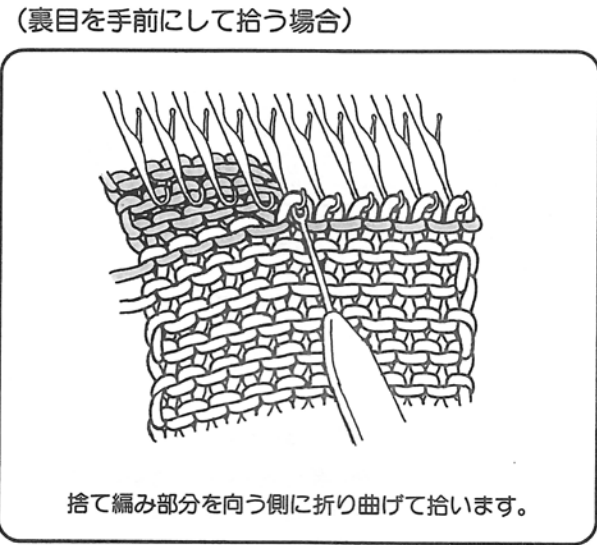
- 2枚の編み地を重ねて針にかけて巻き止めをすると、編み地と編み地をはぐことができます。肩のはぎや、そとと身ごろをはぐときなどに使います。

捨て編



- 作品をつくるときの編み始めと、編み終わりに使います。
 - 作品を編むとき、編み地の編み始めと編み終りは、編み目が不安定であとの始末がよく出来ません。そこで最初と最後に捨て編というものを次のようにします。
- ① 捨て編用の糸（不要な残り毛糸）で編み始め、メリヤス編を7～8段編みます。
 - ② 作品を編む糸で本編をします。
 - ③ 捨て編用の糸でメリヤス編を7～8段編み、編み地をはずします。（編み終わりを巻き止め等をした場合は、この捨て編は必要ありません。）
- はずした編み地は、捨て編との境の本編の目を拾って、カギ針で伏せ止めしたり、再び針にかけて編んだりします。
- すべて始末し終わってから、捨て編をほどいて取り去ります。
- 編み始めの捨て編は、ほどきにくいので、左図のように、捨て編の最後の1段を、糸端と反対側の糸を切ってから糸端を引いて抜きとりますと、簡単にはずれます。

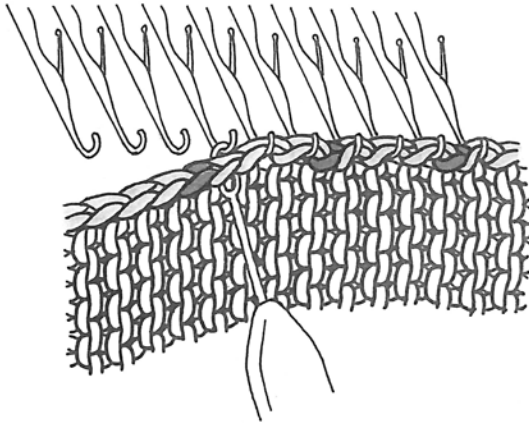
捨て編ではずした目を拾って編む場合



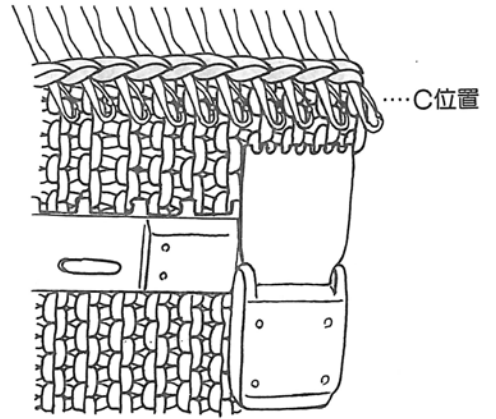
- いずれの場合も、拾い残しのないように、目数を確めて拾いましょう。

段から拾って編む場合

- えりや前立、縁どり等を編みつけるときに使います。又、そで付けに使うこともあります。



① 端の1目をウツシで拾って針にかけます。このとき全部の目を拾わずに、適当にとばして拾います。(約3目おきに1目位の割合とばしますが、糸の種類や編み方によって異なります。)

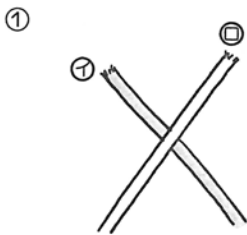


② 針にかけ終わりましたら、針をC位置に出してそろえます。(針を出すときは、編み地が前へ出てこないように手で押さえて出しましょう。)

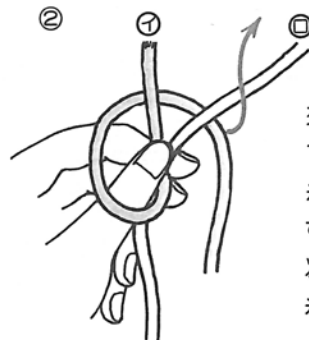
③ オモリと編み出し板をかけて編みます。

● 糸のじょうずなつなぎ方

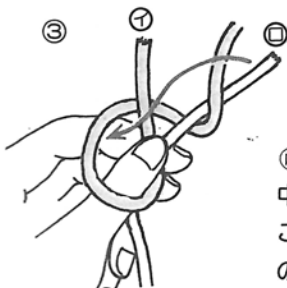
糸のつなぎ目が目立たない、ゆるまないつなぎ方です。下の図にそって結んでみましょう。



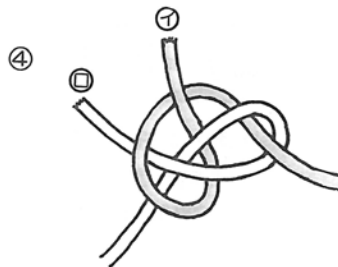
① 左手の人さし指の上で、図のように糸を交差させます。



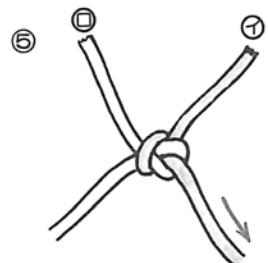
交差したところを親指で押さえ、右手で①の糸を図のように回します。次に、回した糸を②の糸に巻くようにします。



③ ②の糸を輪の中に通します。このとき左手の親指を輪から抜きながら右手の親指で②の糸を輪の中へ入れます。



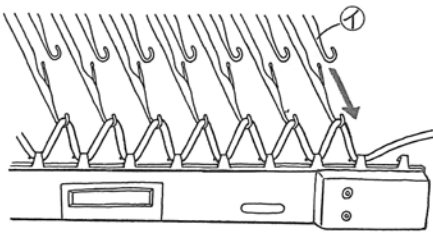
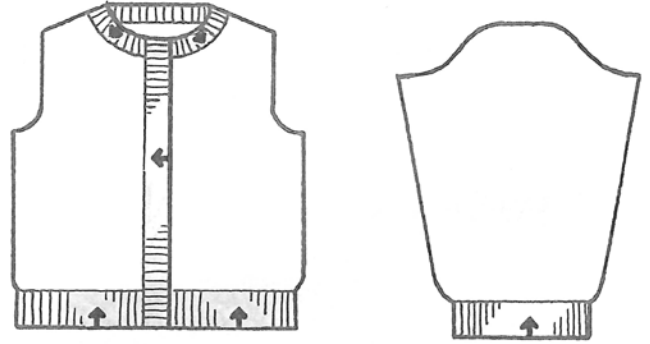
④ 輪の中に入れた糸は図のような状態になります。



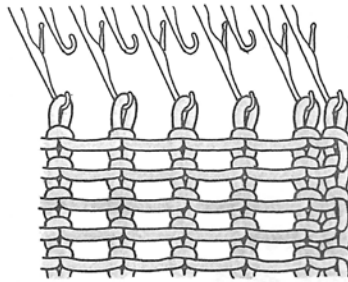
⑤ ①と②の糸を左手の親指で押えて矢印の方向へ引きます。

1目ゴム編の編み始め方

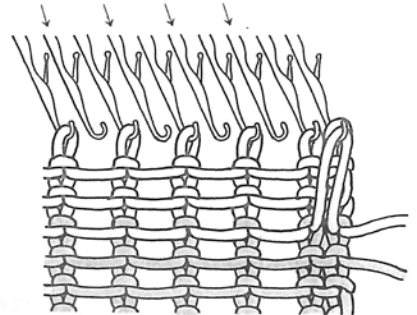
- プルオーバーやカーディガンのすそやえり、前立、袖口など、ゴム編部分から編み始める場合の編み方です。
- ゴム編部分は、編み目ダイヤルを身ごろ等よりも1~2つめて編みます。(例えば身ごろを10で編む場合は、ゴム編は8で編みます。)



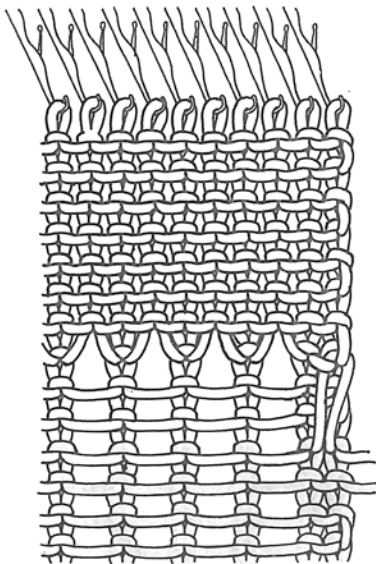
- ① 編む針をB位置に出し、左から2番めの針から1本おきにA位置にもどします。
捨て編糸で左から1段編み、編み出し板をかけます。
右端のとなりの①の針をB位置に出します。



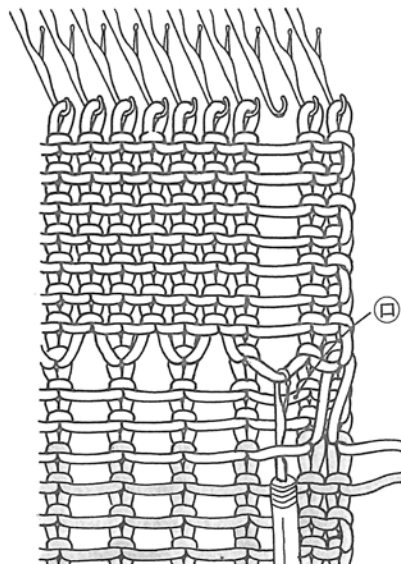
- ② 1本おきの状態で捨て編を数段編んでキャリジを右に置きます。



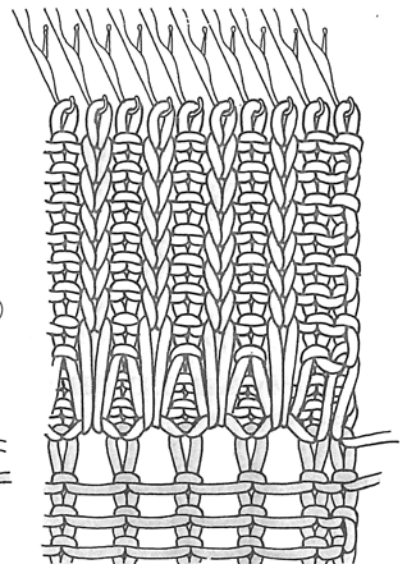
- ③ 編み目ダイヤルをゴム編目盛より更に2~3小さくして、本編みの糸で3段編みます。端の2目続いているところの3段下の下向きのループを拾って針にかけ、A位置の針をB位置に出します。



- ④ ゴム編の編み目ダイヤルでゴム編段数分だけ編みます。



- ⑤ 編み出し板とおもりをはずし、後から出して編んだ針の目をはずしてタツビで表目に直します。



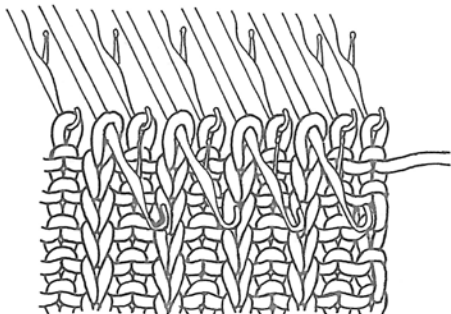
- ⑥ 1目おきに全部の針を表目に直します。

(ゴム編をきれいに仕上げるには)

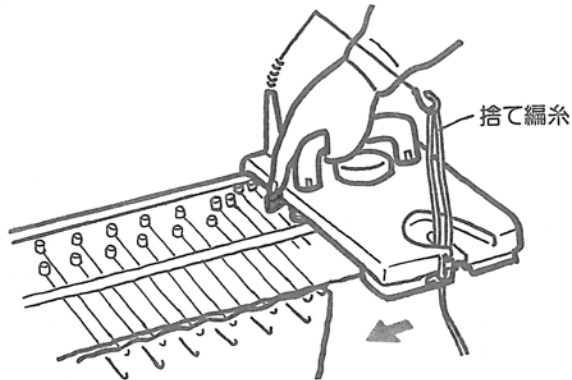
- 第1に、③で編む最初の3段を出来るだけ編み目ダイヤルをつめて編みます。
- もし、細めの糸で編み目ダイヤルがつかめられないときは、⑤のタツビ返しするとき、Ⓜの糸からタツビ返しを始めます。

1目ゴム編の編み終りの止め方

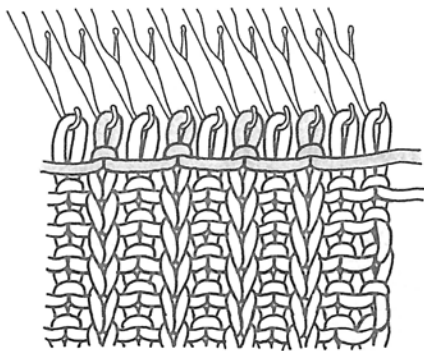
- 1目ゴム編の編み終りは、次のようにして、捨て編とゴム編止めをします。



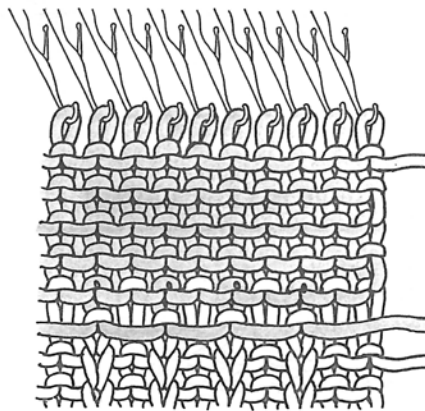
①ゴム編が終了したら、表目に直した針のみC位置に出します。



②空通しレバーを、指で手前へ押さえながら捨て編糸で1段編みます。

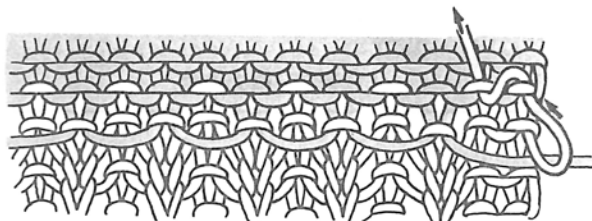


③C位置へ出した針のみ編みます。

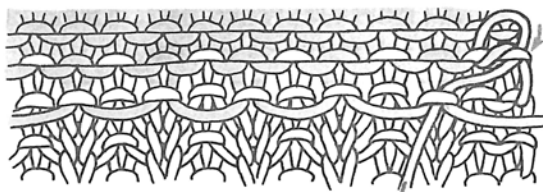


④捨て編を7~8段編み、編み地をはずします。

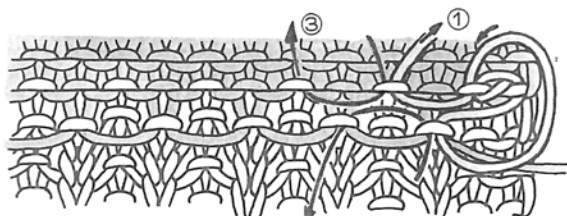
⑤はずした編み地のゴム編の最後の目を下図のようにとじていきます。



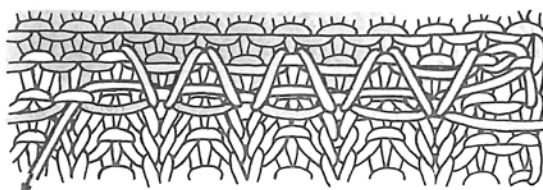
①



②



③

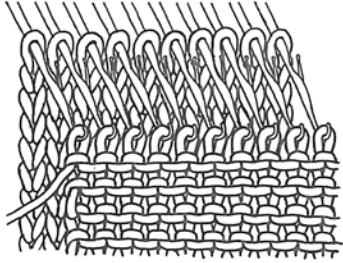


④

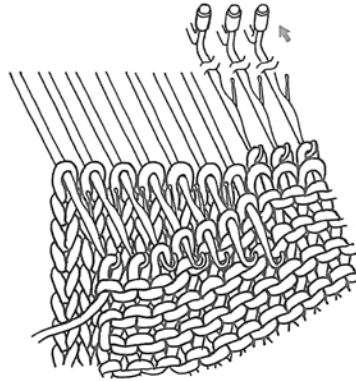
編み地のはぎ方

(編み機にかけてはぐ場合)

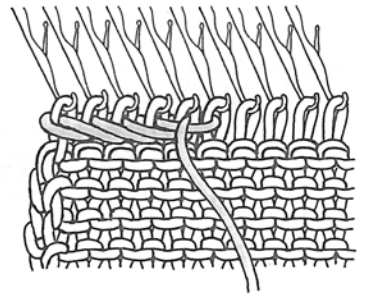
この方法は目と目、段と目をはぐときに使います。



① 2枚の編み地を中表（内側が表になるように重ねる）になるようにかけます。
針をD位置に出して、最初にかけた編み目を、ペラの向うへやり、次にかけた編み目はフックの中に残します。



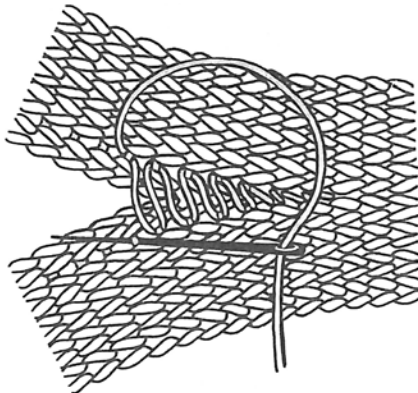
② 針を一度C位置へ戻し、次に端から手で1目ずつB位置に戻して、ペラ越しさせます。



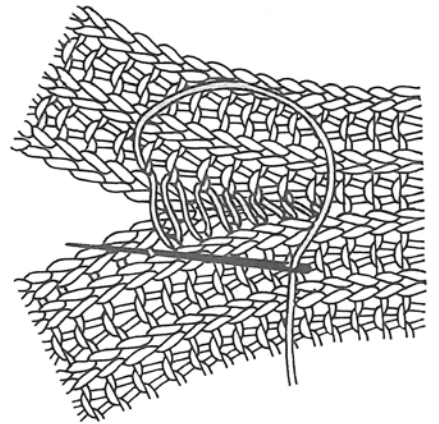
③ 左側から巻き止めをします。
巻き止めの方法は61頁参照

(手ではぐ場合) ……(1)すくいとじの方法

● わき、そで下のとじなどに使います。



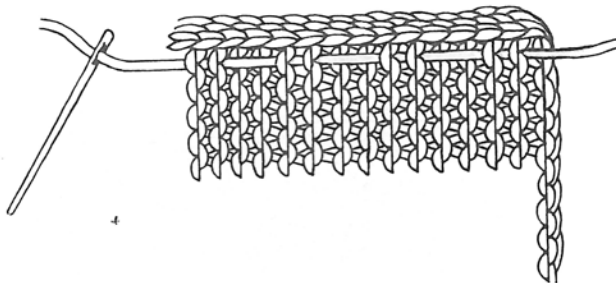
2枚の編み地の表を突き合わせに持ち、1目めと2目めの間の糸を1本ずつすくってとじます。



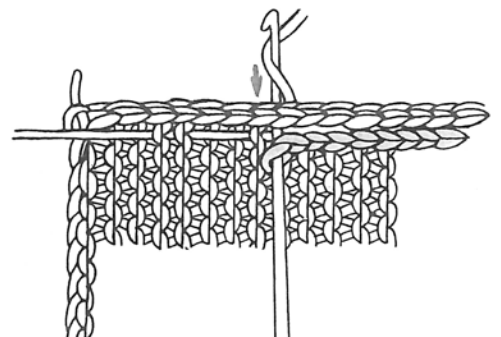
(1目ゴム編の場合)

(手ではぐ場合) ……(2)引き抜きとじの方法

● そで付けのときなどに使います。



① 中表に合わせた編み地を粗く仮縫いします。

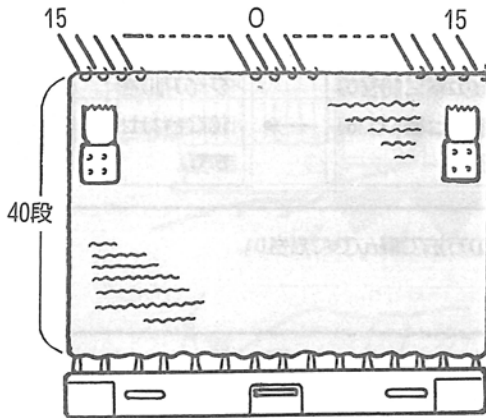


② カギ針で1目内側を引き抜き編をしていきます。

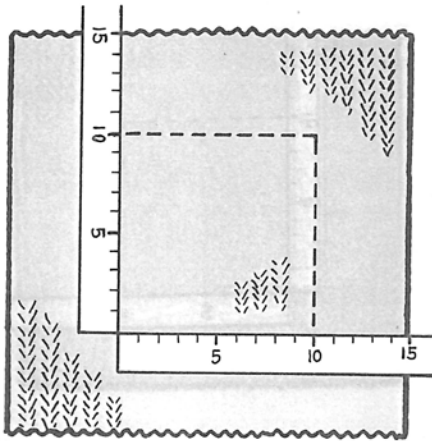
ゲージの計り方

- ゲージは編み目の大きさの基準を示すもので、10cmあたりの目数と段数で表します。ですからゲージの数が大きいほど目が細かく、小さいほど目が粗くなります。

(ゲージの計り方)



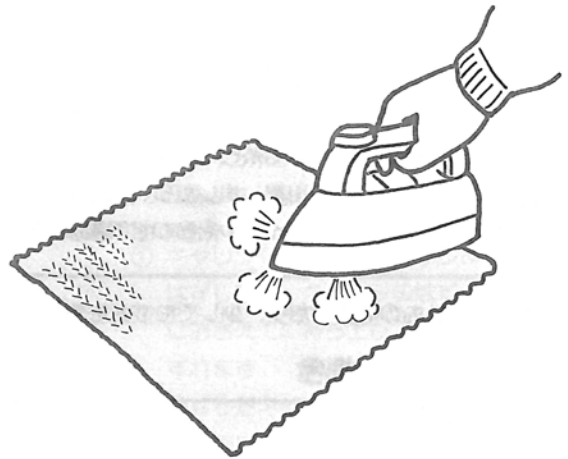
- ① まず、ゲージをとるための編み地を編みます。作品を編むのと同じ糸で30目程針出しをして編み出し、作品を編むのと同じ編み方、同じ編み目ダイヤルで、40段くらい編みます。編み地を編み機からはずします。



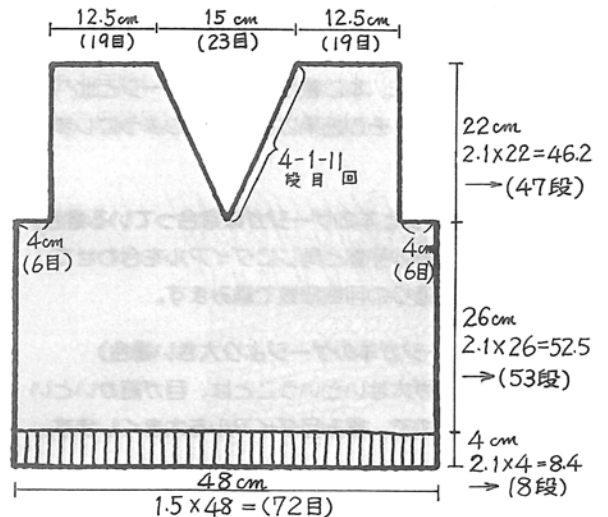
- ③ スケールをあてて、10cmあたりの目数と段数を編み地の中央付近で数えます。この数が、この編み地のゲージになります。

- 上記の方法は、極く一般的なゲージのとり方ですが模様編などの場合は、模様を単位にして、1模様が何cmというように表現する場合があります。

- 作品を編むときは、このゲージを基にして目数、段数を決めます。従って、作品を寸法通りに仕上げるには、ゲージをなるべく正確にとることが必要です。



- ② はずした編み地は、たて、横、斜めに手ですこし伸ばしたり、軽くたたいたりしてならします。スチームアイロンで蒸気をあて、仕上げの状態にします。(1日位放置してからすると理想的です。)



- ゲージが計れましたら、それを基にして、作品の目数と段数の計算をします。例えば、計ったゲージが、15目21段だった場合には、1cmあたりに直すと、
 $15\text{目} \div 10 = 1.5\text{目} \cdots (1\text{cmあたりの目数})$
 $21\text{段} \div 10 = 2.1\text{段} \cdots (1\text{cmあたりの段数})$
となり、これをそれぞれの寸法に乗じて、目数と段数を出します。

手あみの本を参考にして作品を編む場合

- この編み機の編み目ダイヤルの数字は、同じ号数の棒針で手あみをした場合の編み目とほぼ合うように作られています。そこで手あみの本をみて作品を編む場合には、次のようにして簡単に編み始めることが出来ます。



寸法をあまり気にしない場合

作り方の欄をみて、使用毛糸と、使用棒針の号数を確かめます。使用毛糸を用意したら、指定の棒針の号数と同じ数に編みダイヤルを合わせて編みます。

手あみの本に10号の棒針使用と書いてあったら



ダイヤルを10に合わせます。



注 指定の糸と異なるものを使ったり、少しでも寸法を気にする場合は、次の方法で編んでください。

寸法通り編みたい場合

- ① 使用糸は、作り方の欄に指定されている糸と同じ糸か、又は同じタイプの同じ太さのものを選んで用意してください。
- ② 用意した糸でゲージを計ります。
編み目ダイヤルは、作り方に示されている使用棒針の号数と同じ数に合わせます。
67頁のゲージの計り方を参照してゲージを計ります。
- ③ 計ったゲージを、本に書かれているゲージと比べてみてください。その結果によって次のようにします。

(計ったゲージと本のゲージがほぼ合っている場合)
そのまま棒針の号数と同じにダイヤルを合わせて、本の作り方通りの目数段数で編みます。

(計ったゲージが本のゲージより大きい場合)
ゲージの数が大きいということは、目が細かいということですので、編み目ダイヤルを大きくします。

(計ったゲージが本のゲージより小さい場合)
ゲージの数が小さいということは、目が粗いということですので、編み目ダイヤルを小さくします。

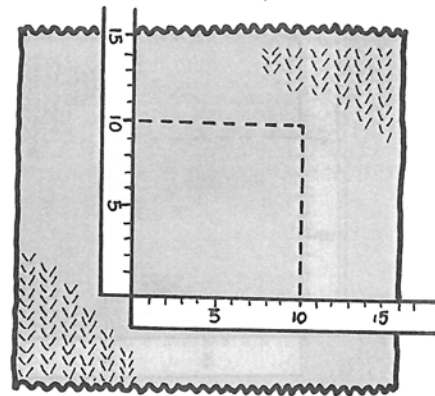
- 編み目ダイヤルの調節量は、目数の方を基準にして1目につき1目盛の見当で動かします。
- ④ 編み目ダイヤルを変えたら、もう一度ゲージを計り直して確かめてください。
- ⑤ 調節し直した編み目ダイヤルで作品を編みます。

(例えば、本に書かれているゲージが、15目21段で使用棒針が10号の場合には………)



編み目ダイヤルを、使用棒針と同じ10に合わせます。

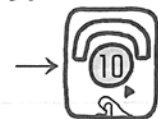
本に書いてあるのと同じ編み方で、作品を編む糸を使ってゲージを計ります。



自分で計ったゲージを本の指定ゲージとくらべて編み目ダイヤルを調節します。

本の指定ゲージ
15目21段

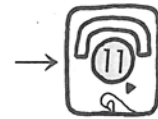
計ったゲージ
15目21.5段



棒針の
号数と
同じ

本の指定ゲージ
15目21段

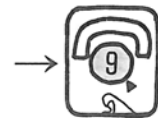
計ったゲージ
16目22.5段



大きく
する

本の指定ゲージ
15目21段

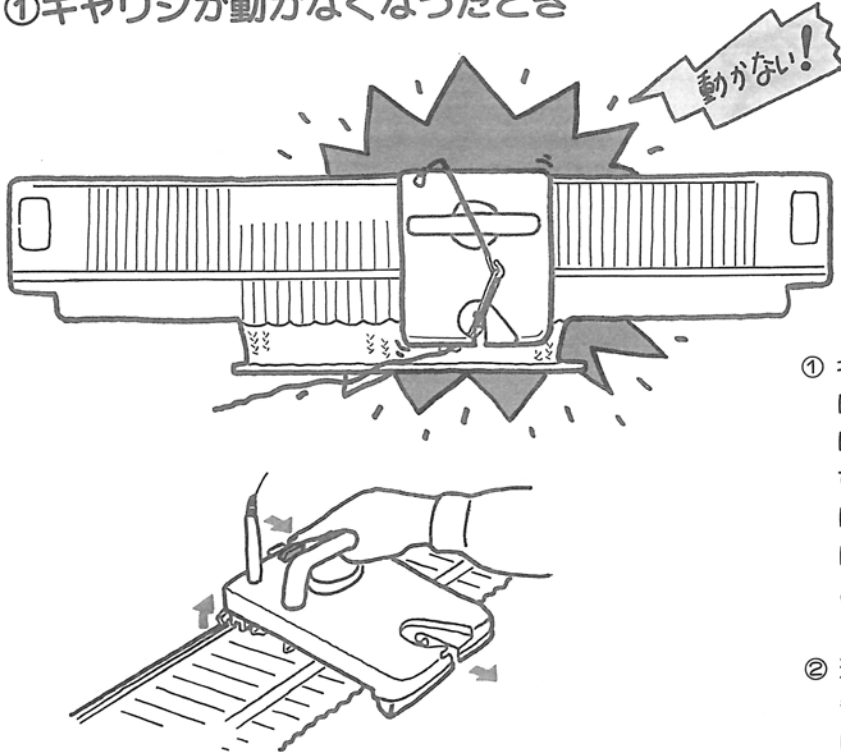
計ったゲージ
14目20段



小さく
する

こんなときには

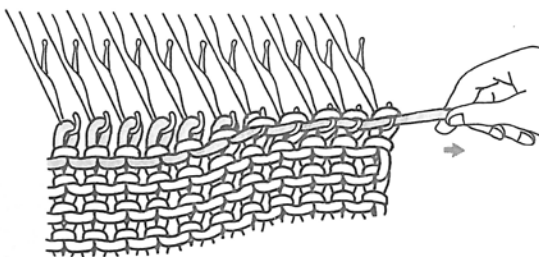
① キャリジが動かなくなったとき



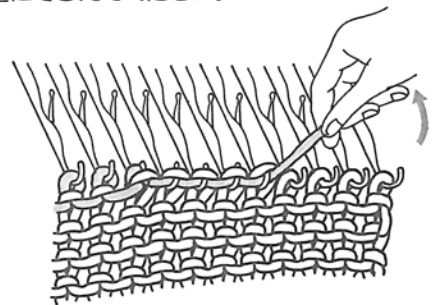
- ① キャリジを編み機からはずします。
はずし方は、キャリジのはずしレバーを手前におさえて、持ち上げながら前方に引くとはずれます。
はずしたキャリジは、右から左へ編んだときは右側に、左から右へ編んだときは左側にもどして編み機の端にセットします。
- ② 途中で編まれてしまった目は、端までほどこきます。ほどこき方は次の説明を読んでください。

② 編み目をほどこきたいとき

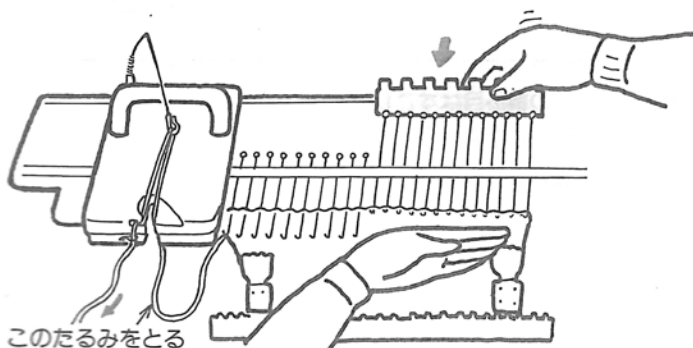
- まちがえて編んでしまったり、編み目をほどこきたいときは、次のようにします。
針が前へ出てしまっている場合は、編み目をフックにもどして針をB位置にそろえてください。



- ① 編み地が浮かないように注意しながら、糸端を持って真横に強く引きます。

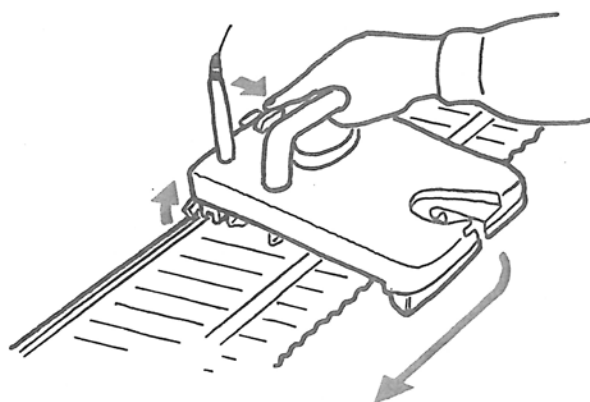


- ② 引っぱった糸を斜め上に持ち上げるようにすると、糸がほどこけます。



- ③ ほどこき終わったら手で編み地を押さえながらC位置に針をそろえましょう。
- ④ 段数計をほどこいた段数だけでもとします。
- ⑤ ほどこいた糸は、矢印の方向へ引きたるみを取ってから再び編み始めます。

③編まないでキャリジを移動させたいとき

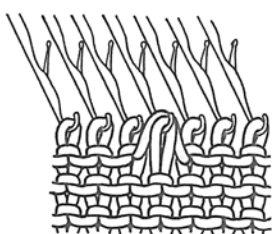


はずしレバーを押してキャリジをはずして反対側へ移動します。

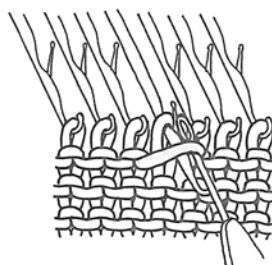
キャリジをはずしたり、取り付けたりする方は5頁をみてください。

④編み目が落ちたとき

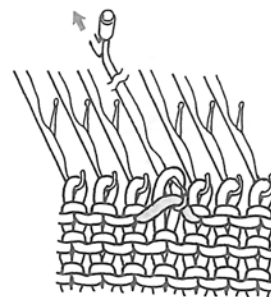
(1段落ちた場合)



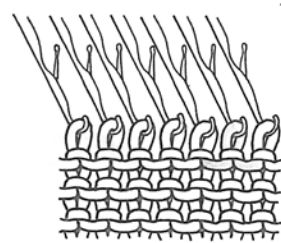
①1目のうつしを落ちた編み目の1段下の編み目に入れ、落ちた編み目と共に針のフックにかけます。



②針を前に出し、下の編み目だけペラの後ろにずらし、最後の段の横糸はフックの中に残します。



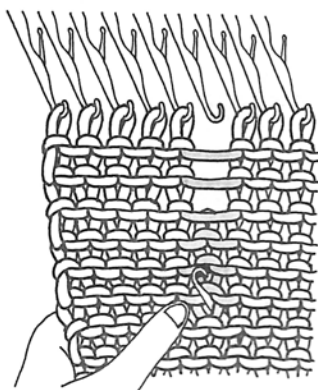
③針のコロを指先で押しもどします。



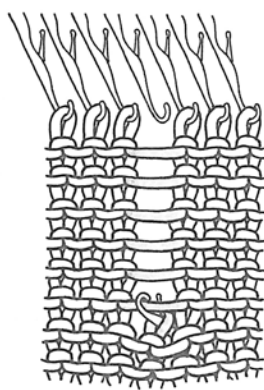
④ペラの後ろの編み目がフックの中からすべり落ちて最後の編み目ができま

※編み目が2~3段落ちた場合も同じ要領で編みます。

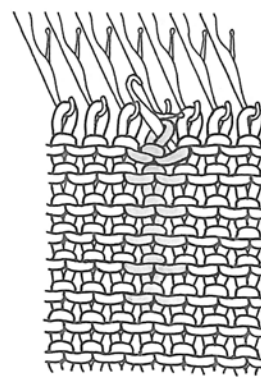
(数段落ちた場合)



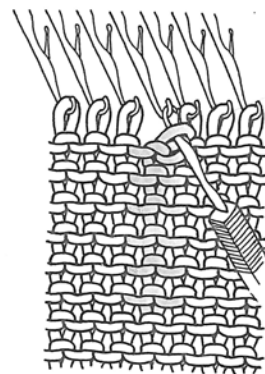
①タッピを編み目の裏側から落ちた目の2~3段下の編み目に入れ、タッピを入れた目までほどきます。



②上の段の横糸をフックにかけ、タッピを引きます。これをくり返します。



③一番上の段まで編み、最後の編み目はすこし強く引いて左手で持ち、タッピをはずします。



④手前からその目を拾って針にかけます。

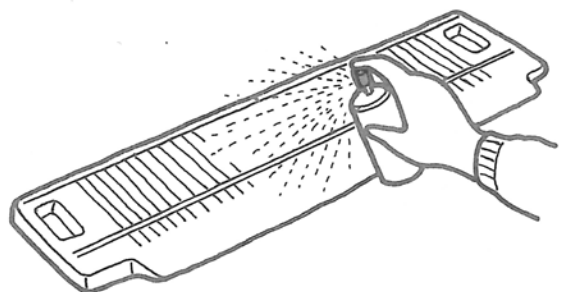
⑤ キャリジを動かすのが重い場合

次のような場合が考えられますので、それぞれ原因を探した上適切な処置をしてください。

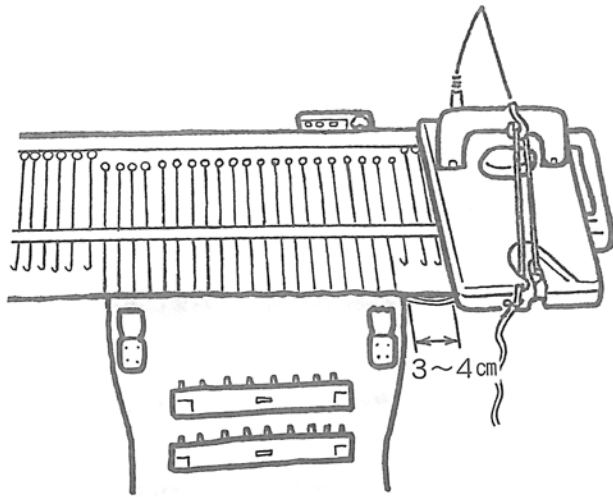
(原因)

(処置)

- 毛糸を玉巻きのまま使っている。……………毛糸は、必ず手でほぐしてから使ってください。玉巻きの中心部分は、特に糸がよく出てきませんのでキャリジが重くて動かなくなる大きな原因の一つです。
- 毛糸が何かに引っかかっている。……………毛糸がキャリジの糸口まで正しく無事に通っているか確認してください。
- 編み目ダイヤルが毛糸の太さに合っていない。……………使用糸に合った編み目ダイヤルに変えてください。(6頁を参照)
- キャリジが編み地を完全に通りぬけるまで動かして……………キャリジを途中でもどすとキャリジが動かなくなったり動いても正常に編めません。
- 針のコロの部分キャリジにぶつかっている。……………針が、A、B、C、Dの正しい位置以外に出ていますとキャリジがその針にぶつかって動かなくなります。ぶつかっている針がありましたら正しい位置に移します。
- 毛糸の素材が非常にすべりが悪いものか、ネップが……………この編み機に適しない糸が、まれにあります。その時は糸を換えてください。(すべりが悪い糸の場合は別売のスプレーを毛糸や編み機に軽くかけると効果がある場合もあります。ただし、かけすぎないように注意。)
- 毛糸に結びめがある。……………超極太以上の太い糸の場合は、結び目のところでキャリジがガツンと止ってしてしまうことがあります。そのような糸の場合は、結び目を編み地の端で処理するようにしましょう。(14、63頁参照)
- キャリジの裏に糸くずやゴミなどがついている。……………キャリジをはずして見てみましょう。乾いた布できれいにした上で、付属のスプレーを軽く吹きつけておきます。
- 針がこわれている。……………こわれている針がみつかったら、72頁をみて、針を交換してください。
- 全体に油がまみれている。……………全体的に操作が重い場合は、潤滑剤がまみれていることが考えられます。別売のスプレー(ニッティングスーパー)を編み機全体(特にミソや針のコロの部分)、及びキャリジの裏側の摺動部分に軽く吹きつけてください。



⑥端の目がはずれたり、ところどころ目が浮く場合

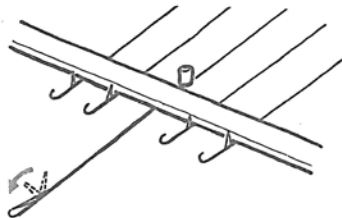


- ① オモリが編み地の端にかかっていないとよく編めません。なるべく端にかけるようにしてください。又、編み出し板は、編み始めの目を作る働き以外に、おもりの役目もしていますので、編み出し板が下の方になっけたり、はずれてしまった場合には、上の方にかける直してください。(横に並べてかけられないときは、上下に並べてかけます。)
- ② キャリジを左右に動かすすぎると、糸にたるみが出来て目がはずれる原因にもなります。編み地から3~4cm位はなれたところでもどすようにしましょう。
- ③ キャリジへの糸の通し方がまちがっていても目が落ちたり、浮いたりして編むことが出来ません。変だと感じたときは、もう一度確認してみてください。

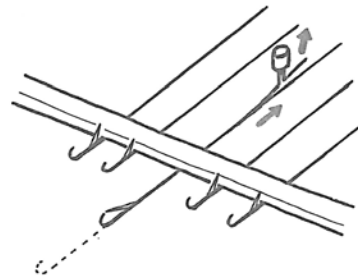
⑦メリヤス針がこわれたとき

- こわれた針は下図のようにして編み機からはずし、良い針と交換します。交換用の針は、販売店でお買い求めになるか、端のあまり使わない針を抜いてきて使います。

(メリヤス針のはずし方)

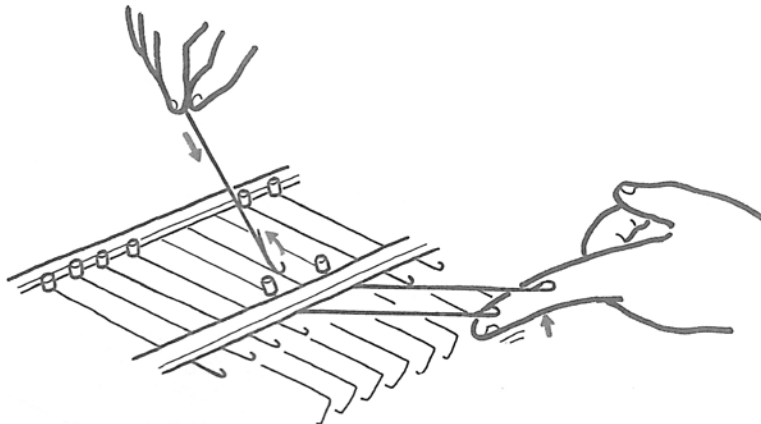


①針を前に出してペラを閉じます。



②コ口を持ち上げながら針を後ろに、引き抜きます。

(メリヤス針の入れ方)

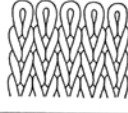
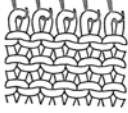
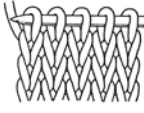
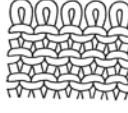
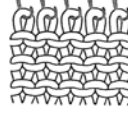
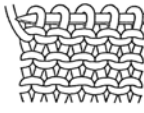

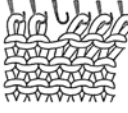
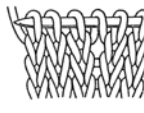

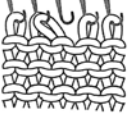
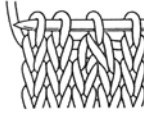

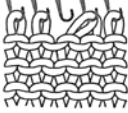



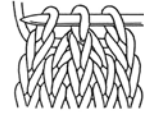
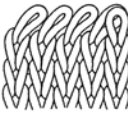
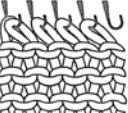
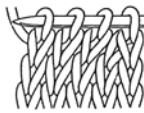
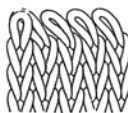
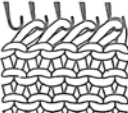








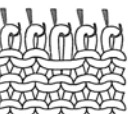









- ①抜いた針の両どりの針をD位置に出し持ち上げておきます。
- ②良い針のペラを開いて抜いた針のところへ入れます。

⑧編み機がよごれたとき

- 編み機がよごれてしまったときには、まず、乾いた布でふいてください。それでも落ちないよごれは、中性洗剤の溶液をしみこませた布でふきとってください。
- シンナー、ベンジン、ガソリンなどは使わないようにしてください。

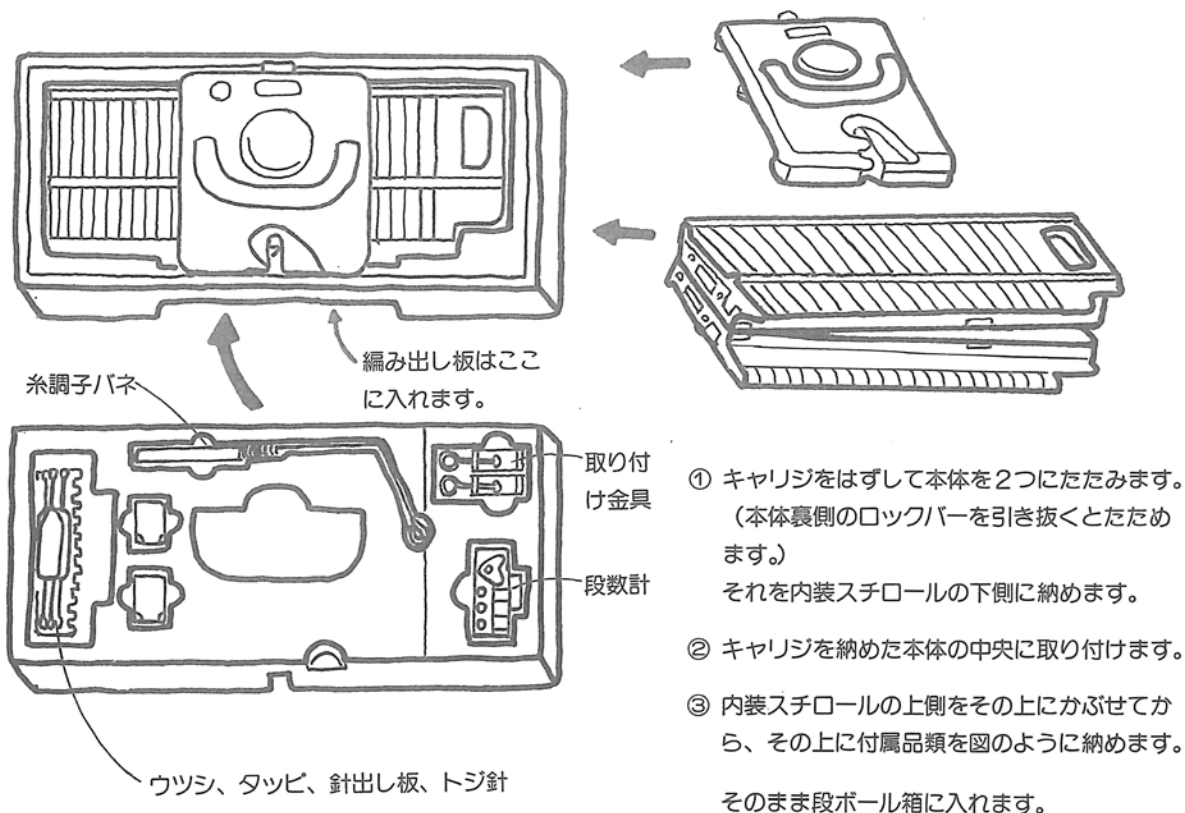
編 目 記 号 表

記号	名称	意味	編み機の場合	棒針編の場合
	表目 (おもてめ)	キャリジを動かして出来る目、向う側から見た目。	 	
—	裏目 (うらめ)	キャリジを動かして出来る目、手前側から見た目。	 	
○	かけ目 (かけめ)	目を移して出来る穴(次の段を読むと針に糸がかかってかけ目になる)。	 	
入	右上2目一度 (みぎうえにめいちど)	右の目を左の目の上に重ねる。	 	
人	左上2目一度 (ひだりうえにめいちど)	左の目を右の目の上に重ねる。	 	
十	中上3目一度 (なかうえさんめいちど)	中央の目の上に左右の目を重ねる。	 	
/	右寄せ目 (みぎよせめ)	減らし目又は増し目により、左へ移動させる(表から見ると右)。	 	
\	左寄せ目 (ひだりよせめ)	減らし目又は増し目により、右へ移動させる(表から見ると左)。	 	
×	右上交差目 (みぎうえこうさめ)	右の目を上にして交差させる。	 	
×	左上交差目 (ひだりうえこうさめ)	左の目を上にして交差させる。	 	
V	すべり目 (すべりめ)	編まずに裏目側に糸が渡っている目(記号の下端の目が引き上がる)。	 	
∨	浮き目 (うきめ)	編まずに表目側に糸が渡っている目(記号の下端の目が引き上がる)。	 	
∩	引き上げ目 (ひきあげめ)	記号の下端の目と、その上の段の糸を一緒にかける。	 	

(メモ)

(メモ)

しまい方



- ① キャリジをはずして本体を2つにたたみます。
(本体裏側のロックバーを引き抜くとたため
ます。)
それを内装スチロールの下側に納めます。
- ② キャリジを納めた本体の中央に取り付けます。
- ③ 内装スチロールの上側をその上にかぶせてか
ら、その上に付属品類を図のように納めます。
そのまま段ボール箱に入れます。

修理サービスのご案内

★ 修理サービスのご相談

1. この編機のご購入には、当社(保証責任者)から1年間の無料修理を保証するシルバー編機保証書が発行されています。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは、無料修理期間内および期間経過後も販売店または当社支店、出張所等が承りますのでご相談ください。
3. 修理サービスについて、ご不審がある場合は別掲の当社支店、出張所または下記の消費者相談窓口へお申し越してください。

シルバー精工株式会社
編機国内事業グループ
東京都新宿区新宿1-28-15 SR新宿ビル9F
〒160 ☎ 03(3356)6116

★ 修理用部品の保有期間

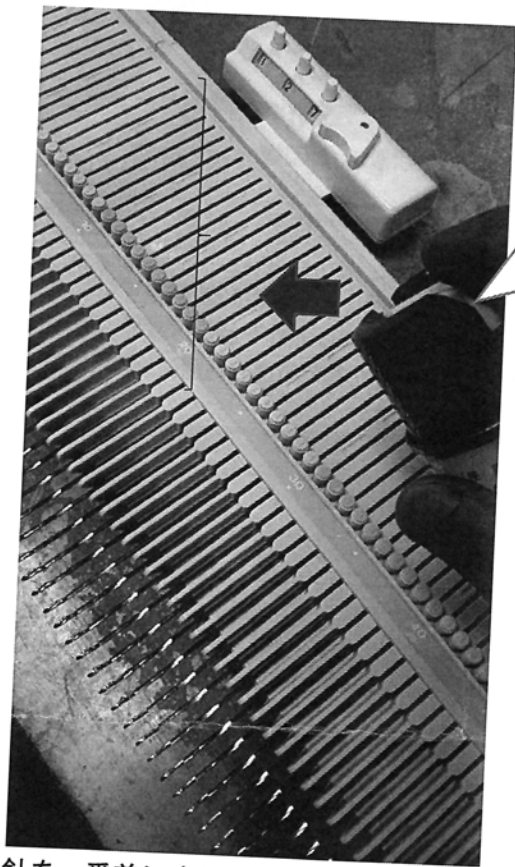
修理に必要な機能部品は、通常ご購入の日から5年間を基準にして当社において保有しております。

★ 無料修理期間経過後の修理サービス

1. ガイドブック(使用説明書)に基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理期間(保証期間)を経過し

ても修理用部品の保有期間中は、販売店または当社支店、出張所等を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合には有料でも修理できない場合がありますので、販売店または当社支店、出張所等にご相談ください。

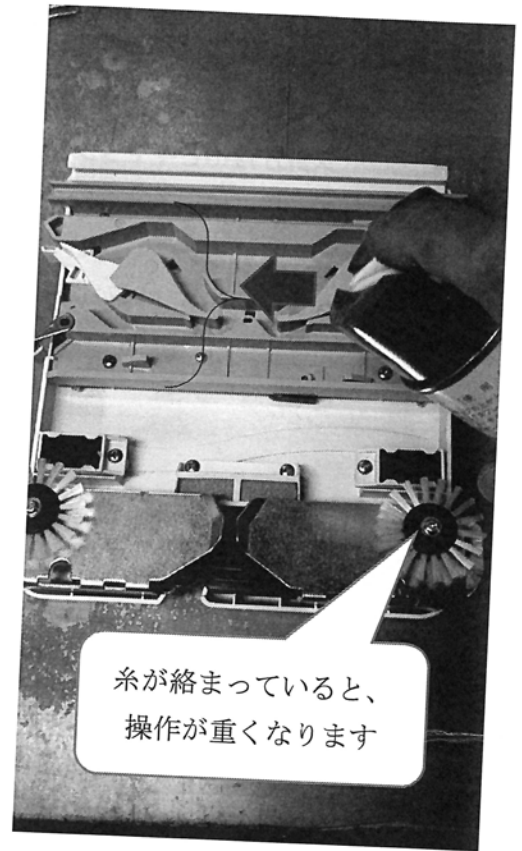
- (1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - (2) 浸水、冠水等天災地変により、不調、故障または損傷したとき。
 - (3) ご購入後の移動または輸送により、不調、故障または損傷したとき。
 - (4) 販売店または当社(支店、出張所および工場)以外で修理分解または改造したため不調、故障または損傷したとき。
 - (5) 職業用等過度なご使用により、不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用された編機の精度の劣化は修理によっても、もとどおり修復できないことがあります。
 3. 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代、交通費および技術料の合計額といたします。



針を一番前に出して、溝板全体に
スプレーして下さい。

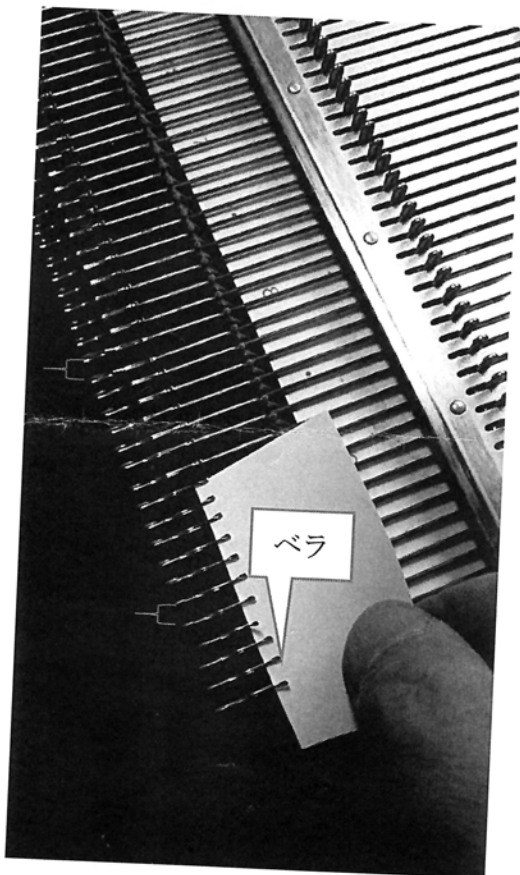
プラスチック編機には
ニッティングスコーパーをご使用下さい

鋼板編機は編機油をご使用下さい



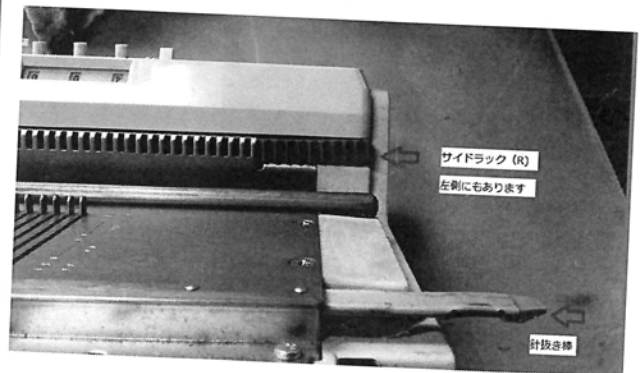
糸が絡まっていると、
操作が重くなります

キャリジの裏のプラスチック箇所
にスプレーして下さい。
円ブラシもこまめにチェックして下さい。



ベラ

針を一番前に出した時に、均等の間隔でない
針は曲がっています。ベラを後ろに倒し、
紙で起こすとスムーズに動く針はOKです。

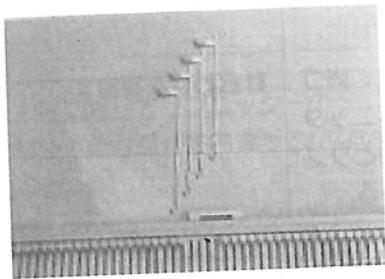


パンチカード式編機はサイドラックと針抜き棒
をチェックして下さい。針抜き棒はスポンジが
へたっていると、針が浮いてキャリジにぶつかり
編めなかったり、針を曲げてしまいます。

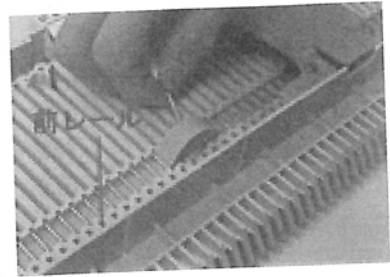
(株)シルバーリードサービス
〒35-0025 埼玉県所沢市上安松 910-1
TEL04-2997-5061 FAX04-2992-8601

針を押えている針ブレーキのスポンジが劣化して薄くなった場合、メリヤス針が浮いてキャリジに針があたりキャリジが動かなくなります。その場合、針ブレーキを交換します。

- ① 本体の10~20目付近の3~4本のメリヤス針をはずします。

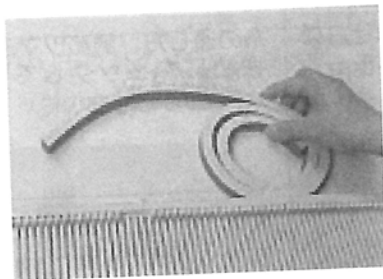


- ② 本体を裏返し、前レール付近の針をはずしたところから引き抜きます。残りの針を全部はずし、汚れを拭き取り、油を含ませた布で拭き、色別に分けておきます。

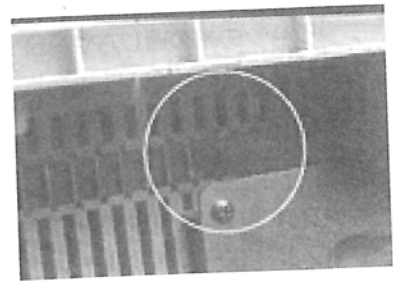


(本体裏側)

- ③ 本体の裏から針ブレーキの布面を上にして左右バランス良く入れます。



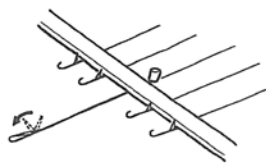
- ④ 本体を表にし中心部から針を1本ずつ元の色別に入れます。針を入れるときは、針ブレーキをすくい上げるように入れます。



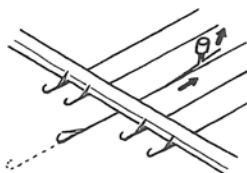
(本体裏側)

メリヤス針の交換方法

メリヤス針のはずし方

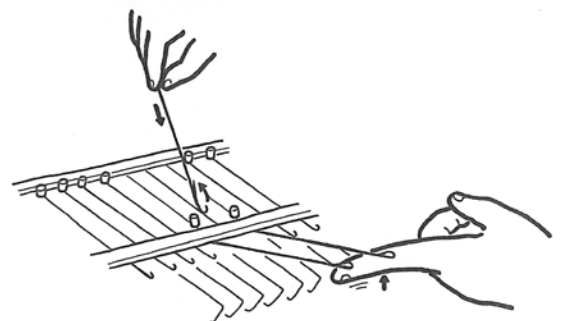


- ① 針を手前を出してペラを閉じます。



- ② コロを持ち上げながら針を後ろに引き抜きます。

メリヤス針の入れ方



- ① 抜いた針の両どりの針をD位置に出し持ち上げます。
② 新しい針のペラを開いて抜いた針のところへ入れます。

シルバー精工株式会社

〒160 東京都新宿区新宿 1-28-15 SR新宿ビル9F
TEL.03-(3356) 6116

あみむめも *P's*
PRESENT WITH MY HEART